

地域連携テクノセンター活動紹介誌・福井高専シーズ集

JOINT2022

— 地域との連携をめざして —



「地域連携テクノセンター30 周年を迎えて」



福井工業高等専門学校
地域連携テクノセンター長

松 井 栄 樹

地域連携テクノセンターの前身となる先進技術教育センターが本校に設置されたのが 1991 年（平成 3 年）のことであり、今年 30 周年となる節目の年でもあります。当初は地域の方々や地域企業への高度教育研究やリフレッシュ教育の場の提供を目的としていましたが、地域社会からの要請もあり、組織的な産官学交流を通して地域産業、社会に貢献するという大きな目標を掲げ、地域企業との共同研究や技術相談、県内の産官学金連携事業の窓口、実施主体としての活動を継続して行ってきました。また、改修されたテクノセンター棟には、立ち寄りやすい産官学の連携活動の場を醸成できればとの思いから、地域支援室、地域連携セミナー室、展示・交流ホールなどを整備しています。

一方、本校の教育研究を支援いただいている地域連携アカデミアの前身となる教育研究振興会が結成されたのは平成 6 年度のことであり、こちらも 25 年以上の活動期間となっています。昨年度、一つの区切りとなる 100 社以上の会員企業に賛同いただけるようになり、教育研究に対する資金援助のみならず、本校学生の PBL 教育やキャリア教育等に対しても、企業技術者の方々に幅広く協力いただいております。連携の輪が広がっているところです。大変ありがたいことであると感謝するとともに、引き続き本校へのご支援をよろしくお願いいたします。

さて私たちが 30 歳というと、社会に羽ばたくための準備期間が終わり、これまでに培った能力や個性を生かして自身の存在意義を確立していこうとする段階なのではないかと思います。テクノセンターも同様に、これまでに蓄積してきた教職員の強みと特徴、保有する設備を活かして、積極的に地域の皆様と技術交流、情報交換をし、存在意義を確立していくことが必要となっています。

一緒に何かを「する」必要なんか少しも感じないで、しかも一緒に「いる」ということ。シュワルツのいう結婚の本質に到達するのは、容易なことではなく、長い期間がかかることですが、地域社会の一員として当たり前のように一緒にいる状態こそが、地域貢献の本質なのだと感じており、これからは皆様とかけがえのない関係性を築いていければと思っています。

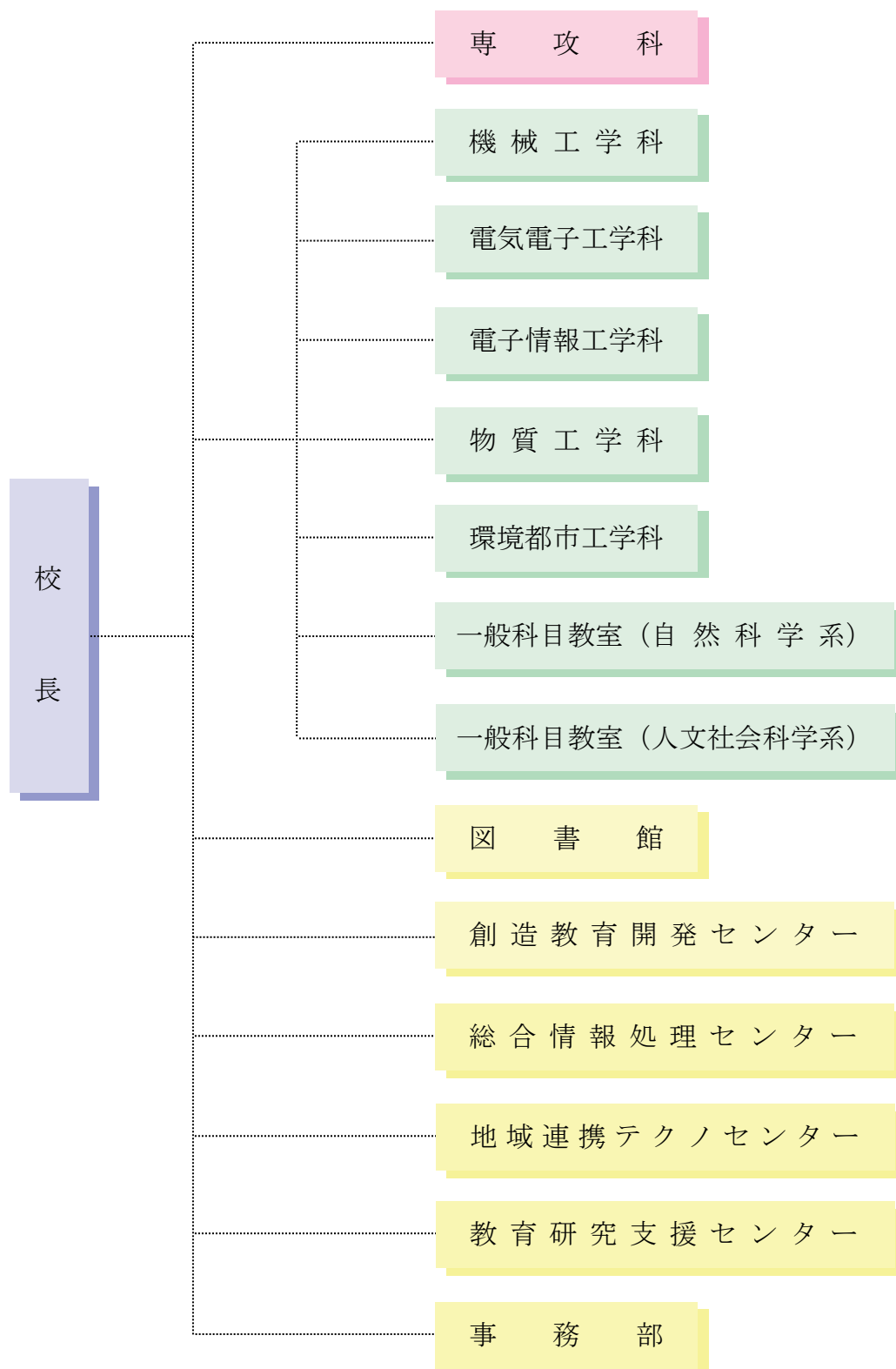
この「JOINT2022」には、本校教職員が試行錯誤しながら取り組んでいる教育研究に関するシーズが詰まっています。この冊子をご覧になり、興味がある事項についてお気軽にお問い合わせいただければ、本校教職員がお話を伺って問題、課題を共有し、ともに解決に向け取り組みます。

私たちはこれからも皆様とともに歩み、一緒に成長していきたいのです。

目 次

1. 福井工業高等専門学校組織図	1
2. 地域連携テクノセンターの概要	2
沿革	2
組織	3
施設	4
2022年度活動予定	6
地域連携テクノセンターの保有機器	7
3. 地域社会との連携事業	
福井高専リサーチアドミニストレーター紹介	10
第16回越前市ロボットコンテストへの協力事業	12
「高専カフェ」開催	13
北陸技術交流テクノフェア2021の出展・参加	14
JOINTフォーラム2021開催	14
第27回マグネットコンテスト開催	15
「ふくい知財フォーラム」セミナーへの参加	15
高専ライブでの教養講座の実施	16
福井高専ビジネスアイデアコンテスト2021開催	17
4. 技術相談	18
5. 共同研究	22
6. 受託研究	25
7. 寄 附 金	27
8. 福井高専地域連携アカデミア	29
9. 福井高専のシーズ	35

1. 福井工業高等専門学校組織図



2. 地域連携テクノセンターの概要

福井工業高等専門学校は、平成3年度に「先進技術教育研究センター」を設置し、校内の教育研究体制を充実させるとともに、地域企業との共同研究及び技術相談の促進を行なってきました。

平成16年4月に伝統産業支援室を開設し、翌17年4月に同センターを「地域連携テクノセンター」と改称した後も地場産業支援室やサテライトラボ（企業の方への貸し出し実験スペース）の設置など、地域に根ざした人材の育成と技術支援を目指し様々な取り組みを行っています。平成18年度には当センター内に「地域・文化」「環境・生態」「エネルギー」「安全・防災」「情報・通信」「素材・加工」「計測・制御」の7部門を設け、より分かりやすく、より相談しやすい受入れ体制を整えました。

また、平成19年度にはアントレプレナーサポートセンターを開設し、起業家育成と事業創出の支援を行なっています。

さらに、平成25年度及び令和元年度には地域連携テクノセンターの改修工事が完了し、令和2年度に地域支援室を設置、展示・交流ホールを整備し、より一層利用しやすくなりました。

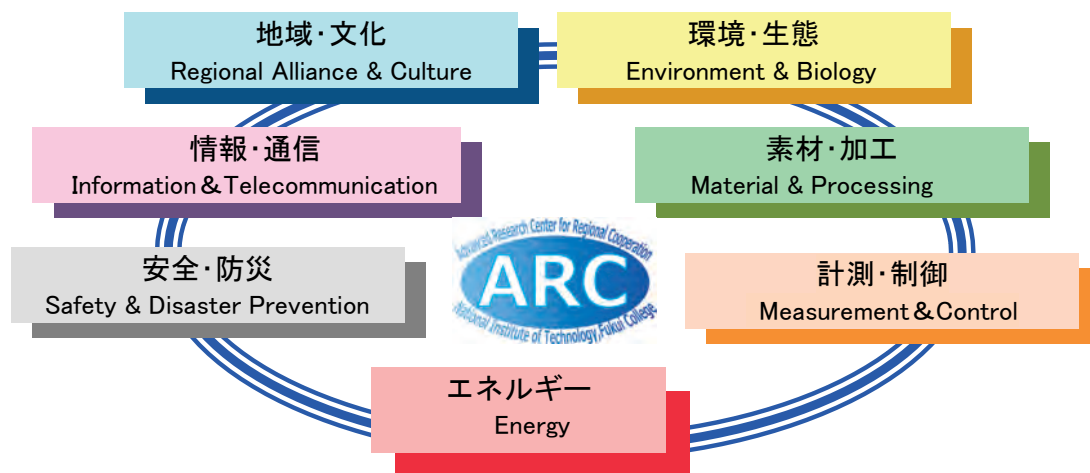
沿 革

平成3年度	「先進技術教育研究センター」設立 共同研究発表会開始
平成5年度	高度技術者研修開始
平成6年度	教育研究振興会結成
平成7年度	マグネットコンテスト開始
平成8年度	活動紹介誌「JOINT」発行開始
平成10年度	福井県地域研究開発促進拠点事業(RSP事業)開始
平成11年度	ラジオキャンパス開始
平成12年度	JOINTフォーラム開始 福井県地域結集型共同研究事業開始
平成15年度	福井県都市エリア型共同研究事業開始
平成16年度	伝統産業支援室の設置 さばえめがねワク waku コンテスト開始(～23年度)
平成17年度	「地域連携テクノセンター」に名称変更 地場産業支援室の設置 教育研究振興会を地域連携アカデミアに改組
平成19年度	「アントレプレナーサポートセンター」設置
平成22年度	ふくい防災マップコンテスト開始(～23年度)
平成25年度	地域連携テクノセンター リニューアル
平成26年度	鯖江市防災士養成講座開講
令和元年度	地域連携テクノセンター リニューアル
令和2年度	地域支援室の設置 展示・交流ホールの整備

組 織

Advanced Research Center for Regional Cooperation (ARC)

本センターには7つの研究部門があります。



職 名	氏 名	所 属	メールアドレス
センター長 (併任) 教 授	松井 栄樹	物 質 工 学 科	eiki@fukui-nct.ac.jp
副センター長 (併任) 准教授	金田 直人	機 械 工 学 科	kaneda@fukui-nct.ac.jp
副センター長 (併任) 講 師	村田 知也	電子情報工学科	murata@fukui-nct.ac.jp
地域・文化部門長 (併任) 准教授	長谷川智晴	一般科目教室	hasegawa@fukui-nct.ac.jp
同 副部門長 (併任) 助 教	川畑 弥生	一般科目教室	kawabata@fukui-nct.ac.jp
環境・生態部門長 (併任) 准教授	後反 克典	物 質 工 学 科	gotan@fukui-nct.ac.jp
同 副部門長 (併任) 准教授	坂元 知里	物 質 工 学 科	sakamoto@fukui-nct.ac.jp
エネルギー部門長 (併任) 准教授	高久 有一	電子情報工学科	takaku@fukui-nct.ac.jp
同 副部門長 (併任) 教 授	芳賀 正和	機 械 工 学 科	hmt1@fukui-nct.ac.jp
安全・防災部門長 (併任) 准教授	樋口 直也	環境都市工学科	higuchi@fukui-nct.ac.jp
同 副部門長 (併任) 教 授	田安 正茂	環境都市工学科	tayasu@fukui-nct.ac.jp
情報・通信部門長 (併任) 准教授	小越 咲子	電子情報工学科	ogoshi@fukui-nct.ac.jp
同 副部門長 (併任) 准教授	佐々 和洋	物 質 工 学 科	sasa@fukui-nct.ac.jp
素材・加工部門長 (併任) 准教授	西野 純一	物 質 工 学 科	nishino@fukui-nct.ac.jp
同 副部門長 (併任) 教 授	常光 幸美	物 質 工 学 科	jyoko@fukui-nct.ac.jp
計測・制御部門長 (併任) 教 授	亀山建太郎	機 械 工 学 科	k_kame@fukui-nct.ac.jp
同 副部門長 (併任) 講 師	村田 知也	電子情報工学科	murata@fukui-nct.ac.jp

施設

地域支援室

福井県の丹南地域は、眼鏡枠を始め、繊維・染色産業・セラミックスや自動車関連、化学工業などの生産地でもあり、これらの地場産業は福井の経済を支える大きな位置を占めています。また、古くから越前和紙、越前漆器、越前打ち刃物、越前焼き（陶芸）の4つの伝統産業が栄え、地場産業の基盤を支える大きな拠点となっています。

地域支援室では、原子力人材育成、農工連携、地域企業との共同研究、外部資金獲得のための教育研究スペースなど、地域のテクノサポートセンター拠点となるべく、令和2年度に設置されました。

地域からの技術支援要請に応え、地域基盤の活性化を図るため、技術相談や依頼をひとつの窓口で受け入れることによって、より親しみやすく相談しやすい体制を構築しています。



デジタル造形室

3Dプリンタ、3Dプロッタ、レーザーカッター、基板加工機、3Dスキャナーなどのデジタル造形機器を備えた加工室です。

学生のモノづくり能力育成を目的として設置された施設であり、実験実習・卒業研究などのカリキュラムでの利用に限らず、ロボットコンテストやデザインコンテストなど課外活動での利用も推奨しています。また、学外の方の利用にも対応しています。

高度分析計測室

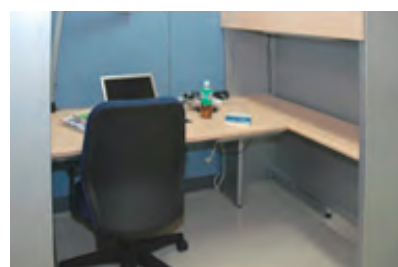
大型の分析・評価装置を備えて、本校の研究を支え、企業の方の依頼分析等に応える施設です。ICP、ESCA、TEM、SPM、SEM、XRD他多くの機器類を共同で運営しており、地域連携技術者研修を受けていただければどなたでも使用していただくことができます。

また、学内保有の各種機器についても事前に御連絡いただければ教育・研究に支障のない限り使用していただくことが可能です。

アントレプレナーサポートセンター

平成19年4月、地元の起業、創業を促進し、地域産業の活性化を図る目的で、地域連携テクノセンターに開所しました。

これは1～2年後の起業を志す、あるいは自らのアイデアを事業化したいと考える学生・地域の技術者を対象に、オフィススペースを一定期間（半年契約で最大1年間）提供しています。令和元年度に改修工事を行い、より利便性が向上されました。



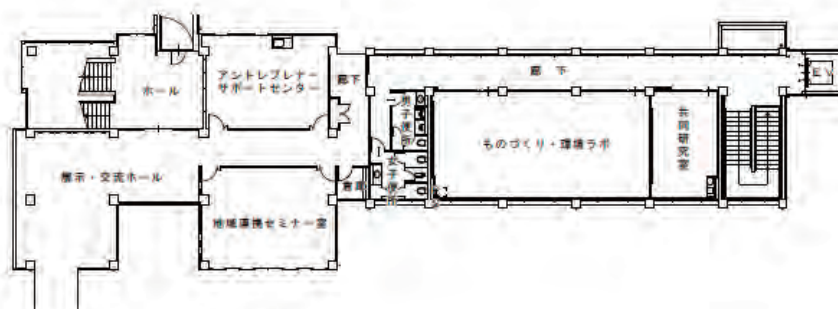
地域連携テクノセンター外観



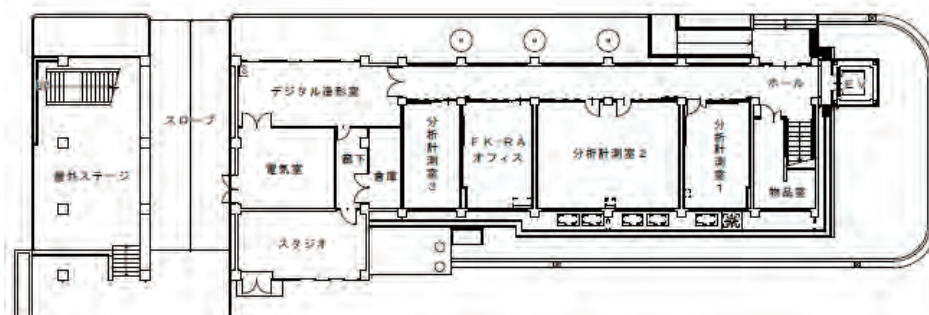
地域連携テクノセンターフロア図



3 階



2 階



1 階

地域連携テクノセンター

2022年度活動予定

※以下に掲載の活動予定は、2022年4月に開催された地域連携テクノセンター運営委員会で承認されたものですが、新型コロナウイルス感染症への対策により中止になる可能性もございます。詳細については各主催者のホームページ等でご確認ください。

- 6 月 福井高専地域連携アカデミア役員会開催
JOINT2022発行
- 7 月 福井高専地域連携アカデミア総会開催
- 8 月 防災グッズ工作教室を開催（共催事業）
第17回越前市ロボットコンテスト競技会・表彰式を開催（共催事業）
- 9 月 第28回マグネットコンテスト作品募集開始（～9/30 まで）
越前モノづくりフェスタ2022に出展
- 10月 第1回高専カフェを開催
さばえものづくり博覧会2022に出展
北陸技術交流テクノフェア2022に出展
- 11月 第2回高専カフェを開催
- 12月 JOINTフォーラム2022を開催
第3回高専カフェを開催
防災グッズ工作教室を開催（共催事業）
福井高専ビジネスアイデアコンテスト2022を開催
- 1 月 第4回高専カフェを開催
- 2 月 第28回マグネットコンテスト表彰式を開催（主催事業）



地域連携テクノセンターの保有機器

1. 超高分解能電界放出形走査電子顕微鏡（SEM）（元素分析システム付）

日本電子 JSM-7001F TTL S型

構成 サーマル電界放出形電子銃（FE）

下方二次電子検出器・上方二次電子検出器・

半導体反射電子検出器

コンカル対物レンズ（磁場漏れのないアウトレンズ）

5軸コンピュータ制御モータ駆動試料ステージ

エネルギー分散形X線分析装置（EDS）

性能 二次電子像分解能：1.2nm（加速電圧 30kV）

観察倍率：×10～×1,000,000

加速電圧：0.1kV（試料バイアス電圧負荷）～30kV

EDSエネルギー分解能：133eV以下， 検出可能元素：Be～U

用途 金属材料，電気電子材料，機能材料，新素材などの材料表面をナノメートルオーダーの超高分解能で観察できます。また，SEMと組み合わせて広範囲の元素分析が可能で，材料・機械・エレクトロニクス・情報・化学・バイオなどの分野に有用です。



2. 赤外吸収スペクトル測定装置

構成・性能

パーキンエルマー社

分解能 最高 0.4cm⁻¹

測定波数範囲 8300～350cm⁻¹

S/N比 55000:1

赤外顕微鏡 Spotlight200

測定波数範囲 透過・反射・ATR 測定時 7800～600cm⁻¹

測定モード 透過／反射／Ge-ATR マッピング及び透過／反射／ATR ポイント測定

用途 赤外分光法は特に分子の官能基や早い運動についての情報が容易に得られる特徴を持っており，材料全般について測定可能です。また，ATR（全反射法），顕微赤外法部分を持つことから，特に水溶液の測定や微小部位の測定に有利です。



3. X線光電子分光分析装置（ESCA）

日本電子 JPS-9010TR 型

最小分析範囲 200μmφ

用途 X線モノクロメーターを内蔵し，単色化したAlKα線源が利用でき，金属，高分子やハイテク材料の表面分析に最適です。



4. 誘導結合型高周波プラズマ発光分光分析装置（ICP-AES）

パーキンエルマー社 Optima8300

特徴 多元素同時定量が可能（検出感度：ppb～ppm）

波長範囲 160～782nm 分解能 0.006nm

用途 試料に高温のエネルギーを与え，放射された光をCCDで検出することで，試料に含まれる元素（約70種類）の定性および定量分析が可能です。化学試料，生体試料中の微量成分分析，鉄鋼，非鉄金属中の微量金属の分析などに最適です。



5. 走査型プローブ顕微鏡 (SPM)

日本電子 J SPM-4200 型

原子分解能 AFM (原子間力顕微鏡) モード: マイカ原子像

STM (走査型トンネル顕微鏡) モード: HOPG原子像

特徴 SPMの画像情報は、走査電子顕微鏡 (SEM) 像に似ています。しかし、SPMの水平分解能は 0.14nm と高く、通常のSEMでは観察できない原子分解能領域での観察が可能です。またSPMの垂直分解能は0.01nm と非常に優れ、試料表面の凸凹形状を非接触もしくは低ダメージで正確にとらえることができます。さらに、SPMは表面の形態情報のみならず、摩擦・粘弾性・磁気・表面電位など様々な情報をも画像化でき、特にMFM (磁気力顕微鏡) モードでは、磁区観察に威力を発揮します。



6. 超高分解能電子顕微鏡システム (TEM)

日本電子 JEM-2010 (UHR) 型

性能 分解能: 粒子像 0.25nm, 格子像 0.14nm

微少プローブ径: 0.5nm, 加速電圧: 200kV

特徴 原子スケールでの固体材料の微細構造をとらえるための超高分解能観察と極微小領域分析 (電子線回析等) の両方の機能を有する最先端の透過型電子顕微鏡です。新材料等の材料研究をはじめ、バイオ・医療分野にも幅広く活用されます。



7. 試料水平型多目的X線回折装置 (XRD)

リガク UltimaIV

性能 最大定格出力: 3kW, ターゲット: Cu, スキャンモード:

θ s/ θ d 運動, θ s, θ d 単独, ゴニオメータ半径: 285mm, 2θ 測角範囲: $-3\sim 162^\circ$, 最小ステップ角度: 0.0001°

特徴 X線を用いて薄膜応用材料である金属多層膜, 化合物半導体薄膜, 無機有機発光材料, LB薄膜, 鉱物などの回折パターン及び反射率を測定して, その組成分析や結晶性などを評価する装置です。また, ナノ粒子の構造評価として注目されているX線小角散乱測定が可能であり, 専用ソフトウェアを使用してナノ粒子サイズ分布を解析できます。さらに, 粉末X線回折測定を行って複雑な結晶構造を持つ材料の定性分析及び定量分析を行うことができます。



8. 核磁気共鳴装置 (NMR)

ブルカー・バイオスピン AVANCE III 400MHz

性能 ^1H 共鳴周波数 400 MHz

^1H 核共鳴周波数 14~400 MHz

溶液用検出器 観測核 $^{15}\text{N}\sim^{31}\text{P}$, ^{19}F , ^1H を自動で観測

特徴 化学や生物の研究分野で用いる分子の核スピンを観測し, 分子構造の決定を行う汎用性の高い非破壊検査法です。固体プローブを備え, 幅広い材料測定に利用できます。



9. MIT耐折度試験機

テスター産業 BE-201

性能 荷重：2.9～14.7Nスプリング式，屈曲速度：175cpm
屈曲角度：左右135°

用途 紙，フィルム，金属箔やフレキシブルプリント配線板（FCL，FPC）等の耐折性を評価する装置で，耐折性試験機としては最もポピュラーな装置のひとつです。



10. 次世代ものづくり教育用実験装置

① 3Dカラスキャナ

データ・デザイン Art ec Eva

性能 3D解像度（最大）0.5[mm]，3D精度（最大）0.1[mm]
撮影範囲 214×148[mm] - 536×371[mm]，24bit Color

用途 24ビットカラーテクスチャを添付した3Dデータの作成。



② 3Dスキャナ

ローランドディージー LPX-600

性能 スキャン領域（幅）254×（高さ）406.4[mm]
最小スキャンピッチ 0.2[mm]

用途 3Dデータの作成



③ 3Dプリンタ

KEYENCE AGILISTA-3100

性能 造形サイズ 297×210×200[mm]，解像度 635×410[dpi]
Z分解能（高分解能）15／（標準）20[μm]
モデル／サポート材 ABSライク透明樹脂／水溶性樹脂



④ 3Dプロッタ

ローランドディージー MDX-540S

性能 加工可能材料 樹脂・軽金属，最大ワーク質量 20[kg]
動作ストローク 500(X)×400(Y)×155(Z)[mm]
位置決め精度 ±0.1[mm]/300[mm]，分解能 0.001[mm/step]



⑤ 基板加工機

Mits Auto Lab

性能 加工範囲 229[m]×300[mm]，分解能 0.156[μm]
最小パターン幅 0.1[mm]，自動工具交換機能あり
入力データ形式 ガーバーデータ，DXF形式



⑥ レーザーカッター

レーザーコネク ト Epilog Mini 18

性能 加工範囲 475×305[mm]，ワーク最大高さ 102[mm]
レーザー形式 炭酸ガスレーザー（1063[μm]）出力 30[W]
CorelDrawで読み込める形式に対応



3. 地域社会との連携事業

福井高専リサーチアドミニストレーター紹介

【リサーチアドミニストレーター（知的財産担当） 養輪泰造】

これから皆さんが研究を進めるときや企業において新製品の開発に携わるとき何かと知的財産に関わることになります。既存の知的財産との関係を調べたり、知的財産として権利化するときなどアドバイスをさせていただきます。

1. 先行技術の調査

研究や開発を進める場合、先行する技術を確認することで他人の権利を侵害しないことや研究や開発が重複する無駄を省くことが可能です。また既存の技術や知見と比べて新規性や進歩性を主張する場合にも先行する特許などをベースにすれば説得力があります。

知的財産（特許・実用新案・意匠など）の先行技術調査は「特許情報プラットフォーム」から誰でも可能です。一度覗いてみてください。

(<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/>)

2. 知的財産の出願・登録

優れた研究や製品開発がなされた場合、論文発表と合わせて知的財産の出願・登録を考えましょう。他者にただ乗りされないためにも知的財産の登録は重要です。本校では知的財産の出願や権利化に伴う手続きや費用面でのお手伝いが可能です。出願の可能性や手続きなど総務・地域連携係を通して問い合わせください。



【リサーチアドミニストレーター（産学連携担当） 南保幸男】

気候変動、地政学、SDGs対応と大きく様変わりする社会の中で、将来のあるべき姿を見据えたインサイト（未来予測・洞察力）の育成が必要となり、100年後の世界にでも役立つ新規事業やビジネスモデルの変換が求められています。

市場では環境保全（カーボンニュートラル、新エネルギー開発）、少子高齢化（AI活用）、健康長寿（ヘルスケア、抗加齢）、生活の質向上（QOL、働き方改革）での課題があり、解決すべき新分野での新技術開発、新規な販路開拓を行い、シーズを活かした顧客ニーズへの対応が急務とされています。その技術開発の実施には様々な組織体で連携された共同開発体制での進行により、独創的で筋の良いテーマを提案し、単発のテーマから脈絡のある継承テーマへシフトして、国の競争資金を獲得し、オープンイノベーション協業体制にて問題解決を効率的かつ知恵の結集をしていきます。

今後は福井高専発信での新ビジネスモデル化を実施すべく「互助社会の形成」「100年後の新規テーマの提案」「産官学連携体制づくり」「先進・先端地区との情報交流」への支援を心がけた活動を是非とも皆さんと協力して一緒に創り上げたいと思います。



【リサーチアドミニストレーター（研究推進担当） 安丸尚樹】

「研究テーマとの出会い」

約 20 年前、私は地域連携テクノセンターの前身「先進技術教育研究センター」の担当でした。その当時、福井県地域結集型共同研究事業というレーザー技術に関する大型プロジェクトが始まり、産学連携担当として参加しました。フェムト秒レーザーによる精密加工研究を地元企業と始め、照射面を走査電子顕微鏡で観察すると、ナノレベルの周期構造（ナノ構造）が加工されることに気がしました。その写真をレーザーの専門家に見せると、光加工の限界（光の波長）以下の構造で、光を用いた初めてのナノ加工技術になることが判明しました。この技術は早速特許化し、新聞等で報道されました。産官学共同研究で偶然巡り会った研究テーマでしたが、その後定年まで研究を継続でき、科研費等の外部資金の連続獲得にも繋がりました。



高専は教育主体の高等教育機関ですが、課題探求・解決型の学生を育成するために、教員自らが研究活動を行う必要があります。そのために、良い研究テーマに出会い、外部資金を獲得するためのお手伝いができるよう努力したいと思っています。

ぜひ気軽に声をかけてください。

第16回越前市ロボットコンテストへの協力事業

(計測・制御部門 亀山建太郎, 西 仁司)

地域連携テクノセンターは『越前市ロボットコンテスト』に対し、平成22年度より様々な形で協力を行ってきました。令和3年度における実施事項は、例年と同じく夏季講習会への講師派遣と、大会への会場提供・運営サポートを予定していました。また、令和3年度は、本校が高専ロボコンの当番校であったため、観戦などに参加していただくことも検討していました。しかし、令和3年度においてもコロナの収まる気配はなく、計画段階では状況がどのように変化するか予想ができなかったため、対面での開催を実施するかについてぎりぎりまで保留したものの、最終的にはビデオ審査となりました。審査が実施されたのは、表に示す競技部門です。

まず、基礎部門においては、表に示してはいませんが8チームの棄権があり、棄権チームは、基礎部門にしては人数が多いチームでした（参加チームは1～2人。棄権チームは2～3人／チーム）。このことから、工作のウェイトが低い基礎部門においても、多人数チームはコロナ禍で身動きが取れず、棄権に至ったのではないかと考えられます。また、棄権は一部の中学校に集中していたことから、指導体制の違いについても考慮が必要かと思われます。

応用部門においては、チーム構成人数は4～5人と多人数でした。しかし、これらのチームは2校のみからの参加であり、1校は科学部のような部活動を有する学校、もう1校は本大会の運営に大きく関わる教員が所属する学校からの参加であったことから、コロナ禍であっても熱心な指導が行われたものと思われます。

小学生が参加するチャレンジ部門においては、チーム構成人数は工作のウェイトに対して2～3人と多いものの、報告された棄権チームは1チームのみでした。これは、学校における指導ではなく各家庭での活動が主であったため、多人数チームでもフレキシブルな活動ができ、棄権しなかったのではないかと考えられます。

ビデオ評価においては、ルールの理解が十分でないものが複数見られたことから、コロナ禍において、指導教員間の連携についても問題が発生していた事が伺えました。

このような大変な状況下において、大変熱心に指導され、大会準備に注力された中学校の先生方に感謝するとともに、来年度以降は通常開催が行われることを願っております。

蛇足：以上のように、コロナ状況下では大会実施だけではなく、集まって作業するという製作段階においても影響を受け易いロボコンという競技においても、指導形態・参加人数により影響がまちまちである点が興味深く思われたので、今後のロボット教育の糧としたいと思っています。

表 動画審査実施部門と参加チーム数（カッコ内は人数）

基礎部門	11 (15)
応用部門	6 (28)
チャレンジ部門（小学生）	17 (33)

「高専カフェ」開催

(地域・文化部門 長谷川智晴, 川畑弥生)

高専での教育や研究を紹介する機会として、オープンキャンパスや公開講座等が盛んですが、「ものづくり」や「実験」などが、キーワードになったものがほとんどです。一方、言語や歴史、文学、また科学であっても以上にあげたキーワードから遠い分野の教育や研究は、地域の皆様に紹介する場が多くありません。

「高専カフェ」とは、主に地域・文化部門に所属する教職員が行なっている教育や研究などを紹介するもので、肩の力を抜きながらゆっくりと話を聴いていただき、時には議論していただくという企画です。平成 27 年度から始め、7 年目を迎えました。

令和 3 年度は以下のような内容でした。

日程	講師	テーマ
10 月 8 日 (金)	MANGULABNAN PAULINE ANNE THERESE MALAYA 教員 (一般科目教室 英語)	『英語 で数学を遊ぶ～メビウスの帯 の運命 ～』
11 月 12 日 (金)	古谷 昌大 教員 (物質工学科)	『高分子は世界をつくる』
12 月 10 日 (金)	池田 彩音 教員 (一般科目教室 国語)	『「無名草子」から知る平安時代女流 文学』

「高専カフェ」の名の通り、気軽に参加していただき語り合うという趣旨のもと、事前申し込みなしで実施しています。令和 3 年度もコロナ禍のため開催が危ぶまれましたが、感染対策に留意しつつ 3 回に分けて実施することができました（1 回は感染拡大のため中止）。毎回、教職員の他、一般の方合わせて 20 名近い参加者にご聴講いただきました。どの講演も、皆さん熱心に聴講され、活発な質疑応答が行われ、時間が短く感じられるほどでした。

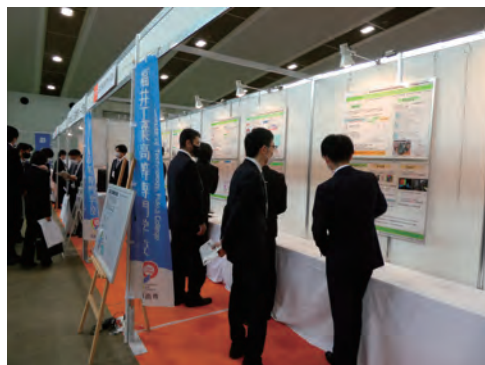
写真は第 1 回の様子です。PAULINE 教員は英語の教員ですが、数学の研究の経験もあります。そんな PAULINE 教員がメビウスの輪の不思議さについて教えてくれました。メビウスの輪の工作は子供にも出来る簡単なものですが、切り方によって最終的な形が変わります。このような形を扱う数学は、現代の数学研究でもホットな話題です。参加者が自ら工作しながら実感できる講演はたいへん好評でした。



北陸技術交流テクノフェア2021の出席

(地域連携テクノセンター，専攻科)

全国からものづくり企業が集う北陸最大規模の展示商談会である北陸技術交流テクノフェアが、10月21日～22日に福井県産業会館で開催されました。福井高専のブースでは、専攻科2年生が取り組んでいる特別研究の成果をポスター展示して研究シーズの発表を行い、来場者と意見交換を行いました。あわせて、テクノフェア公式HPにて専攻科2年生の研究シーズを発信しました。



発表の様子

JOINTフォーラム2021開催

(地域連携テクノセンター)

令和3年12月15日、鯖江市嚮陽会館において「JOINT フォーラム 2021」を開催しました。

本フォーラムは、本校と福井県内の産官学関係者との結びつきを深めることを目的として、地域連携テクノセンター主催で実施しているものです。「福井高専における教育研究、地域連携の取り組み」をメインテーマに掲げ、地元企業、本校の教育研究支援組織「地域連携アカデミア」会員企業、本校教職員、本校学生など109名の参加がありました。

田村校長の開会挨拶に続き、小杉織物株式会社 代表取締役社長 小杉 秀則 氏による特別講演が行われ、『和装業界における生き残り戦略とコロナ禍における事業の模索と展開』について講演いただきました。

また、本校教職員・本校専攻科生による30件のポスターセッションのほか、地域連携アカデミア会員企業からJOINT フォーラム 2021のために作成いただいた企業ポスター28件の紹介があり、活発な意見交換などが行われました。

閉会にあたって、地域連携テクノセンター長から挨拶があり、盛況のうちに閉会となりました。



開会挨拶する田村校長



特別講演 小杉 秀則 氏

第27回マグネットコンテスト開催

(素材・加工部門 西野純一，常光幸美)

マグネットコンテストは、ものづくり教育の一環として、レア・アースマグネットの世界的生産拠点である信越化学工業（株）武生工場の協力を得て平成7年度から実施しているもので、第27回となる今回は、県内外の小中学生，高専生，高校生から総数1308件ものアイデア作品が寄せられ、厳正なる審査の結果、最優秀賞から佳作まで20作品が選ばれました。



最優秀賞に選ばれた作品

「ふくい知財フォーラム」セミナーへの参加

(情報・通信部門 村田知也)

地域知財を通じた知と技の融合・連携づくりを目的とした組織「ふくい知財フォーラム」が第12回目として開催されました。テーマは「近未来のカーボンニュートラルビジネス～持続可能な社会を目指して」と題して、令和3年11月25日にオンラインセミナーが開催され、参加をしました。

SDGsをはじめ、エネルギーや資源の循環利用に取り組む企業等が講演しました。水素エネルギーや食品廃棄物からのメタンガスを活用した世界初の“水素ホテル”としてCO₂の100%削減を達成した実例を紹介、そのほか再生可能エネルギーやプラスチックに関する諸課題やリサイクルの現状などが紹介されました。後半は参加者が2つのセッションに分けられ、講師と参加者との意見交換が行われました。

また、福井県内の大学・公設機関等の研究内容および知財支援内容等を紹介したものや、ふくい知財フォーラムの取り組みについての情報が参加者に共有されました。本校からはテクノセンターの紹介やJOINTフォーラムに関する案内を出展しました。

高専ライブでの教養講座の実施

(地域・文化部門 長水壽寛、市村葉子、計測・制御部門 西 仁司)

福井高専では、地域の皆さんに高専をもっともっと活用していただくため、学生や教職員、また高専にかかわる様々な方とのインタビューを中心とした「高専ライブ」というラジオ番組を、毎週日曜日の11時から12時まで（再放送は毎週土曜日23時から24時まで）、たんなんFM79.1MHzにて放送しています。なお、たんなんFMの放送は、たんなんFMのホームページでも同時配信しておりますので、インターネットを利用することでどこでもお聞きになれます。



この番組の中のコーナーの一つで、本校教職員が自身の専門分野に関する「教養講座」を放送しております。これまでに放送した内容の一例を以下に示します。

担当教員	タイトル	内容・テーマ例
長水壽寛 教員（数学）	「数学の部屋Season2」	高専の数学教育について 「饅頭はあんこが重い」 「黄金比とフィボナッチ数列」 など
長谷川智晴 教員（物理）	「サイエンス共和国」 「科学のつまみ食い」	物理の話 「周期表の話」 「長さの話」 など
松井一洋 教員（体育）	「PESカフェ」	体育、スポーツの話 「日本起源のスポーツのお話」 「eスポーツのお話」 など

最新の学術動向から、事実の裏側になるエピソードなど、一般の方にもわかりやすくお話しておりますので、ぜひお聞きください。

なお、高専ライブではお聞きの皆様からのご意見、ご感想などを受け付けております。たんなんFMのホームページからお送りください。

福井高専ビジネスアイデアコンテスト2021開催

(情報・通信部門 村田知也)

福井高専ビジネスアイデアコンテストとは、将来の福井県を牽引していく若手の起業家(アントレプレナー)を育成することを目的としたコンテストです。2021年は第2回目であり、主催として地域連携テクノセンターが執り行いました。

IoT(Internet of Things)、ロボット、人工知能(AI)、5G、ビッグデータといった技術を取り入れることで、社会的課題を解決して目指すべき未来を築いていく Society5.0 という取り組みが内閣府によって提唱されています。これは急激な社会変動の波として福井県にも容赦なく押し寄せてきており、ICT 技術に対する需要は非常に高まっています。

このコンテストの主旨として、福井県から Society5.0 の理想的な未来社会を発信していき、起業を支援することで福井の若者をアントレプレナーシップ教育へと後押ししていこうという試みです。

応募期間を令和3年6月3日(木)～11月5日(金)までとして、その応募者から1次選考を通過した10チームが最終選考会で発表することとなりました。最終選考会は令和3年12月11(土)福井工業高等専門学校大講義室にて実施されました。

審査基準として、「社会貢献性」、「実現可能性」、「プレゼン力」、「独創性」の4項目を観点に評価を行い、審査の結果、グランプリには

『 「GIGA・CKT」 –GIGA スクール構想を活用した「境界知能の学徒」支援システム – 』、準グランプリには『 「LiveRobo」 』、審査員特別賞には『 「フトン・ガ・フットンダ!」 – ハプティクス技術を用いた仮想布団 – 』が選ばれ、それぞれ賞状と副賞の目録が授与されました。

副賞としてグランプリには海外研修、準グランプリには国内研修、審査員特別賞には図書券を授与することになっていましたが、コロナ禍が終息していない状況に鑑みそれぞれに相当の品物を授与することとしました。

来年度も開催の予定となっており、更なる多くの応募者とアイデアが出てくることが期待されています。



4. 技 術 相 談

本校には、地域・文化、環境・生態、エネルギー、安全・防災、情報・通信、素材・加工、計測・制御の7つの研究部門があり、多くの分野にわたって、多数の専門家が在職しています。

企業の現場などで解決を迫られている難問や疑問を解決できることも多く、これまでも技術相談等地域社会に協力してきました。下記以外にも様々なお話を伺いますので、お気軽に御相談下さい。

■県内企業等からの技術相談の例

共同研究に至らない、あるいは、共同研究の前段階として多数の技術相談が寄せられ、例として次のようなものがあります。

- (1) 浄水場で発生する汚泥の土構造物への転用策
- (2) レンズの分光光学特性測定
- (3) 廃液中の色度の軽減
- (4) 防災に関するガイドブック作成
- (5) 製材所から出るおがくずの有効利用策
- (6) 繊維機械内における糸の走行状態の把握

※技術相談の申込み

17ページの「技術相談申込書」(別記様式1)により下記までお申し込みください。

福井工業高等専門学校総務課 〒916-8507 福井県鯖江市下司町

TEL(0778)62-1881 FAX(0778)62-2597 E-MAIL techno@fukui-nct.ac.jp

技術相談申込書

福井工業高等専門学校長 殿

下記のとおり技術相談を申し込みます。

記

申 込 者	企業名			
	役 職		氏 名	
	住 所			
	TEL		E-mail	
共同研究等の申請を前提としていますか		☐ 前提としている ☐ 前提としていない ☐ 未定		
過去に同一の技術相談をしましたか		☐ 有 ☐ 無		
地域連携アカデミア会員ですか		☐ 会員 ☐ 非会員		
技術相談の予定時間数は何時間ですか		時間		
相談分野				
相談教職員名（できれば記入してください。）				
相談事項（具体的に書いてください。）				
相 談 料	☐ 有料（ 円） ☐ 無料 ※本校側で記入します。			
（受付番号）	（受付年月日）	（応談者）	※本校側で記入します。	

次の事項について、ご確認の上、同意いただける場合は、レをご記入願います。

秘 密 保 持	☐ 技術相談の経過において、担当教職員よりノウハウ等の提供を受けた場合、秘密保持契約を締結することに同意する。 ※同意いただけない場合、技術相談を実施することができないことがあります。
知的財産の取扱い	☐ 技術相談の経過又は結果、担当教職員の寄与により知的財産が生じた場合、当校へ書面にて通知することに同意する。 ※同意いただけない場合、技術相談を実施することができないことがあります。

(注意)

- ・本申込書は、技術相談の都度ご提出願います。
- ・太線枠内を記入して下さい。
- ・技術相談予定時間数の最少時間は1時間単位です。
- ・相談料は、技術相談前に原則として本校が指定する所定の口座に振り込んで下さい。
- ・いったん納付された相談料は、学校の都合により受け入れを取り消した場合以外は返金しません。
- ・申請された技術相談予定時間数を超過した場合は、その時間に応じ追加料金が発生します。
- ・相談場所が学外である場合の交通費、技術相談の経過で分析等を実施した場合の費用等は、相談料とは別に徴収します。
- ・ご不明な点は総務課（TEL：0778-62-1881、E-mail：techno@fukui-nct.ac.jp）までお問い合わせ下さい。
- ・記載していただいた情報は技術相談にのみ使用させていただきます。

福井工業高等専門学校技術相談規則

平成 27 年 3 月 5 日規則第 6 号

改正 令和元年 5月29日規則第19号 令和 2年 3月26日規則第68号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構技術相談に関するガイドライン（平成 27 年理事長裁定）に基づき、福井工業高等専門学校において技術相談の取扱い等に関し必要な事項を定める。

(定義)

第 2 条 技術相談とは、企業等における技術的な問題解決を中心とした一時的な相談をいう。

(技術相談の申込)

第 3 条 技術相談の申込は、原則として「技術相談申込書」（別紙様式 1）に記入し、地域連携テクノセンター（以下「センター」という。）へ提出するものとする。

(技術相談の実施)

第 4 条 センターで技術相談申請書の内容を確認し判断の上、適切な担当教職員（以下「担当教職員」という。）を決めた後、担当教職員へその旨通知し、技術相談を実施する。

2 技術相談に際して、必要に応じて秘密保持契約を締結するものとする。

3 技術相談の過程で生じた発明の帰属に関しては、秘密保持契約書の中に規定するものとする。

4 技術相談の結果、共同研究又は受託研究を行うこととなった場合は、速やかに共同研究申請書又は受託研究申込書の提出を受け、共同研究契約又は受託研究契約を締結し、研究を行う。

(技術相談の報告)

第 5 条 技術相談を行った担当教職員は、「技術相談報告書」（別紙様式 2）を作成しセンターに提出する。

(技術相談料・費用)

第 6 条 原則として初回の技術相談料は無料とし、2 回目以降の技術相談料については、「技術相談料金表」（別表 1）に定めるものとする。

附 則

この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（令和元年5月29日改正）

この規則は、令和元年5月29日から施行し、同年5月1日から適用する。

附 則（令和 2 年 3 月 26 日改正）

この規則は、令和 2 年 3 月 26 日から施行する。

別表 1

技術相談料金表

相談回数	金額	備 考
1 回目	無料	
2 回目以降	5,000 円／時間	同一の技術相談については、毎回技術相談料を徴収する。

（注意 1）次の一に該当する場合、2 回目以降の技術相談料は無料とする。

- ・ 公的機関からの申込みの場合
- ・ 申込者が、申込み時において、共同研究等の申請を前提とする旨の意思表示をした場合
- ・ 申込者が本校における研究交流を通じて産学官協働による知的資源の創造と地域経済の活性化に資することを目的として賛同している企業（地域連携アカデミア会員）の場合
- ・ 上記に準じるものと校長が認めた場合

（注意 2）技術相談における時間単位は、その最少時間を 1 時間とする。

（注意 3）技術相談料は前納とする。

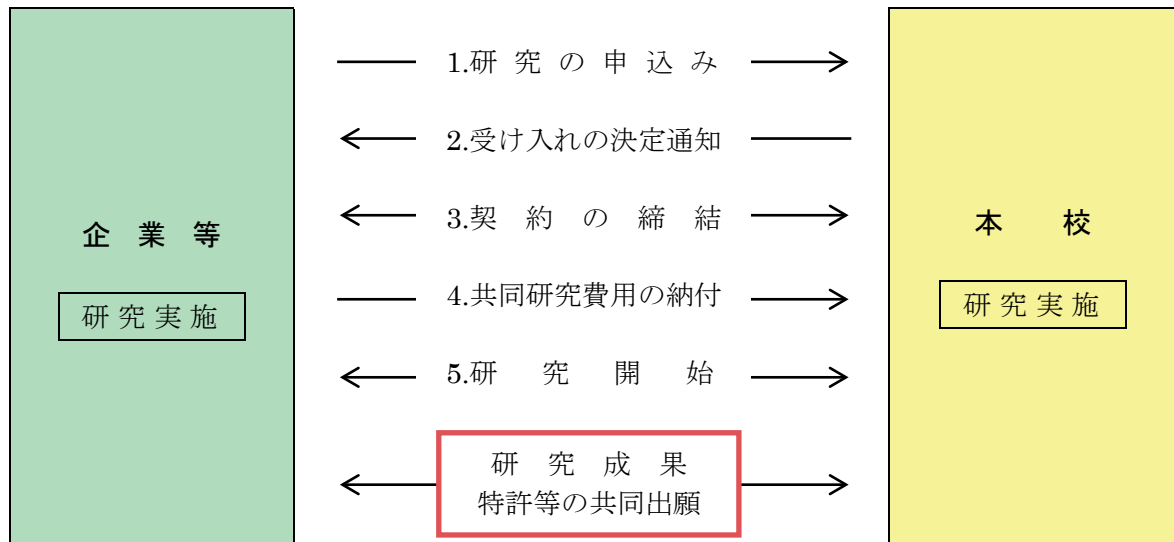
（注意 4）一旦納付された技術相談料等は、学校の都合により受入れを取り消した場合
以外は返金しない。

（注意 5）技術相談料 1 時間当たり単価は、消費税抜きの単価を示す。
（消費税計上後の技術相談料は、1 円未満を切り捨てる。）

5. 共同研究

科学技術がますます高度化・専門化し、急速に進展する中で、独創的な技術の開発を行なうため、組織的な産官学交流の強化が強く求められています。民間企業等との共同研究は、民間企業等の研究者と本校教員とが共通の課題について対等な立場で研究を行うものです。複数年度にわたる契約（上限5年）も可能です。

■共同研究の流れ



■経費について

共同研究に要する費用は、直接経費、間接経費及び研究指導料の合算額となります。

区 分		内 訳	
		費 目	内 容
共同研究費用	直接経費 (当該研究に直接必要な経費)	謝金 旅費 消耗品費 備品費 その他	協力者に対して支払う経費 調査等を行うために要する経費 実験材料等消耗品の購入に要する経費 機械器具の購入に要する経費 上記以外の経費
	間接経費 (当該研究遂行に関連し直接経費以外に必要な経費)	光熱水料 技術料 機械損料 その他	電気料、ガス料及び水道料で研究に要する料金 本校が有する設備・システム等利用の経費 (原則として、上記直接経費総額の30%に相当する額)
	研究指導料	民間等の研究者が派遣されて本校内で研究等を行う際の経費 1名当たり6カ月につき21万円(月割計算はしない)	

■研究成果としての特許の取扱い

共同研究の結果、共同して発明した場合は、本校と民間企業等がそれぞれ持ち分を定めて共同で出願し、特許は共有となります。該当特許は民間企業等又はその指定するものが、出願の日から一定期間(10年以内)優先的に実施することができます。また、更新も可能です。

■共同研究の実施状況（最近３年間）

令和４年４月１日現在

年度	研 究 課 題
令 元	フェムト秒レーザーによるナノ構造付与高機能 DLC 表面の創製
	ビッグデータの学習に基づくマルチハザード発生時における避難判断支援システムの構築
	下部構造に支持されたアーチ構造の地震応答性状の分析
	液晶ラビング布の特性に関する毛並方向評価の研究
	丸太打設した地盤の液状化に対する排水効果、密度変化に関する研究
	中小河川の河床形状の把握に関する研究
	次世代農業を実現可能な環境制御システムの機能強化に関する研究
	農業用水路から取水する小水力発電の除塵機のパフォーマンス UP 研究
	トマト栽培における乳酸菌資材の投与効果の実証試験
	バイオ燃料合成のための微細藻類活用に関する基礎研究
	UAV を用いた空中写真による河川形状調査
	流体数値シミュレーション STREAM を用いた市街地における水環境の予測手法に関する研究
令 2	触媒含有樹脂への無電解めっき膜の微細構造・特性評価に関する基礎研究
	RFID タグ位置検出精度向上に関する研究
	展開装置治具製作
	水耕栽培に関する新商品開発
	超硬合金素材の収縮予測に関する研究
	滑りバニシング加工によるナノグラデーション組織表層の創成とトライボロジー特性の向上
	フェムト秒レーザーによるナノ構造付与高機能 DLC 表面の創製
	避難判断支援システムの社会実装に関する検討
	バイオ燃料合成のための微細藻類活用に関する基礎研究
	丸太打設した地盤の液状化対策要因に関する研究
令 3	水耕栽培における電界発生装置の有用性試験と農産物保存法としての可能性試験
	イオンビームによる藻類の育種に関する研究
	シート材の展開に関する研究
	超硬合金素材の収縮予測に関する研究
	丸太打設した砂地盤におけるせん断補強に関する研究
	摩擦強加工による金属材料のナノ構造化
	フェムト秒レーザーによるナノ構造付与高機能 DLC 表面の創製
	木質リグニン由来のバニリン及びシリンガルデヒドを分解する微生物の単離及び分解能の解析
	平面道路の液状化対策工における FLIP 解析
	UAV を用いた空中写真による河川形状調査
令 3	RFID タグ位置検出精度向上に関する研究
	個別教育支援 ICT システムの開発研究
	薄型ソーラービーコン内蔵点字ブロックを用いた社会実証実験の可能性調査

共同研究申請書

(元号) 年 月 日

福井工業高等専門学校長 殿

住所
機関等の名称
代表者氏名

印

下記のとおり、共同研究を実施したいので申請します。

記

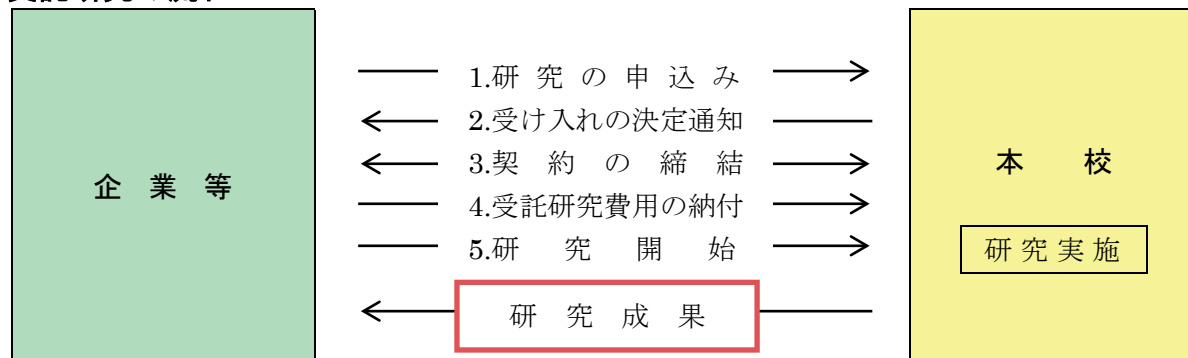
1	新規・継続の区分				
2	研究題目				
3	研究の目的 及び内容				
4	研究期間	(元号) 年 月 日 ～ (元号) 年 月 日			
5	研究実施場所				
6	機関等の 主な事業内容				
7	機関等の 共同研究員	氏 名	所 属	職 名	
8	希 望 す る 共同研究教員	氏 名	学 科 名	職 名	
9	研究経費の 負担額	直接経費	間接経費	研究指導料	合 計
		円	円	円	円
10	提供する設備等				
11	事務連絡先	氏 名	所 属	職 名	
		電 話 ファックス	() ()	内線	

- (備考) 1 共同研究が数年にわたる場合は、その年次計画書を別紙にて添付してください。
2 共同研究の申請手続きに当たり、不明なことがありましたら、福井工業高等専門学校地域連携テクノセンター長若しくは事務の窓口である総務課（Tel0778-62-1881）にお尋ねください。

6. 受 託 研 究

受託研究は、民間企業等から委託を受け、民間企業等に代わって本校教員が研究を実施し、その成果を委託者に報告する制度です。

■受託研究の流れ



■経費について

受託研究に要する費用は、原則として、「直接経費」、「間接経費」及び「受託料」の合算額となります。

区 分		内 容	
		費 目	内 容
受託研究費用	直接経費 (当該研究に直接必要な経費)	謝金 旅費 消耗品費 備品費 その他	協力者に対して支払う経費 調査等を行うために要する経費 実験材料等消耗品の購入に要する経費 機械器具の購入に要する経費 上記以外の経費
	間接経費 (当該研究遂行に関連し直接経費以外に必要な経費)	光熱水料 技術料 機械損料 その他	電気料、ガス料及び水道料で研究に要する料金 本校が有する設備・システム等を利用するための経費（原則として、上記直接経費総額の30%に相当する額）
	受託料 (研究テーマの困難度に応じた加算額)	原則として、下記の金額となります。 一 困難度が普通の場合は1カ月につき1万円 二 困難度が高い場合は1カ月につき2万円 三 困難度がきわめて高い場合は1カ月につき3万円	

*間接経費及び受託料については、個別に相談に応じます。

■ 研究成果としての特許の取扱い

受託研究の場合の特許権は、本校教員が取得しますが、出願したときから10年以内は、委託企業やその企業が指定するものに優先的に実施させることもできます。また、更新することも可能です。

受 託 研 究 申 込 書

(元号) 年 月 日

福井工業高等専門学校長 殿

申込者 住所
氏名 (名称・代表者) ㊟

福井工業高等専門学校受託研究取扱規則に基づき、下記のとおり研究を委託したいので
申し込みます。

記

- 1 研究題目
- 2 研究目的及び内容
- 3 研究に要する経費 円
- 4 研究期間 (元号) 年 月 日 ～ (元号) 年 月 日
- 5 希望研究担当者
- 6 研究用資材、器具等の提供
- 7 その他

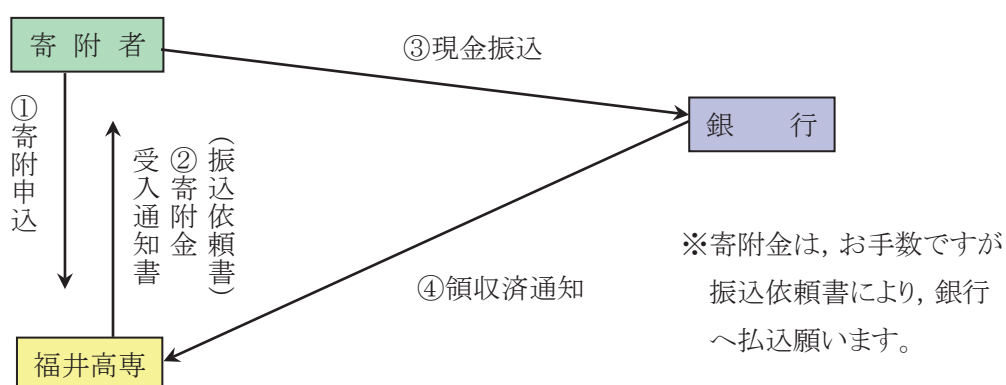
7. 寄 附 金

本校では、学術研究の奨励を目的とする寄附金を受け入れています。

寄附者は、研究目的や研究者を指定し、また、寄附者の氏名等を付することもできますが、見返りとして研究成果等を受け取ることはできません。

しかし、寄附金は、各種実験装置や図書の充実など、本校における学術研究の環境整備に大いに活用され、研究の成果を通じて本校のみならず広く社会に貢献しています。

■ 寄附金の流れ



■ 寄附金受入状況(最近5年間)

年度	校長	専 門 科 目					一般 科目	テクノ センター	その他	合計 件数	合計金額 (千円)
		機械	電気	電情	物質	環境					
平 29	2	1	0	2	1	4	0	30	1	39	14,537
平 30	3	2	3	0	1	5	1	41	14	70	18,517
令 元	6	3	2	2	0	3	0	51	1	68	13,570
令 2	1	0	3	3	1	108	0	55	4	175	14,664
令 3	0	2	1	4	0	38	0	58	3	106	14,883

■ 寄附金の免税について

福井高専に対する御寄附は、特定公益増進法人等への寄附金として、税制上の優遇措置を受けることができます。

〔法人からの御寄附〕 全額損金算入が可能です。

〔個人からの御寄附〕 5千円を超える部分について当該年の所得の40%を限度に当該年の所得から控除できます。

年 月 日

独立行政法人国立高等専門学校機構理事長 殿

(寄附者) 住 所

氏 名

印

寄 附 金 申 込 書

このことについて、下記のとおり寄附します。

なお、当該寄附金の一部を国立高等専門学校の教育研究の発展充実のため、必要な経費として使用することに同意します。

記

寄 附 金 額					円
寄 附 の 目 的					
及 び 種 別	(該当種別を全て選択してください。)		☐ 教育支援、 ☐ 研究助成、 ☐ その他		
寄 附 の 条 件					
使 用 者 の 指 定	☐ 有	指定する使用者 の 所 属 ・ 氏 名	所 属		
	☐ 無	(研究担当者等)	氏 名		
指定した使用者が 他機関へ転出した 場合の取扱い（右 のいずれかを選択 してください。）	☐ 寄附金の残額を転出先へ移し換えることに同意する。 ☐ 寄附金の残額は、国立高等専門学校機構内の他の役職員に使用者を変更して使用するものとし、国立高等専門学校の業務実施のため、必要に応じて寄附目的及び条件を変更することに同意する。 ☐ 寄附金の残額は、寄附目的及び条件の範囲内で国立高等専門学校機構内の他の役職員に使用者を変更して使用することに同意する。				
指定した使用者の 退職等に伴う取扱 い（右のいずれか を選択してくださ い。）	☐ 寄附金の残額は、国立高等専門学校機構の他の役職員に使用者を変更して使用するものとし、国立高等専門学校の業務実施のため、必要に応じて寄附目的及び条件を変更することに同意する。 ☐ 寄附金の残額は、寄附目的及び条件の範囲内で国立高等専門学校機構の他の役職員に使用者を変更して使用することに同意する。 ☐ 寄附金の残額の取扱いについては、助成財団等の規定に従うものとする。（研究助成金の場合のみ選択可）				
使 用 内 訳					
使 用 時 期					
そ の 他	☐ 寄附金振込後、事業所名を福井高専テクノセンターHPに掲載することを同意する。				
担 当 者 連 絡 先	担当者名（申請者と異なる場合）			電 話：	
				メー ル：	

8. 福井高専地域連携アカデミア

わが国産業界を取り巻く環境はいよいよ厳しく、一層の国際化、情報化社会への進展など多くの課題を抱えております。本県でも、工業製品の高付加価値化、多角化及び従来の基礎技術を活かした新産業の創生などが重要であるとされています。このような県内産業の活性化と技術の高度化を促成するためには、産・官・学の共同による研究開発と技術の融合、複合が必要不可欠な状況です。

本校においては、平成6年度に福井高専教育研究振興会が結成され、平成17年度には内容の充実と会員の拡大に取り組むため「福井高専地域連携アカデミア」と発展的に改組し、本校と企業との連携により、県内産業の発展に寄与しております。

福井高専地域連携アカデミア				
株式会社 信越化学工業	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場
株式会社 信越化学工業	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場
株式会社 信越化学工業	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場
株式会社 信越化学工業	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場
株式会社 信越化学工業	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場
株式会社 信越化学工業	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場
株式会社 信越化学工業	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場
株式会社 信越化学工業	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場
株式会社 信越化学工業	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場	株式会社 武生工場

地域連携アカデミア会員企業名盤

■具体的な取り組み

- ・ 地域産業界との共同研究、受託研究、技術相談の推進
- ・ 学生の地域貢献活動
- ・ 研究活動の推進と活性化、教員の研修など教育スタッフの質的向上
- ・ 高度先端技術に対応する教育研究設備の更新及び整備

など

■福井高専地域連携アカデミア役員(令和3年度)

会 長	信越化学工業株式会社 武生工場長	松 本 福 二
副 会 長	ベルテクス株式会社 代表取締役会長	田 中 義 人
理 事	増永眼鏡株式会社 代表取締役社長	増 永 宗大郎
監 事	大和建设株式会社 代表取締役	大 塚 英 治
監 事	旭日繊維株式会社 代表取締役社長	遠 藤 康 弘
幹 事	福井工業高等専門学校 地域連携テクノセンター長	松 井 栄 樹
顧 問	福井県産業労働部長	吉 川 幸 文
顧 問	福井県商工会議所連合会会頭	八 木 誠一郎



福井高専地域連携アカデミア会員申込

上記の主旨に御賛同いただける場合は、32ページの「福井高専地域連携アカデミア会員申込書」(別記様式5)により下記あてお申し込み下さい。

福井工業高等専門学校総務課

〒916-8507 福井県鯖江市下司町

TEL (0778) 62-1881 FAX (0778) 62-2597

E-MAIL techno@fukui-nct.ac.jp

「福井高専地域連携アカデミア」会員企業（R4.5.1現在）

会員企業名	所在地
アイナックス稲本(株)	石川県白山市
あおみ建設(株)	東京都港区
揚原織物工業(株)	鯖江市
旭化学工業(株)	坂井市
ES(株)	鯖江市
石黒建設(株)	福井市
井上商事(株)	福井市
(株)ウエキグミ	越前市
(株)ウノコーポレーション	越前市
(株)エイコー技術コンサルタント	敦賀市
(株)エイチアンドエフ	あわら市
(株)M・T技研	鯖江市
大阪シーリング印刷(株)	大阪府大阪市
(株)大虫電工	越前市
OOKABE GLASS(株)	福井市
OSP レーベルストック(株)	滋賀県米原市
(株)ガイアート 北陸支店	石川県金沢市
海洋技術建設(株)	東京都江戸川区
(株)川上測量コンサルタント	福井市
(株)KANZACC	坂井市
(株)キミコン	鯖江市
共立産業(株)	福井市
京福コンサルタント(株)	小浜市
(株)光陽コンサルタンツ	福井市
国土防災技術(株)福井支店	福井市
(株)サイエンスクラフト	越前市
(株)サカイエステック	福井市
(株)サカイエルコム	福井市
サカイオーベックス(株)	福井市
酒井化学工業(株)	鯖江市
坂川建設(株)	福井市
(株)鯖江工業所	鯖江市
鯖江精機(株)	越前町
(株)鯖江村田製作所	鯖江市

会員企業名	所在地
サンエー電機(株)	福井市
三機工業(株)北陸支店	富山県富山市
(株)サンルックス	鯖江市
塩野フィネス(株)	大阪府大阪市
(一)滋賀県建設業協会	滋賀県大津市
(株)jig.jp	鯖江市
ジビル調査設計(株)	福井市
島津産機システムズ(株)	滋賀県大津市
(株)清水組	鯖江市
(株)シャルマン	鯖江市
信越化学工業(株)武生工場	越前市
(株)SHINDO	あわら市
スガイ化学工業(株)福井事業所	福井市
(株)関組	越前市
タイヨー電子(株)	鯖江市
(株)大栄製作所	愛知県豊橋市
大和建设(株)	越前市
大和電建(株)	福井市
(株)高野組	越前市
(株)武田機械	福井市
武生特殊鋼材(株)	越前市
田中建設(株)	越前市
タナカフォーサイト(株)	鯖江市
(株)TAYASU	福井市
丹南ケーブルテレビ(株)	越前市
中部鋳業(株)	南越前町
(株)辻広組	福井市
(株)帝国コンサルタント	越前市
テラオライテック(株)	越前市
(株)デルタコンサルタント	福井市
(株)TOKO	鯖江市
(株)TOP	越前市
(有)トップテクノ	鯖江市
東京ガスネットワーク(株)	東京都港区

次頁に続く

会員企業名	所在地
轟産業(株)	福井市
飛島建設(株)北陸支店	福井市
(株)ナカテック	坂井市
中日本土木(株)	越前市
(株)ナチュラルスタイル	福井市
西田建設(株)	福井市
(株)西村組	永平寺町
日光産業(株)	福井市
日東電工(株)	大阪府茨木市
(株)日本エー・エム・シー	福井市
日本純良薬品(株)	坂井市
(株)日本ピーエス	敦賀市
長谷川体育施設(株)	新潟県新潟市
パナソニック(株)インダストリー社 デバイスソリューション事業部	福井市
(株)福井銀行	福井市
福井太陽(株)	福井市
福井鐵工(株)	福井市
(株)福井村田製作所	越前市
福井めがね工業(株)	鯖江市
ベルテクス(株)	福井市
ホクコンマテリアル(株)	福井市

会員企業名	所在地
(株)ホクシン	福井市
北伸電機(株)	大野市
(一)北陸電気保安協会	富山県富山市
前田工織(株)	坂井市
増永眼鏡(株)	福井市
(株)松浦機械製作所	福井市
丸一調査設計(株)	福井市
(株)マルツ電波	福井市
丸八(株)	坂井市
丸文通商(株)福井支店	福井市
(株)見谷組	福井市
(株)道端組	福井市
ミツカワ(株)	越前市
(株)ミルコン	福井市
明和工業(株)	福井市
山田技研(株)	福井市
吉岡幸(株)	福井市
レンゴー(株)武生工場	越前市
(株)ワカサコンサル	小浜市
(株)ワカヤマ	鯖江市
(株)若吉製作所	鯖江市

計 1 1 0 社 (社名 5 0 音順)

福井高専地域連携アカデミア会長 殿

住所(〒 -)

(電話番号) — —
(法人名)

印

記

運 営 費 10,000円
寄 附 金 円 (口) (1口 20,000円)

* 寄附金につきましては、別添の「寄附金申込書」へもご記入願います。
後日、請求書等を送付させていただきます。

企業からの福井高専に対するご寄附は、
特定公益増進法人等への寄付金として、
全額損金算入が可能です。

福井高専地域連携アカデミア会則

(名称)

第1条 本会は、福井高専地域連携アカデミアと称する。

(目的)

第2条 本会は、福井工業高等専門学校（以下「福井高専」という。）の教育，研究，地域貢献に対して協力するとともに，会員相互並びに福井高専との連携・交流を深めて地域の経済発展，安全・安心，環境保全に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は，第2条の目的を達成するため，次の事業を行う。

- (1) 福井高専との地域産業等との連携に関すること。
- (2) 福井高専の教育・研究への協力及び助成に関すること。
- (3) 産官学連携による技術研究開発の振興に関すること。
- (4) その他本会の目的達成に必要な事業に関すること。

(会員)

第4条 本会の会員は，本会設立の趣旨に賛同する企業をもって組織する。

(役員)

第5条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名以内
- (3) 理事 若干名
- (4) 監事 2名
- (5) 幹事 若干名

(役員の選出及び任期)

第6条 前条第1号から第4号までの役員は，総会において選出する。

- 2 前条第5号の役員は，会長が指名する。
- 3 役員の任期は2年とする。ただし，再任を妨げない。
- 4 欠員が生じた場合の後任の役員の任期は，前任者の残任期間とする。

(役員の職務)

第7条 会長は，本会を代表し，会務を総括する。

- 2 副会長は，会長を補佐し，会長に事故あるときは，その職務を代行する。
- 3 理事は，重要事項を審議し，これを処理する。
- 4 監事は，本会の会計を監査する。
- 5 幹事は，本会の庶務を担当する。

(顧問)

第8条 本会に顧問を置くことができる。

- 2 顧問は，役員会の推薦により会長が委嘱する。
- 3 顧問は，会長の諮問に応じ，又は会議に出席して意見を述べることができる。

(会議)

第9条 本会の会議は，総会及び役員会とし，議長は会長をもって充てる。

第10条 総会は，毎年1回開催し，総会において行う事項は，次のとおりとする。

- (1) 本会の事業推進についての重要事項の決定
- (2) 役員の選出
- (3) 会則の改正
- (4) その他必要事項

第11条 役員会は、必要に応じ会長が招集するものとする。

2 役員会において行う事項は、次のとおりとする。

(1) 本会の事業の企画運営

(2) その他会務遂行上必要と認められる事項

3 役員会の開催が困難である場合は、文書によって協議することができる。

(事務局)

第12条 本会の事務局は、福井県商工会議所連合会内に置く。

(会費等)

第13条 会員は、本会の円滑な運営を図るため、会費を本会へ納付するものとする。

2 会員は、第3条の事業に協力するため、福井高専へ必要な援助をするものとする。

第14条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(その他)

第15条 この会則に定めるもののほか、会則の施行について必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この会則は、平成17年4月1日から施行する。

2 福井工業高等専門学校教育研究振興会会則（平成7年3月22日制定）は、廃止する。

3 この会則は、平成27年6月22日から施行する。

福井高専地域連携アカデミア会費等に関する内規

第1 会費は、毎年1万円とし、年度当初に事務局指定の口座に振り込むものとする。

第2 寄附金は、毎年1口2万円（1口以上）とし、福井工業高等専門学校発行の振込依頼書により納付するものとする。

第3 物品の寄附及び諸援助については、福井工業高等専門学校に申し出るものとする。

附 則

1 この内規は、平成17年4月1日から施行する。

2 福井工業高等専門学校教育研究振興会入会金等に関する内規（平成7年3月22日制定）は、廃止する。

9. 福井高専のシーズ

(部門別, 50 音順)

部門	氏名	所属	キーワード	頁
地域・文化部門	相場大佑	一般科目教室 (自然科学系)	Schrödinger 作用素, Dirac 作用素, 非自己共役作用素, スペクトル理論, 散乱理論	43
	東 章弘	一般科目教室 (自然科学系)	体育授業研究, 移動運動, 健康運動指導	44
	池田彩音	一般科目教室 (人文社会科学系)	物語文学, 平安時代, 『夜の寝覚』, 『源氏物語』	45
	市村葉子	一般科目教室 (人文社会科学系)	話しことば, イントネーション, コーパス, 日本語教育, やさしい日本語	46
	井之上和代	一般科目教室 (自然科学系)	教材開発, グラフアート, 可換環論, モーデルヴェイユ格子理論	47
	奥村充司	環境都市工学科	上水道, 下水道, 水質調査, 地下水汚染, 生物指標	48
	門屋飛央	一般科目教室 (人文社会科学系)	日本語史, 九州方言, 五島列島方言	49
	川畑弥生	一般科目教室 (人文社会科学系)	修復的司法, 少年司法手続, 社会内処遇	50
	木村美幸	一般科目教室 (人文社会科学系)	海軍, 志願兵, 地域, 兵事資料	51
	佐藤勇一	一般科目教室 (人文社会科学系)	メルロ＝ポンティ, 間文化性, 視覚論, 身体論	52
	白崎恭子	教育研究支援センター	ボソン, フェルミオン, 混合系, ボーズ・アインシュタイン凝縮, 不安定性, 転移温度	53
	土田 怜	一般科目教室 (自然科学系)	重力波, 暗黒物質, 宇宙論	54
	中谷実伸	一般科目教室 (自然科学系)	無限可積分系, 数学教材開発	55
	長水壽寛	一般科目教室 (自然科学系)	位相数学 (General Topology), 教材開発, メタ認知	56
	長谷川智晴	(素材・加工部門参照)		124
	原口 治	一般科目教室 (人文社会科学系)	英語, イギリス文学, イギリス文化, 技術英語	57
	挽野真一	一般科目教室 (自然科学系)	超伝導, 磁性, 近接効果, ジョセフソン効果, スピン依存伝導現象	58
	藤田卓郎	一般科目教室 (人文社会科学系)	外国語教育研究, タスク・ベースの言語指導, 実践研究法	59
	古谷峻熙	一般科目教室 (自然科学系)	有機合成, 有機光反応	60
	松井一洋	一般科目教室 (自然科学系)	足関節ブレース, 動作解析	61
	宮本友紀	一般科目教室 (人文社会科学系)	英語教育, コミュニケーション, 言語	62
	森 貞	一般科目教室 (人文社会科学系)	容認性判断, 英語, 日本語, 文法, 語法, 認知言語学	63
	柳原祐治	一般科目教室 (自然科学系)	Percolation, Contact process	64
	山田哲也	一般科目教室 (自然科学系)	移流拡散方程式	65
	Pauline Anne Therese M. Mangulabnan	一般科目教室 (人文社会科学系)	国際交流, 学習組織・コミュニティづくり, 省察, 実践記録, マイノリティ教育支援	66

部門	氏名	研究分野	キーワード	頁
環境・生態部門	上島晃智	物質工学科	環境浄化, 微生物, 機能性と紙	69
	小木曾晴信	教育研究支援センター	測量, 地盤, 環境, 植生, 植樹	70
	奥村充司	環境都市工学科	上水道, 下水道, 水質調査, 地下水汚染, 生物指標	71
	片岡裕一	教育研究支援センター	環境測定, 安全衛生	72
	川村敏之	物質工学科	バイオテクノロジー, 分子生物学	73
	後反克典	物質工学科	微量元素分析, 環境・材料分析, 高感度分析	74
	坂元知里	物質工学科	電気化学, バイオデバイス, 酵素固定化	75
	高山勝己	物質工学科	バイオレメディエーション, バイオセンサー, バイオリファイナリー, 環境創造型農業	76
	廣部まどか	教育研究支援センター	里地里山, 生物調査, 保全活動, W B G T	77
	舟洞久人	教育研究支援センター	生物工学, バイオフィルム, バイオセンサー	78
	松野 敏英	物質工学科	微生物, 物質生産, 生物機能	79
エネルギー部門	秋山 肇	電気電子工学科	パワーエレクトロニクス, テラヘルツ分光技術, 加速器応用, 博物館学	83
	白崎恭子	(地域・文化部門参照)		53
	高久有一	電子情報工学科	核融合, プラズマ閉じ込め配位, 物理シミュレーション	84
	芳賀正和	機械工学科	熱・物質移動, 熱と流れの数値解析, 熱と流れの可視化実験	85
	藤田克志	機械工学科	再生可能エネルギー, 小水力, 粘弾性流体, CFD, 流れの可視化	86
	山本幸男	電気電子工学科	半導体, 薄膜, 太陽電池	87
安全・防災部門	岡本拓夫	一般科目教室 (自然科学系)	福井県及び周辺の地震活動, 地震に関連する諸現象, 強震動, 防災教育	91
	芹川由布子	環境都市工学科	地震, 液状化, 家屋被害, 健康障害, 地域防災, ライフライン	92
	田安正茂	環境都市工学科	氾濫解析, 河道内土砂堆積, 漂砂, 海岸地形変化	93
	辻子裕二	環境都市工学科	防災・減災, リスク評価, 避難行動	94
	辻野和彦	環境都市工学科	リモートセンシング, 地理情報システム, 土砂災害 (斜面崩壊・土石流), UAV (無人航空機)	95
	野々村善民	環境都市工学科	風環境, 新エネルギー, 都市洪水	96
	樋口直也	環境都市工学科	アーチ, シェル・空間構造, 座屈, 有限要素法解析	97
	養輪圭祐	環境都市工学科	コンクリート, 材料物性, 複合構造, メンテナンス	98
	大和裕也	環境都市工学科	MR (Mixed Reality)、まちづくり, 防災教育	99
	吉田雅穂	環境都市工学科	地震, 防災, 減災, 木材, 文化財建造物, ライフライン	100

部門	氏名	研究分野	キーワード	頁
情報・通信部門	青山義弘	電子情報工学科	組込みシステム, FPGA 開発, HDL 設計	103
	小越咲子	電子情報工学科	福祉工学, 個別教育支援, アシスティブテクノロジー, ICT, BMI (Brain Machine Interface)	104
	川上由紀	電子情報工学科	アンテナ, メタマテリアル, RFID, テラヘルツ分光	105
	小松貴大	電子情報工学科	機械学習, 骨格認識, 自動作曲, 知覚・認知, 視覚運動, 運動学習	106
	斉藤 徹	電子情報工学科	インターネット, 緊急連絡システム	107
	佐々和洋	物質工学科	分子シミュレーション	108
	清水幹郎	教育研究支援センター	アルゴリズム理論, プログラミング言語, 情報理論	109
	内藤岳史	教育研究支援センター	保育業務 ICT, IoT, センサーネットワーク, 業務効率化, RPA, 情報セキュリティ	110
	中村孝史	教育研究支援センター	自動化・安全衛生	111
	波多浩昭	電子情報工学科	インターネット, 企業ネットワーク, 仮想ネットワーク	112
	堀川隼世	電気電子工学科	アンテナ, 中赤外光検出器, シミュレーション	113
	丸山晃生	電気電子工学科	記号論理, エージェント, 画像認識	114
素材・加工部門	荒川正和	電気電子工学科	トンネル現象, 音情報処理, 新規アクチュエータ, 工学教育	117
	加藤寛敬	機械工学科	摩耗, 微細組織材料, 電子顕微鏡	118
	北川浩和	(計測・制御部門参照)		141
	久保杏奈	教育研究支援センター	ナイロン人工筋肉, アクチュエータ, 炭素繊維	119
	西城理志	電気電子工学科	太陽電池, ナノ粒子	120
	常光幸美	物質工学科	ウェットプロセス, 電気化学プロセス	121
	高橋 奨	機械工学科	結晶構造・組成制御, 誘電体材料、燃料電池、機能性セラミックス材料	122
	西野純一	物質工学科	薄膜, 化学気相析出 (CVD) 法, ナノ材料, 構造規制	123
	長谷川智晴	一般科目教室 (自然科学系)	ガラス・セラミックス・光吸収・屈折率・光ファイバー	124
	藤田祐介	教育研究支援センター	機械加工, 機械設計, 安全	125
	古谷昌大	物質工学科	ジスルフィド結合, 接着, 吸着, UV 硬化, 解体性, 再接着性, 重金属, タンパク質	126
	堀井直宏	教育研究支援センター	シリカガラス, 石英, 失透, 結晶化, ガラス, 失透抑制	127
	松井栄樹	物質工学科	機能性色素, 天然高分子材料, 金属錯体, 生体分子, 有機合成・同定	128
	松浦 徹	電気電子工学科	電気輸送計測, MEMS/NEMS, 低温実験, 超伝導・密度波	129
	蓑輪圭祐	(安全・防災部門参照)		98

部門	氏名	研究分野	キーワード	頁
素材・加工部門	村中貴幸	機械工学科	板成形, 焼付き, チタン	130
	山田健太郎	教育研究支援センター	機械設計, 機械加工	131
	山本裕之	一般科目教室 (自然科学系)	セルロース, 紙, 構造, ナノファイバー	132
	山脇夢彦	物質工学科	反応有機化学, 有機合成化学, 有機光化学, ファインケミカル	133
計測・制御部門	青木宏樹	一般科目教室 (自然科学系)	体力測定, 子ども, 運動遊び	137
	伊勢大成	機械工学科	インテリジェントタイヤ, パラメータ設計, 機能性評価	138
	金田直人	機械工学科	機構設計, 繊維機械, 画像処理, シーケンス制御	139
	亀山建太郎	機械工学科	制御, モデリング, システム同定, 信号処理, 移動ロボット, 農工連携	140
	北川浩和	教育研究支援センター	機械加工, 汎用工作機械, エンジン分解組立て, 電子工事, 電気工作, 組込み型マイコン	141
	北野公崇	教育研究支援センター	光ファイバ変位計, 3次元特性, 等方性	142
	小松貴大	(情報・通信部門参照)		106
	佐藤 匡	電気電子工学科	予見制御, スライディングモード制御, 入力制限問題	143
	千徳英介	機械工学科	温度計測, 切削抵抗, 工具磨耗, レーザフォーミング	144
	西 仁司	電子情報工学科	信号解析, 画像解析, ものづくり	145
	林田剛一	教育研究支援センター	複合現実, 機械設計, 仮燃加工, シーケンス制御, 空圧機器	146
	村田知也	電子情報工学科	AI, ディープラーニング, プログラミング, 教材開発, ゲーム	147
	米田知晃	電気電子工学科	イオンビーム, 放射線, センサ, 回路設計	148

所属部門	地域・文化	環境・生態	エネルギー	安全・防災	情報・通信	素材・加工	計測・制御
機 械 工学科			藤田克志 ○芳賀正和			加藤寛敬 村中貴幸 高橋 奨	◎亀山建太郎 千徳英介 金田直人 伊勢大成
電気電子 工学科			山本幸男 秋山 肇		丸山晃生 堀川隼世	荒川正和 松浦 徹 西城理志	佐藤 匡 米田知晃
電子情報 工学科			◎高久有一		斉藤 徹 青山義弘 波多浩昭 ◎小越咲子 川上由紀 小松貴大		西 仁司 ○村田知也 小松貴大
物 質 工学科		高山勝己 松野敏英 ◎後反克典 川村敏之 ○坂元知里 上島晃智			○佐々和洋	○常光幸美 松井栄樹 ◎西野純一 古谷昌大 山脇夢彦	
環境都市 工学科	奥村充司	奥村充司		吉田雅穂 辻子裕二 野々村善民 辻野和彦 ○田安正茂 ◎樋口直也 大和裕也 芹川由布子 蓑輪圭祐		蓑輪圭祐	
一般科目 (自然系)	長水壽寛 柳原祐治 井之上和代 山田哲也 中谷実伸 相場大佑 土田 怜 ◎長谷川智晴 挽野真一 古谷峻熙 東 章弘 松井一洋			岡本拓夫		長谷川智晴 山本裕之	青木宏樹
一般科目 (人文系)	市村葉子 門屋飛央 池田彩音 佐藤勇一 ○川畑弥生 木村美幸 森 貞 原口 治 宮本友紀 藤田卓郎 Pauline Anne Therese M. Mangulabnan						
教育研究 支援センター	白崎恭子	小木曾晴信 廣部まどか 舟洞久人 片岡裕一	白崎恭子		清水幹郎 中村孝史 内藤岳史	北川浩和 堀井直宏 藤田祐介 山田健太郎 久保杏奈	北川浩和 北野公崇 林田剛一

地域・文化部門

研究タイトル:

スペクトル理論



氏名: 相場大佑 / AIBA Daisuke

E-mail: aiba@fukui-nct.ac.jp

職名: 准教授

学位: 博士(理学)

所属学会・協会: 日本数学会

キーワード: Schrödinger 作用素, Dirac 作用素, 非自己共役作用素, スペクトル理論, 散乱理論

技術相談

提供可能技術:

- ・
- ・
- ・

研究内容:

これまでの研究としては、関数解析的手法を用いて、数理物理に現れる偏微分方程式の数学的研究、特に原子や分子などのミクロな粒子の運動を記述する量子力学の基礎方程式である、シュレーディンガー方程式或いは、それに伴うシュレーディンガー作用素のスペクトル理論の研究を行ってきました。

これまでにやってきた研究は3つあり、

- ・非自己共役なシュレーディンガー作用素のスペクトル理論ならびに擬スペクトル理論、
- ・強力な磁場を伴うシュレーディンガー方程式の初期値問題のユニタリ解作用素の存在と一意性、
- ・ディラック作用素の散乱理論、初期値問題における解の長時間挙動を解析する上で、重要な役割を果たす、連続スペクトルの閾値でのレゾナンスの存在・非存在。

についての研究を行ってきました。

研究タイトル:

動きを分析する理系志向の「考える体育」

氏名: 東 章弘 / AZUMA Akihiro E-mail: aazuma@fukui-nct.ac.jp

職名: 教授 学位: 博士(理学)

所属学会・協会: 日本バイオメカニクス学会・国際スポーツバイオメカニクス学会

キーワード: 体育授業研究, 移動運動, 健康運動指導

技術相談

提供可能技術:

- ・体育授業において自己の動きを分析するフィードバック
- ・移動運動のエネルギー論
- ・健康運動の指導技法の開発
- ・スポーツを介した地域国際交流



研究内容:

体育授業における自己の動きを分析するフィードバックの一例:

ストロボ画像と座標解析ソフトで走幅跳の踏切フォームを分析してフォームの改善を試みる



提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

ウェアラブル呼吸ガス分析装置・VO2Master (MW-1100)

研究タイトル:

平安時代後期物語『夜の寝覚』の研究

氏名: 池田 彩音 / IKEDA Ayane E-mail: ikeda@fukui-nct.ac.jp

職名: 助教 学位: 博士(文学)

所属学会・協会: 中古文学会、日本文藝学会、立命館大学日本文学会

キーワード: 物語文学、平安時代、『夜の寝覚』、『源氏物語』

技術相談
提供可能技術: ・くずし字で書かれた資料を読みたい方、日本の古典文学を読みたい方などに向けて、公開講座や出前授業、情報発信ができればと考えています。



研究内容:

【平安時代後期の物語『夜の寝覚』とは何か】

平安時代にはさまざまな物語が作られました。その中でも特に有名なものは、『源氏物語』でしょう。その『源氏物語』の影響を受けながらも、一貫して一人の女性を中心人物に据えるという趣向を凝らした、『夜の寝覚』という物語があります。

この物語は、鎌倉時代の物語評論書『無名草子』で高く評価されているほか、絵巻が作られたり、改作本が作られたりと、二次創作意欲をかき立てるほどに注目されていたことがわかります。

残念ながら、現在はその全てを読むことができるわけではなく、物語の中間と末尾が失われた状態の本でしか、読むことができません。しかしながら、かつて注目されていた作品であったがゆえに、他の資料の記述からその内容を推察できます。

他の資料の扱いには注意が必要ですが、現存する『夜の寝覚』の記述と他の資料の記述を検討し、どのようなつながりを見出すことができるか、どのように解釈が可能かということを常に問い続け、『夜の寝覚』という作品をいかに捉えることができるかについて研究を進めています。

【女性を主人公として物語を展開させる方法とは何か】

平安時代、特に身分の高い女性は、行動範囲や交流関係も限られていました。光源氏という男性を主人公とした『源氏物語』と比べて『夜の寝覚』が大きく異なるのは、そうした物語を展開させるうえで制約のある女性を主人公に据えている点です。『夜の寝覚』が物語を展開させるのに用いた方法とはどのようなものか、ということに関心を持ち、主としてその言葉の使い方や意味の分析を通して考察を行っています。

これまでの研究では、人物造型や『源氏物語』などの先行作品との関わりから、物語が必然的に展開していくような言葉が意識的に配置されていることがわかってきました。こうした検討を通して、『夜の寝覚』という作品についてだけでなく、『夜の寝覚』が他の先行作品などをいかに読み取っていたか、ということについても明らかになってきました。

『夜の寝覚』は全貌のわからない作品ではありますが、他の作品にはない特徴を持ち、平安時代後期という時代を知るために重要な作品です。日本文学史を正確に把握するには、この作品の検討が不可欠だと考え、研究を行っています。

研究タイトル:

日本語話し言葉の研究



氏名: 市村葉子 / ICHIMURA Yoko E-mail: ichimura@fukui.kosen-ac.jp

職名: 准教授 学位: 博士(学術)

所属学会・協会: 計量国語学会、日本語用論学会、日本語／日本語教育研究会

キーワード: 話しことば、イントネーション、コーパス、日本語教育、やさしい日本語

技術相談
提供可能技術:

- ・ 日本語ボランティア養成講座
- ・ 外国人のためのやさしい日本語への書き換え

研究内容:

【話し言葉の記述】

「ちょっとわからないんだよね」という言い方は、使われる文脈やイントネーションによって、「確認」にも「意思表示」にもなります。こうした文末表現を会話データから取り出し、それらの表現と発話意図を記述することを目的に研究しています。言葉は時代とともに変化しています。年代の異なるコーパス(言語資源)を用いて、年代に応じた言語の有様を分析するとともに、なぜそのような変化が起きたのかも考察しています。

【外国人に対する日本語指導】

外国人にわかりやすく、生活に役立つ日本語を教える研究をしています。外国人労働者受け入れ拡大に伴い、彼らは当然ですが、共存する地域住民のためにも、日本語教育支援は喫緊の課題です。これまで越前市国際交流協会の日本語アドバイザーとして、定住外国人の日本語支援をされているサポーターの方に日本語教育の方法を指導してきました。

今後も地域と協力し、地域住民と年少者を含めた定住外国人にとって住みやすいまちづくりに貢献できるよう取り組んでいきます。

【外国人のためのやさしい日本語への書き換え】

「易しい」ことばで「優しく」伝えるために必要な日本語とは何か、やさしい日本語で何ができるかについて興味があります。当初は災害時において定住外国人の方での情報提供を目的として、やさしい日本語は考案、使用されるようになりましたが、現在では地域のお便りや話し言葉でもニーズが高まっています。

外国人の国籍が多様化している今、ますます「やさしい日本」へのニーズは高まると予想されます。これまで主に越前市や鯖江市と協力し、地域のお知らせ、生活のためのガイドブックをやさしい日本語に書き換える活動に携わってきました。今後は定住外国人のための防災マップやガイドラインの作成を行いたいと思っています。

研究タイトル:

テクノロジーを活用した数学教育

氏名:	井之上和代/INOUE Kazuyo	E-mail:	k-inoue@fukui-nct.ac.jp
職名:	准教授	学位:	修士(理学)

所属学会・協会: 日本数学会

キーワード: 教材開発, グラフアート, 可換環論, モーデルヴェイユ格子理論

技術相談
提供可能技術:

・
・
・

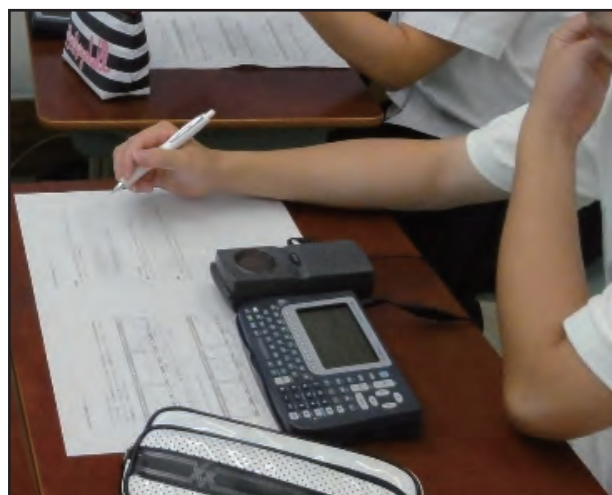
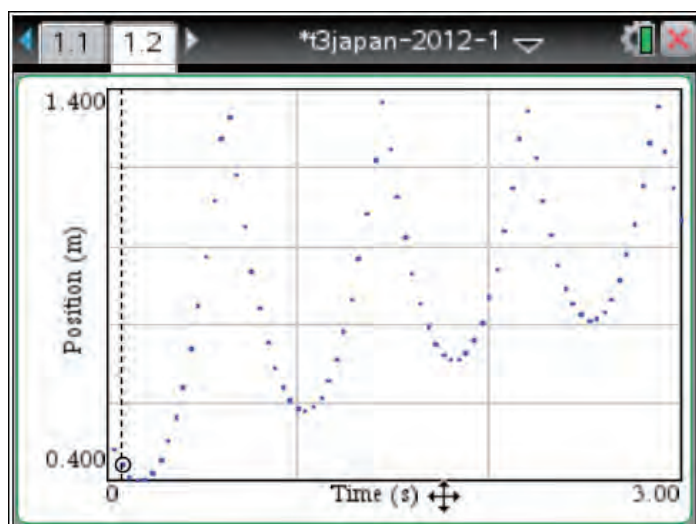


研究内容:

グラフ電卓や PC のソフトウェアを活用した, 数学の教材の開発をし, 授業で活用しています。

- * 関数グラフアート…グラフ電卓のグラフ描画機能を活用して, 関数のグラフで絵を描き, 関数の性質を理解する教材です。この活動の効果についての検証をしています。
- * 実験教材の開発…数学と物理や工学の分野との橋渡しとなるような実験教材を考案し, 授業で実践しています。
- * 課題プリントの作成, 授業用プリントの作成電子黒板での授業に対応できるような, 教材の開発をしています。

その他, 可換環論について勉強をしています。



研究タイトル:

ビオトープ, 名水, 湧水の整備・維持管理に関する研究

氏名: 奥村充司 / OKUMURA Mitsushi E-mail: okumura@fukui-nct.ac.jp

職名: 准教授 学位: 工学修士

所属学会・協会: 土木学会, 日本水環境学会, 日本材料学会, 廃棄物学会, 応用生態工学会, NPO 福井地域地盤防災研究所

キーワード: 上水道, 下水道, 水質調査, 地下水汚染, 生物指標

技術相談
提供可能技術:

・
・



研究内容:

2014 年全国メダカシンポジウムの 2 度目の開催に向けて、越前市内ビオトープの調査、パンフレットの作成を行いました。また、福井県のおいしい水認定箇所の継続的な維持管理を目指し、現状を調査し、保全活動の指針を作成しました。



研究タイトル：

一地点の方言の包括的記述

氏名：	門屋飛央／ KADOYA Takateru	E-mail：	kadoya@fukui-nct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(文学)
所属学会・協会：	日本語学会, 西日本国語国文学会, 九州方言研究会, 筑紫日本語研究会, 九州大学国語国文学会, 福井大学言語文化学会		
キーワード：	日本語史, 九州方言, 五島列島方言		
技術相談 提供可能技術：	- 方言調査の実施		



研究内容：

九州地方の西に位置する、五島列島方言の文法が専門です。五島列島のなかでも、宇久島の方言を中心に記述しています。下図の黒部分が宇久島(宇久町)です。方言というと、どうしても共通語と異なる部分に注目が集まります。同じ日本語でもこのように異なるのは、そこに方言独自の言語体系があるからです。その方言独自の言語体系を明らかにするために、共通語と異なる部分だけを記述するのではなく、その方言を包括的に記述することを行っています。



図 1 宇久町の位置



図 2 宇久平港

日本語の中央語は、江戸時代前期までは京都の言葉、江戸時代後期からは江戸・東京の言葉です。これまで日本語史の研究では、この中央語の歴史を中心に扱ってきました。しかし、日本語とは日本列島すべてで話されている言葉であるはずですが、方言を記述することで、中央語だけの通時的な視点だけでなく、通方言的な視点を持つことができます。その視点から、日本語史を重層的に考察しています。

また、日本語史研究と世界の言語研究は、互いに応用・検証しあう関係にあります。中央語には見られない言語現象が、方言にはみられるので、その記述は、世界の言語との対照にも役立つものになります。

研究タイトル:

犯罪被害者と加害者による対話の効果検証

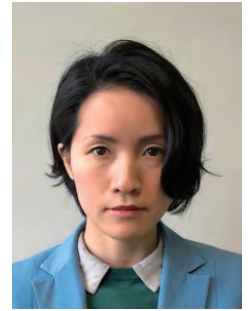
氏名:	川畑弥生/KAWABATA Yayoi	E-mail:	kawabata@fukui-nct.ac.jp
職名:	助教	学位:	博士(政策科学)

所属学会・協会: 日本公共政策学会, 更生保護学会

キーワード: 修復的司法, 少年司法手続, 社会内処遇

技術相談

提供可能技術:



研究内容:

現行の刑事司法手続や少年司法手続の目的は、
①真実の解明と②罪を犯した者に対して罰を科すことが、
その主たる目的です。

そのため、犯罪被害者は事件の関係者であるにも
関わらず、当事者として刑事司法手続に関わることが
できず、「国家」と「加害者」という構図で手続が進めら
れてしまいます。

「修復的司法」は、そこに犯罪被害者が参加し、被害者
の救済や癒しに効果のある取り組みとして、主にヨーロッパ
諸国、アメリカ、オセアニア諸国等で実施されています。

日本においても、警察主導のパイロット事業やNPO
での取り組みは行われておりますが、効果の検証は十分
に行われておりません。

日本で実施した場合の効果について検証するとともに、
教育現場で生じる問題の1つである「いじめ」や「非行」と
いった諸問題への応用と実践が研究課題です。

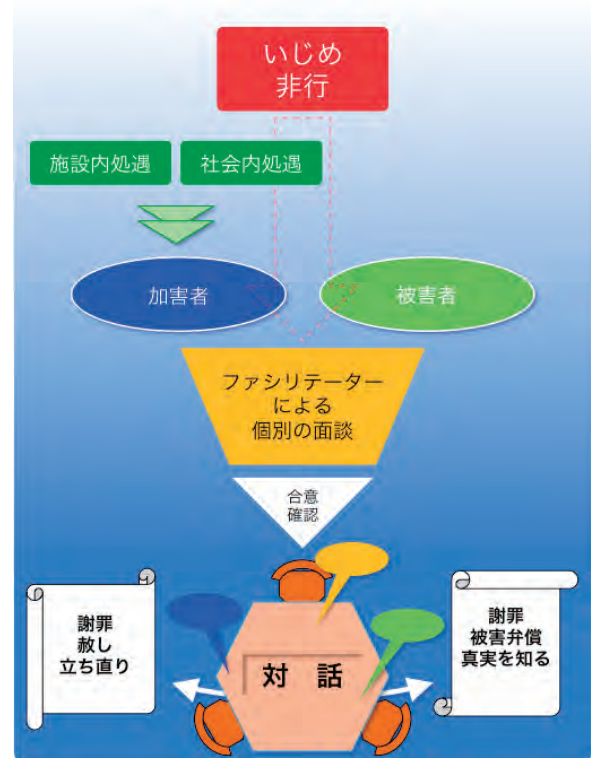


図1 対話による解決のアプローチフロー図

研究タイトル:

軍隊と地域の関係について、志願兵について



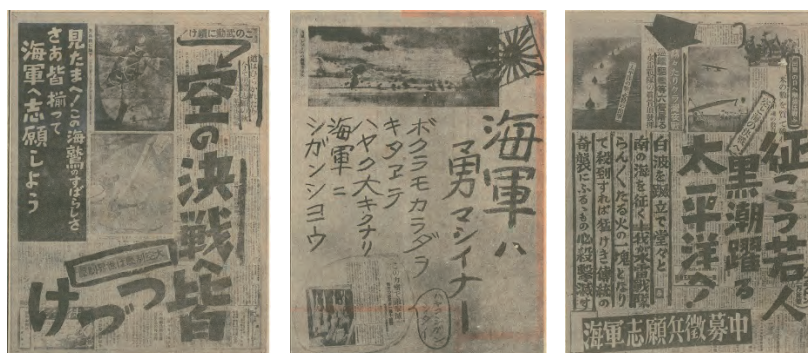
氏名:	木村 美幸/KIMURA Miyuki	E-mail:	m-kimura@fukui-nct.ac.jp
職名:	助教	学位:	博士(歴史学)
所属学会・協会:	史学会, 日本歴史学会, 大阪歴史学会, 近現代史研究会, 日本史研究会, 歴史学研究会, 福井県郷土誌懇談会		
キーワード:	海軍, 志願兵, 地域, 兵事資料		
技術相談 提供可能技術:	・自治体史編さん ・歴史資料整理や目録作成		

研究内容:

【海軍志願兵についての研究】

日露戦争後～アジア・太平洋戦争期に海軍志願兵をどのように集めていたかについて研究しています。戦前の軍隊の制度としては、20歳以上が入営する徴兵制度が有名ですが、「予科練」に代表されるように、海軍は常に一定の割合を20歳未満の全国の青少年から志願で集めていました。青少年が海軍を志願するためには、周りでそれを支える仕組みが必要であったはずですが、こうした点を明らかにするために、海軍がどのような拠点を地域に設けていたのかを研究しています。

こうした拠点について検討するにあたり、海軍協会や地方海軍人事部・在郷軍人会などの組織の動向について、各地の役場に残る行政文書や防衛省防衛研究所の資料・各種ポスター類などを使って研究しています。(写真は「啓発新聞の作り方」2〔日本宣伝研究所、1943年〕より、海軍志願兵募集のために児童生徒が作成するポスター一例)。



【軍隊と地域についての研究】

前述の海軍の研究を軸にして、今後は陸軍も含めた軍隊と地域の関係についての研究を進めていきたいと思っています。特に鯖江は歩兵第36連隊が置かれた「軍都」でもあるので、今後は鯖江市域の軍隊と地域の関係についても研究していきたいと思っています。

研究タイトル:メルロ＝ポンティ哲学研究 (他に、間文化現象学研究、哲学対話
研究、視覚・身体に関する思想史研究)



氏名: 佐藤 勇一 / SATO Yuichi E-mail: y-sato@fukui-nct.ac.jp

職名: 准教授 学位: 博士(文学)

所属学会・協会: 日本現象学会, 日仏哲学会, 関西哲学会, 関西倫理学会,
メルロ＝ポンティ・サークル, 日本ミシェル・アンリ哲学会

キーワード: メルロ＝ポンティ, 間文化性, 視覚論, 身体論

技術相談
提供可能技術: ・メルロ＝ポンティ, 間文化性, 視覚論, 身体論に関する講座
・
・

研究内容:

【メルロ＝ポンティ研究について】

メルロ＝ポンティの哲学を中心に、哲学・現代思想について研究しています。これまでに、メルロ＝ポンティ関連の翻訳に携わるとともに、メルロ＝ポンティが哲学以外の領域(心理学, キリスト教, 芸術, 人類学など)との対話を通じて、古典的な哲学(とくに 17 世紀)が問題にした「存在」「自然」「人間」の関係を、古典的な仕方とは別の仕方ですてえ直していることを明らかにしてきました。今後は晩年の未公刊草稿も視野に入れることによって、メルロ＝ポンティ研究の深化を目指すとともに、後期思想の応用可能性について探り、メルロ＝ポンティ研究の拡張も目指します。

【間文化現象学、哲学対話について】

間文化現象学という、文化と文化の間で生起する間文化的な諸現象を現象学的に解明するプロジェクトに 10 年以上参加してきました。また、2018 年より p4c(子どもの哲学)という近年世界の国や地域で実践されている哲学対話に取り組み、国内やハワイの教育実践から学び始めました。今後は p4c のような教育実践研究、身体に関する哲学以外の分野との共同研究など、哲学研究(とくにメルロ＝ポンティを中心としたフランス哲学研究)を中心にしつつ他の分野と関わる新たな研究領域の創出を目指します。

【「視覚」について】

これまでも、メルロ＝ポンティの芸術論を取り上げたり、ケプラーやデカルトの光学に関するメルロ＝ポンティの視覚論を、間文化現象学的に取り上げたりするなど、「視覚」を主要な研究テーマのひとつとしてきました。ジェイの視覚に関する著作『うつむく眼』の翻訳もしました。鯖江市や大野市の図書館での講演など、メルロ＝ポンティや視覚に関する講演で地域に貢献してきました。今後は、フランス哲学における視覚に関する考察を現象学のみ限定せずに取り上げたりすることによって、「視覚」や「技術」「身体」に対して思想的にアプローチする研究に取り組んでいきたいと考えています。

研究タイトル:

ボソン-フェルミオン混合多体系のボーズ・アインシュタイン凝縮

氏名:	白崎 恭子 / SHIRASAKI Kyoko	E-mail:	shirasaki@fukui-nct.ac.jp
職名:	技術職員	学位:	博士(理学)
所属学会・協会:	日本物理学会, 応用物理学会応用物理教育分科会, 日本物理教育学会, 日本工学教育協会		
キーワード:	ボソン, フェルミオン, 混合系, ボーズ・アインシュタイン凝縮, 不安定性, 転移温度		
技術相談 提供可能技術:	・ ・		



研究内容:

すべての物質はボソンとフェルミオンに分けることができます。ボソンは1つの状態を複数の粒子が占めることができ、フェルミオンは1つの状態を1粒子しか占めることができない(パウリの排他律による)という特徴があります。このため、温度がほぼゼロの低温のとき、ボソンとフェルミオンは異なったふるまいを示します。ボソンの場合にはエネルギーゼロの最低エネルギー状態へ全粒子が集まるボーズ・アインシュタイン凝縮(図1)が起こり、フェルミオンの場合には最低エネルギー状態から順番に粒子が埋まってゆき、フェルミ面をつくります(図2)。

エネルギー



図1: ボソン

エネルギー

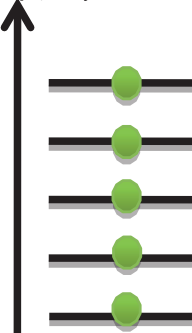


図2: フェルミオン

ここで、ボソンとフェルミオンを混合し、互いが相互作用をしている場合にはどのようなふるまいを示すのかを研究しています。具体的には、ボソン-フェルミオン間の相互作用を引力とし、その強さによりボーズ・アインシュタイン凝縮の転移温度はどのように変化するかを調べています。

また、ボソン-フェルミオン間の相互作用が引力のとき、低温では系が不安定になります。不安定になる温度の、ボソン-フェルミオン間の相互作用の強さによる変化についても調べています。

研究タイトル:

重力波データ解析と重力理論検証の研究

氏名: 土田 怜 / TSUCHIDA Satoshi E-mail: tsuchida@fukui-nct.ac.jp

職名: 助教 学位: 博士(理学)

所属学会・協会: 日本物理学会

キーワード: 重力波、暗黒物質、宇宙論

技術相談
提供可能技術:

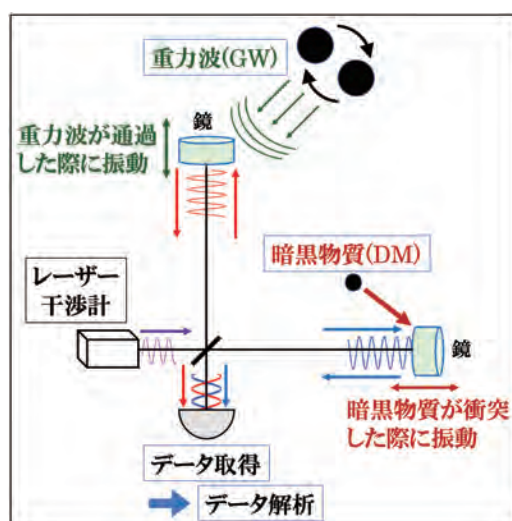
・
・
・



研究内容:

現在の宇宙論では、宇宙の構成要素は「通常の物質」、「暗黒物質」、「暗黒エネルギー」の3つの成分に大別できるとされていますが、通常の物質の割合はわずか5%程度でしかないことがわかっています。この結果、素粒子標準理論を超える理論から現れる新粒子が暗黒物質の有力候補として考えられるようになり、その正体を解明すべく、理論・実験の両面から研究が行われています。また、2015年9月には世界初の重力波直接検出が達成され、ブラックホール連星の存在が観測によって初めて示されました。以来、多くの重力波イベントが検出されています。このように、宇宙に関する研究開発は日進月歩の発展を遂げており、暗黒物質、重力波、ブラックホールに関する研究が世界各国で活発に行われています。

私はこれまで、暗黒物質が重力波検出器に衝突した際に生じる信号の考察、重力波のデータ解析、ブラックホールがまわりの時空に与える影響の議論、といった研究を行ってきました(イメージ図を下記に掲載)。また現在は、重力波に関する研究を主に行い、一般相対性理論をはじめとする重力理論の検証や宇宙に関する研究を遂行しています。



研究タイトル:

テクノロジーを用いた数学教育



氏名: 中谷実伸 / NAKATANI Minobu E-mail: nakatani@fukui-nct.ac.jp

職名: 教授 学位: 博士(理学)

所属学会・協会: 日本数学会

キーワード: 無限可積分系, 数学教材開発

技術相談

提供可能技術:

-
-
-

研究内容:

グラフ電卓やパソコン, iPad などのテクノロジーを活用した数学教育の研究ならびに教材開発を行っています。



レーザーカッターや3D プリンタ, 3D プロッタなどを使い, オリジナルの数学教材を作成し, 授業などで実際に活用する研究を行っています。



研究タイトル:

テクノロジーを用いた数学教育の研究

氏名: 長水壽寛 / NAGAMIZU Toshihiro E-mail: nagamizu@fukui-nct.ac.jp

職名: 教授 学位: 博士(理学)

所属学会・協会: 日本数学会, 日本数学教育学会, 数学教育学会, 日本数学協会

キーワード: 位相数学 (General Topology), 教材開発, メタ認知

技術相談

提供可能技術:

・
・
・



研究内容:

- ・ グラフ電卓などのテクノロジーを用いて, 学生の探究活動を促す教材開発および, 授業実践を試みています。
- ・ 関数のグラフで作成した「関数グラフアート」の全国コンテストも, 福井高専が事務局となって行っています。



数学教育にテクノロジーを導入することで, 「メタ認知」がどのように育成されるか? また, その仕組みについても研究しています。

研究タイトル:

「技術英語及び英語文学を通しての地域貢献」

氏名:	原口治/HARAGUCHI Osamu	E-mail:	osamuh@fukui-nct.ac.jp
職名:	教授	学位:	修士(文学)
所属学会・協会:	日本英文学会, 日本ロレンス協会, テクスト研究学会, 日本英文学会中部支部, 日本高専学会		
キーワード:	英語, イギリス文学, イギリス文化, 技術英語		
技術相談 提供可能技術:	・ ・		



研究内容:

【「イングランドらしさ」のイデオロギーについて】

「イングランドらしさ」のイデオロギーについて, エドワード朝文学を中心に研究しています。これまで主に, D.H.ロレンスと E. M. フォースターの「イングランド人としての意識(= "Englishness")」を実生活と作品の双方から研究してきました。ケンブリッジ大学での各種調査(平成15年度文科省在外研究員・若手12ヶ月)等の研究成果を学会発表や論文等で公表しております。平成25年度は共著書の出版に向けての各種研究に主従事する予定です。

「主要研究成果」

翻訳: 吉村宏一他編訳, 『D.H.ロレンス書簡集Ⅶ』, 東京: 松伯社, 2013.

【技術英語教育モデル構築】

国際的技術者に必要とされる英語教育カリキュラムの構築と実施に関する研究を, 本校専攻科英語教育を中心に行なっています。これと並行して, 企業で必要とされる一般的な技術英語教育全般についても, 科学研究費受入の下, 各種研究や実地調査を含めて, 今後さらに研究展開する計画です。

「主要研究成果」

著書: 原口治他編著, 『自然科学を読む: 過去・現在・未来—工業英検対応—』, 東京: 朝日出版, 2012.

【英語文学および文化研究を通しての地域貢献のありかた】

福井県や鯖江市を中心に各種の地域貢献を展開しております。

県レベルでは, 平成 25 年度福井県大学連携リーグ連携研究推進事業補助金受入の下で, 今後研究展開する計画です。鯖江市においては, 鯖江市高年大学で, 英語に関する新特別講座開講を中心に, 地域貢献のありかたについて研究展開する計画です。以上の実践的な地域貢献を多角的に考察し, 今後, 論文や口頭発表の形で, 研究成果を公表する予定です。その他, 上記の研究テーマ【技術英語教育モデル構築】もご参照ください。

研究タイトル:

スピン依存伝導現象の理論的研究

氏名: 梶野真一 / HIKINO Shinichi E-mail: hikino@fukui-nct.ac.jp

職名: 准教授 学位: 博士(理学)

所属学会・協会: 日本物理学会

キーワード: 超伝導, 磁性, 近接効果, ジョセフソン効果, スピン依存伝導現象

技術相談

提供可能技術:



研究内容:

超伝導/強磁性多重接合における近接効果の理論

超伝導/強磁性(S/F)接合では, 近接効果によって S が s-波超伝導体に関わらず, F に 2 つの電子のスピン向きがそろったスピン三重項クーパ対が誘起されます(図 1)。ここで, 近接効果とは, 超伝導体と非超伝導体の接合を作ると, 超伝導体のクーパ対の波動関数が非超伝導体へ染み出す効果です。SF 接合で現れるスピン三重項クーパ対のスピンをどのように観測すればよいのか, に関する研究が注目されつつあります。

研究成果の一例として, 図2 の左側に示した, 超伝導体, 強磁性体そして常磁性体の多重接合で, 近接効果によって常伝導体中に誘起されるスピン三重項クーパ対のスピンを調べました。その結果, スピン三重項クーパ対のスピンに起因した磁化が, 常伝導体に誘起されることを明らかにしました(図 2 の右側)。この磁化の特徴は, 超伝導体間の位相差(θ)によって制御することができます。 θ を変えることによって, 磁化の大きさが変わるので, この磁化の変化を実験的に観測できれば, スピン三重項クーパ対の存在を直接確認することができます。今後は, 応用への可能性も視野に入れて研究を行う予定です。



図.1 超伝導/強磁性接合において, 近接効果によって出現するスピン三重項クーパ対の概念図

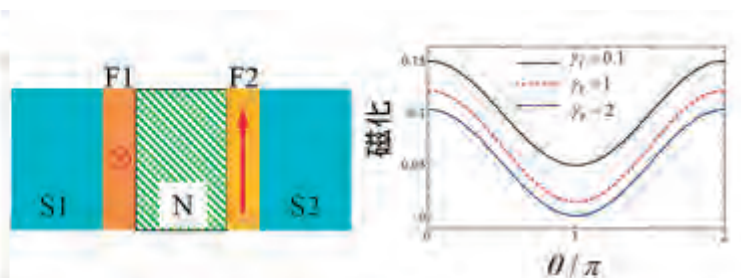


図.2 超伝導体(S), 強磁性体(F)そして常磁性体(N)から構成される多重接合(左の図)で, スピン三重項クーパ対のスピンによって N に誘起される磁化の S 間の位相差の依存性(右の図)

研究タイトル:

教師による実践研究法の探求



氏名: 藤田卓郎 / FUJITA Takuro E-mail: t-fujita@fukui-nct.ac.jp

職名: 准教授 学位: MA in TEFL

所属学会・協会: 全国英語教育学会, 外国語教育メディア学会, 全国語学教育学会, 中部地区英語教育学会

キーワード: 外国語教育研究, タスク・ベースの言語指導, 実践研究法

技術相談
提供可能技術:

研究内容:

【英語コミュニケーション能力の育成】

英語によるコミュニケーション能力の育成や、コミュニケーションへの動機づけを促進する指導法を研究しています。特に、タスクと呼ばれるコミュニケーション活動を用いた言語指導(Task-Based Language Teaching)について研究しています。コミュニケーションを活性化するタスクの作成方法や指導方法に関心があります。これまでに、スピーキングタスクを行う前の事前準備時間(pre-task planning time)やタスクの繰り返し(task repetition)が学習者の発話の流暢さ、複雑さ、正確さに及ぼす影響について研究報告を行っています。

【英語教師による実践研究法】

英語教師が自身の指導文脈において行う、実践研究(practitioner research)の方法について研究しています。具体的には、アクション・リサーチ(action research), 探究的実践(exploratory practice), 反省的実践(reflective practice)のアプローチを用いた実践研究法に関心があります。教室内での教育実践から理論を生成する方法や、理論と実践を融合させるための方法を研究しています。これまでに、ICT やタスクを用いた言語指導について、アクション・リサーチや探究的実践の枠組みを用いた実践研究を報告しています。また、実践研究に関するワークショップ・講演を行ったり、研究法に関する書籍を出版したりしています。

著書

- 浦野研・亘理陽一・田中武夫・藤田卓郎・高木亜希子・酒井英樹 (2016). 『はじめての英語教育研究: 押さえておきたいコツとポイント』 研究社.
- 田中武夫・高木亜希子・藤田卓郎・滝沢雄一・酒井英樹 (2019). 『英語教師のための「実践研究」ガイドブック』 大修館書店.

ワークショップ・講演

- 中部地区英語教育学会研究法セミナー
- 関西英語教育学会第 35 回 KELES セミナー
- 関西英語教育学会 2019 年度(第 24 回)研究大会セミナー
- 外国語教育メディア学会(LET)第 60 回全国研究大会ワークショップ



研究タイトル：

光触媒の合成及び光反応



氏名：古谷 峻熙／FURUTANI Toshiki E-mail: t-furutani@fukui-nct.ac.jp

職名：助教 学位：修士（工学）

所属学会・協会：

キーワード：有機合成、有機光反応、

技術相談
提供可能技術：
・光反応に関するご相談
・発泡充填材、接着剤に関するご相談
・CAE モデリングに関するご相談

研究内容：

国際サミットにおいてSDGsが採択されてから、CO₂削減を目標にした様々な取り組みが、企業や研究機関で行われています。そのような中、クリーンなエネルギーとして光エネルギーも注目を集めており、特に光を用いた化学反応の研究が盛んに行われています。

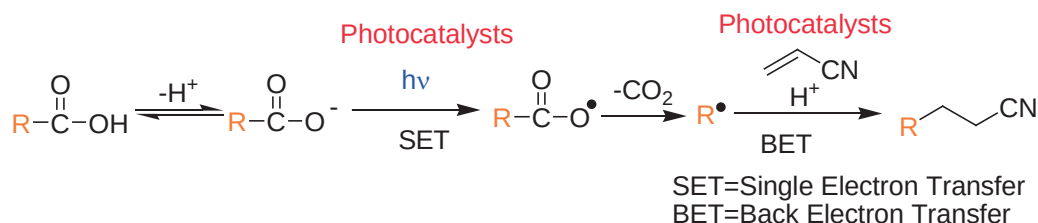
●理科教材研究

これまでの光についての学生実験は、反射や屈折のような光の性質やソーラーパネルを利用した実験であり、教育課程においても光を用いた化学反応は含まれていませんでした。しかし、近年、上記で述べたように、光を用いた化学反応は世界的に研究が行われているため、今後より一層必要になる分野だと考えられます。そこで、光を用いた化学反応に関して学生が理解を深めるための教育教材の開発を目指しています。

●光や電氣を用いた化学反応の研究

光エネルギーを用いた化学反応では穏やかな条件下（室温など）で、熱反応では生成できない生成物を新たな反応機構で生成することができます。そのような光化学反応では、反応の効率を向上させる為に光触媒（Photocatalysts）が用いられ、IrやRuのような遷移金属触媒や福住触媒のような有機光触媒が知られています。

特に、金属を用いず、穏やかな条件下で反応が進行する新たな有機光触媒の合成や、それを用いた光反応を研究することがテーマとなっています。また、今後、光だけでなく電氣も用いた化学反応の研究にも取り組んでいきます。



研究タイトル:

足関節ブレースの効果と動作への影響

氏名: 松井一洋/MATSUI Kazuhiro E-mail: matsui@fukui-nct.ac.jp

職名: 准教授 学位: 修士(教育学)

所属学会・協会: 日本体育学会, 日本バイオメカニクス学会

キーワード: 足関節ブレース, 動作解析

技術相談

提供可能技術:

- ・
- ・
- ・



研究内容:

足関節捻挫の予防, 再発防止を目的として使用される足関節ブレースは, 自分で着脱することができ, 繰り返し使用することが可能です。そのブレースが動作に対してどれだけの抵抗力(モーメント)を発揮しているのか, 動作とブレース装着によって受ける力が膝関節などにどのような変化を与えるのかについて研究しています。



研究タイトル：

コミュニケーションのコンテキストにおける言語の使用の特徴

氏名：	宮本友紀／MIYAMOTO Yuki	E-mail：	miyamoto@fukui-nct.ac.jp
職名：	教授	学位：	Master of Science
所属学会・協会：	全国英語教育学会，中部地区英語教育学会，全国高等専門学校英語教育学会		
キーワード：	英語教育，コミュニケーション，言語		
技術相談 提供可能技術：	・ ・		



研究内容：

多様なコミュニケーションのコンテキストにおける言語の使用の特徴やニーズの研究をしています。またその応用として外国語教育における言語指導の研究をしています。

研究タイトル:

容認性判断に「揺れ」が生じる日英語の言語事象に関する認知言語学的研究

氏名: 森 貞 / MORI Sadashi

E-mail: mori@fukui-nct.ac.jp

職名: 教授

学位: 博士(文学)

所属学会・協会:

日本英語学会, 日本言語学会, 日本英語表現学会, 日本認知言語学会, 日本語用論学会, 大阪大学英文学会, 金沢大学英文学会

キーワード:

容認性判断、英語、日本語、文法、語法、認知言語学

技術相談

提供可能技術:

- ・日英認知モードの違いを意識した英文作成についての講演
- ・日英認知モードの違いを意識した英会話力養成についての講演
- ・日英語の語法・文法についての講演



研究内容:

【研究の概要】

文法には、大別して、規範文法(学校文法)と記述文法がある。また、近年の認知言語学的アプローチによる言語研究の隆盛により、rule-based から usage-based(これ自体は目新しいものではないが)への言語観(言語に対するアプローチ)への転換に基づく言語事象の研究が行われるようになってきている。これに連動して、(任意の)言語事象に対する容認性判断に「揺れ」が生じる可能性は十分にあるということが当然の帰結として捉えられるようになってきている。

本研究では、この「揺れ」が生じる認知的要因を具体的な言語事象に関する容認性判断の言語感覚調査(インターネットにおける言語フォーラムでの問いかけを含む)やインターネット上に公開されている大規模コーパス(データベース)等の KWIC 検索(音声解析を含む)を通して明らかにすることを目的とする。

【研究の核心】

従来の言語研究においては、言語研究者の内省(容認性判断)に基づき、非文とそうでない文の観察を通して、任意の言語事象の生成に関わるルール(規則)の同定が行われていたが、同一の言語事象に対して、母語話者の言語学者間においてさえ容認性判断に大きな差異(容認可能と判断する言語学者が存在する一方で容認不可能と判断する言語学者が存在すること)が認められる先行研究が存在することや、近年の大規模データベースを用いた言語研究(コーパス言語学)の隆盛により、任意の言語事象の容認性判断に「揺れ」が存在することが明らかになっている。

したがって、この容認性判断の「揺れ」を生じさせている要因を明らかにすることが、言語事実の解明には不可欠であり、「(任意の)言語事象の容認性判断に「揺れ」を生じさせている(認知的な)要因は何であるか?」という問いに答えることが本研究の核心である。

【研究対象となる具体的な言語事象】

日本語

・疑問詞と「かどうか」の共起

・いわゆる NR 述語(e.g. 「思う」)を主節述語とする従属節中の強 NPI(e.g. 「だれも」「しか」「まで」etc.)の認可

・「なぜ」を含む多重疑問詞疑問文

・複合動詞(V1+V2)の受身形(二重受け身表現を含む)と英語の相当表現

英語

・I don't {think / believe / know that} ーp. [function: weak assertion of ーp]

・S know whether P

・'as opposed to' の等位接続詞的用法

研究タイトル:

モンテカルロ法



氏名：柳原祐治／YANAGIHARA Yuji E-mail：y-yanagi@fukui-nct.ac.jp

職名：教授 学位：理学修士

所属学会・協会：日本数学会

キーワード：Percolation, Contact process

技術相談
提供可能技術：

- ・
- ・
- ・

研究内容：

確率論と統計力学を基本として、「無限粒子が相互作用するなかで、相全体の様子がどのようにふるまうか」ということについて、percolation model や contact process などの、様々なモデルにおいて研究を行っています。

基本的には、数学の理論の枠組みのなかでの結果を求めています。ときには、コンピューターで乱数を発生させ、シミュレーションを行って、「とにかく何が起きているのか」ということを調べ、理由を探るという研究手法をとることもあります。(このような手法を「モンテカルロ法」といいます。)

ですので、

金属内部, 流体, 交通流

等の対象について、モンテカルロ法で調べるといった依頼に応じることができます。

研究タイトル:

移流拡散方程式の解の定性理論

氏名: 山田哲也/YAMADA Tetsuya E-mail: yamada@fukui-nct.ac.jp

職名: 准教授 学位: 博士(理学)

所属学会・協会: 日本数学会

キーワード: 移流拡散方程式

技術相談

提供可能技術:



研究内容:

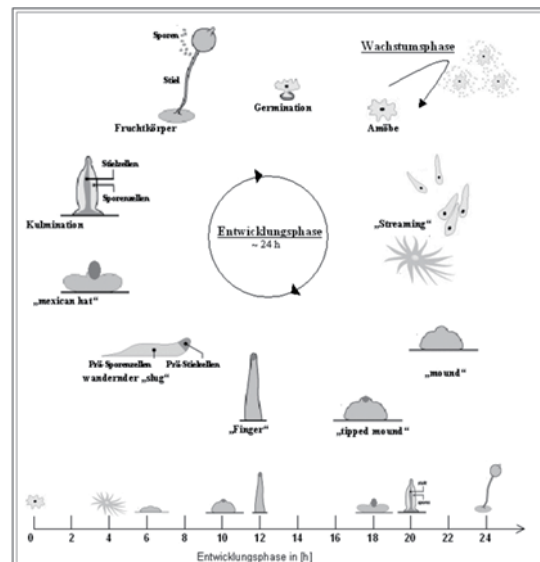
関数解析や調和解析を用いて移流拡散方程式(例えば走化性粘菌モデルや半導体シュミレーションモデルなど)における解の定性的性質を調べています。最近は

- ・時間無限大での解の振る舞い(漸近形や漸近率)
- ・定常解の安定性

に関する研究を行っています。

$$\partial_t u = \Delta u - \nabla \cdot (u \nabla v), \quad \partial_t v = \Delta v - v + u$$

移流拡散方程式とは



走化性による細胞性粘菌の形態形成

出典 <http://ja.wikipedia.org/wiki/細胞性粘菌>

研究タイトル:

Teacher Reflection and Lesson Study

氏名:	マグラブナン ポリン アンナ テレーゼ マラヤノ Anne Therese M. Mangulabnan	E-mail:	pauline@fukui-nct.ac.jp
職名:	助教	学位:	教職修士(専門職)
所属学会・協会:	国際授業研究会、フィリピン授業研究会、World Education Research Association, Math and Mathematics Education in Developing Countries		
キーワード:	国際交流、学習組織・コミュニティづくり、省察、実践記録、マイノリティ教育支援		
技術相談 提供可能技術:	・		



研究内容:

【 Teacher Reflection and Lesson Study 】

The research focuses on how and what teachers reflect upon in their classrooms. How do teachers design their lessons? How do teachers interpret the behavior and outputs of students? The research looks at the professional capital of teachers, which includes how they can work with each other. The researches were situated in the Philippines and sub-Saharan Africa.



【 Building Communities to Support Learning 】

The research focuses on supporting minorities in Fukui, including students and teachers. The teachers were international students who came to Japan to learn about the educational system of the country. The students are children with foreign roots who has struggles in adopting into the Japanese classrooms. As a result, the research looks at the role of community to support learning of such 'minority'.



【English and Language Curriculum and Learning】

The research focuses on the comparison of the language education practices and curriculum studies of the Philippines, Japan, Guatemala, Cambodia and Myanmar. Furthermore, the research looked at the advantage and potential room for improvement of the basic education level English of each country.

環境・生態部門

研究タイトル：

非天然有機化合物の生化学的変換と光学分割

氏名： 上島晃智／UEJIMA Akinori E-mail： uejima@fukui-nct.ac.jp

職名： 嘱託教授 学位： 博士

所属学会・協会： 日本化学会，電気化学会

キーワード： 環境浄化，微生物，機能性，和紙

技術相談
提供可能技術：
・和紙副原料保存剤の影響解析
・福井県環境審議会特別委員
・



研究内容：

【微生物による河川浄化】

自然固着菌種の活性化法

工場や住宅から排出される排水は、時として河川の自然浄化機能を超え、ヘドロとして低流速領域に溜まってゆく。特に治水事業としてコンクリートによる三面張り工法が採用された場合には、微生物繁殖機能が著しく阻害され、この傾向が顕著となる。そこで、ヘドロの溜まる領域の微生物を活性化する方法で、ヘドロの分解機能を促進し、効率的に堆積物を除去する方法探る。

【和紙製造のプロセス改善】

和紙補助原料の特性解析

和紙は植物の靱皮を砕き水に分散させることで抄紙を行うが、このときに補助原料として植物由来の分散剤を配合する。この分散剤の科学的特性を解析することによって、より合理的で品質の高い和紙製造への貢献を図る。また、分散剤の新しい保存方法を開発することで、廃棄物の低減に寄与する。

研究タイトル：

福井県内の潜在自然植生の概念に基づく広葉樹幼苗植栽地の調査

氏名： 小木曾 晴信／OGISO Harunobu

E-mail： ogiso@fukui-nct.ac.jp

職名： 技術専門職員

学位：

所属学会・協会：

鯖江市環境まちづくり委員会，越の郷地球環境会議，エコプラザさばえ，IGES 国際生態学センター研究会員，応用生態工学会，自然環境復元学会

キーワード：

測量，地盤，環境，植生，植樹

技術相談

提供可能技術：

- ・地元産苗木を用いた植樹活動(越の里地球環境会議での活動)
- ・デジタルアーカイブの制作(YouTube, Street view)(福井総合植物園との共同制作)



研究内容：

【福井県内の潜在自然植生の概念に基づく広葉樹幼苗植栽地の調査】

・福井県内の潜在自然植生の概念に基づく広葉樹植栽地(環境保全林)について，植生発達状況を調査しています。

・植樹地の土壌特性(物理・化学性)が植生に及ぼす影響について研究を行っています。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

一軸圧縮試験機

pH・EC 測定器

CBR 試験機

トータルステーション

GNSS(GPS)受信機・解析ソフト

研究タイトル:

水生生物による河川環境の調査・評価



氏名:	奥村充司 / OKUMURA Mitsushi	E-mail:	okumura@fukui-nct.ac.jp
職名:	准教授	学位:	工学修士
所属学会・協会:	土木学会, 日本水環境学会, 日本材料学会, 廃棄物学会, 応用生態工学会, NPO 福井地域地盤防災研究所		
キーワード:	上水道, 下水道, 水質調査, 地下水汚染, 生物指標		
技術相談 提供可能技術:	・ ・		

研究内容:

河川無脊椎動物およびそれらの餌となる流域森林から供給されるリター, 河道内部生産である付着藻類の現存量・生産量調査を行い, 河川水質および河川の自然度, 生態系の持続性を評価する。



研究タイトル：

社会的責任のための環境測定

氏名： 片岡 裕一／KATAOKA Yuichi E-mail: kataoka@fukui-nct.ac.jp

職名： 技術職員

学位：

所属学会・協会： 作業環境測定協会，大学等環境安全協議会

キーワード： 環境測定，安全衛生

技術相談

提供可能技術：

 ・
・
・


研究内容：

【計量証明を必要としない環境計測（含む作業環境）】

●工程や作業の変更をおこなうと排出される排ガスや排水などに含まれる有害物質の濃度が変化する場合があります。有害物質の濃度が増加すると，環境汚染や地域住民や労働者の健康障害の原因となりえます。

●このように環境計測は CSR としての環境負荷の低減や健康障害の防止のために重要です。

しかし，専用の分析機器を持たない事業所は，排水の水質測定や作業環境改善のための自社測定が不可能な状況です。

●現在，福井県和紙工業組合より委託（8 事業所）を受けて，事業所排水が越前市指定の環境基準項目の基準値に適合し，適正に排出されているか確認するためサンプリングおよび測定を実施中です。

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）

引張試験機 LCS 1-30/2（東京試験機）

折曲げ試験機 MIT 耐折試験機（テスター産業）

研究タイトル：

トキシコゲノミクスによる食品および水環境中の化学物質のモニタリング

氏名： 川村敏之／KAWAMURA Toshiyuki E-mail: kawamura@fukui-nct.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士

所属学会・協会： 日本動物学会, 高専学会

キーワード： バイオテクノロジー, 分子生物学

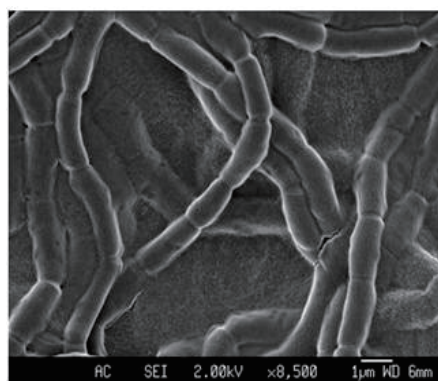
技術相談

提供可能技術：

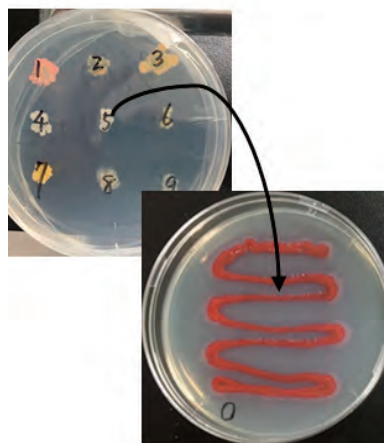


研究内容：

納豆菌である *Bacillus* 属細菌の単離・同定を行い、それぞれの特徴や生理機能などを応用することを目的としている。



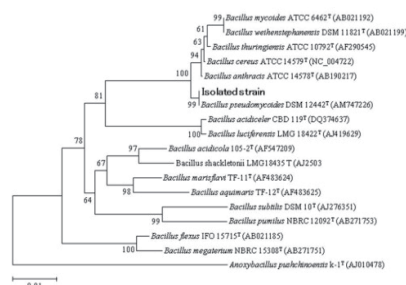
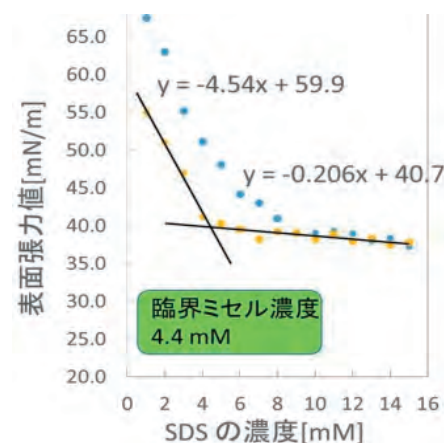
単離した *Bacillus* 属細菌を色々な条件で培養すると、化合物を生産する。



下図は抽出した化合物の界面活性剤との相互作用を分析している。

単離した化合物にどのような性質があるか調べ、化合物を応用できないかを検討する。

単離した化合物をモデル生物であるメダカやプラナリアへ投与して細胞への影響を見たり、カビやキノコの生育への関与について解析を行っている。



研究タイトル：

原子スペクトル法を用いた環境・材料中の微量元素分析

氏名：	後反克典／GOTAN Katsunori	E-mail：	gotan@fukui-nct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(理学)
所属学会・協会：	日本分析化学会, 日本地球化学会		
キーワード：	微量元素分析, 環境・材料分析, 高感度分析		
技術相談 提供可能技術：	・環境試料中の微量元素分析および材料中の不純物成分の分析 ・前処理(試料分解, 分離・濃縮技術等)を含む微量元素分析法の開発		



研究内容：

【マイクロ波分解法による木質バイオマス燃料中の迅速元素分析法の開発】

環境試料および材料中に含まれる微量元素の分析では、試料の前処理法の検討や分析の妨げとなるマトリクス成分(主成分)の影響の軽減が重要となる。これらの要因を取り除き、微量元素を精確に定量するための試料分解法や目的元素の分離、精製法の開発を行っている。ここではマイクロ波を用いた木質ペレットの分析法の開発を例に示す。

マイクロ波分解装置の高温・高圧条件を用いると、従来は困難であった試料分解を安全・迅速に達成できる。本方法による前処理と、誘導結合プラズマ質量分析(ICP-MS)装置等を組み合わせることで極微量元素(ppt~ppm)の多元素(約 70 元素)同時定量分析が可能となる。

他にも溶媒抽出および固相抽出を用いた前処理法や、LC カラムを組み合わせたオンライン分析法の開発により、ホウ素、ヒ素等、カドミウム、水銀の環境汚染の原因となる物質の評価に関して検討を行っている。

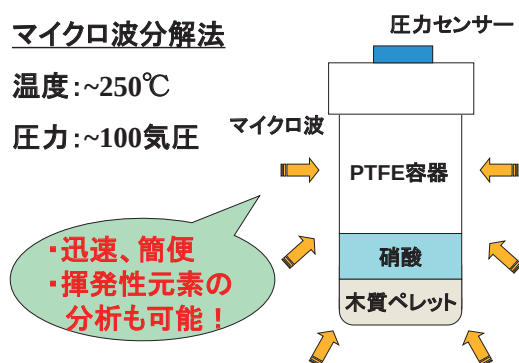


図1 マイクロ波前処理法



図2 高分解能 ICP-MS 装置による微量元素の分析

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

二重収束型誘導結合プラズマ質量分析装置 ELEMENT2	マイクロ波分解装置 Titan MPS
誘導結合プラズマ発光分析装置 Optima8300	紫外可視吸光度計 UV-2700
高分解能フレームレス原子吸光分析装置 ContrAA 600	全有機炭素分析計 multi N/C 3100
フレーム原子吸光分析装置 AA-7000	差動型示差熱天秤 TG 8120
イオンクロマトグラフ Integrion RFIC	高感度示差走査熱量計 DSC 8230

研究タイトル：

生体機能を利用したバイオデバイスとシステムの創製

氏名： 坂元知里／SAKAMOTO Chisato E-mail： sakamoto@fukui-nct.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会：

キーワード： 電気化学, バイオデバイス, 酵素固定化

技術相談

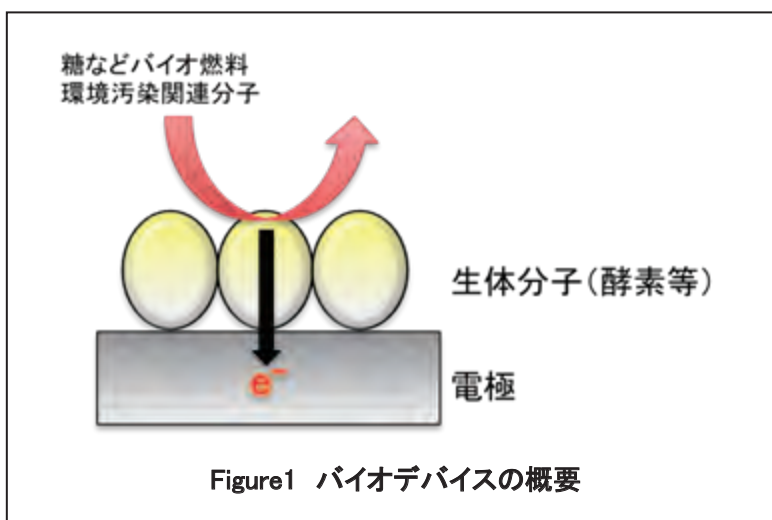
提供可能技術：

- ・電極材料への生体分子の固定化
- ・生体分子・化学物質の電気化学測定
- ・細胞接着領域を制御する装置の開発



研究内容：

バイオデバイスは、電極上に生体や酵素等の生体分子を固定化し、バイオ燃料もしくは測定対象分子に対する生体の応答情報を電子情報として測定する素子です (Figure 1)。



【対象＝バイオ燃料の場合】

化石エネルギーに代わる新エネルギー素子として、高出力なバイオ燃料電池の開発を行う。

【対象＝環境汚染分子等の場合】

High throughput な環境評価ツールとして、バイオセンサデバイスおよびシステムの開発を行う。

研究タイトル：微生物を用いたバイオセンシングやバイオレメディエーションに関する研究

氏名： 高山勝己／TAKAYAMA Katsumi E-mail： takayama@fukui-nct.ac.jp
職名： 教授 学位： 博士（農学）

所属学会・協会： 日本化学会，日本分析化学会，日本生物工学会，日本工学教育協会

キーワード： バイオレメディエーション，バイオセンサー，バイオリファイナリー，環境創造型農業

技術相談

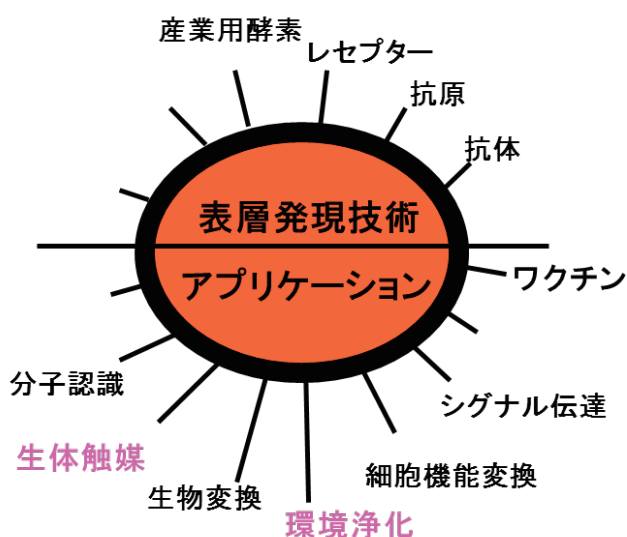
提供可能技術：

- ・微生物を用いた基礎並びに応用技術全般・
- ・食と農業に関する研究全般
- ・木質バイオマスの有効利用に関する研究
- ・藻類を用いたバイオリファイナリーに関する研究

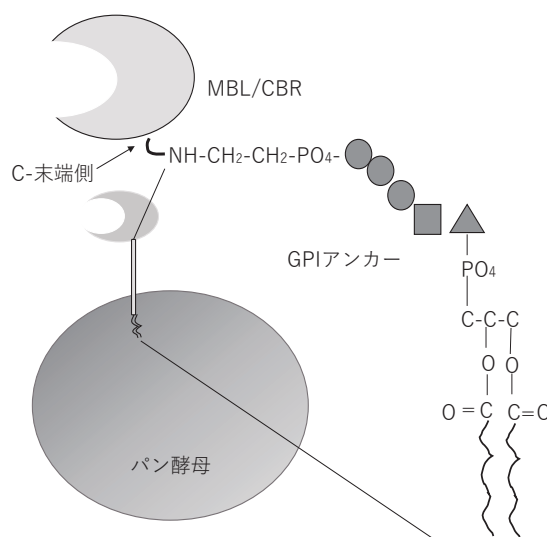


研究内容： 微生物によるセンシング・レメディエーションから農業生産に関する貢献まで

- 1) 細胞表層工学とは，下図に示すように細菌や酵母を代表とする細胞表層に酵素や、レセプターなどの生体認識素子を発現させ、これを用いて医薬や環境浄化に用いる技術です。現在、酵母細胞表層に糖鎖を認識するレクチンタンパク質を発現させ、その応用展開に関する研究を行っています。



細胞表層発現酵母の応用展開
(技術提供・共同研究先：京大農学部 植田充美教授)



酵母表層へのレクチン発現

- 2) よい土壌からおいしい野菜ができる。土壌の良し悪しは物理的、化学的、生物学的評価の 3 つの視点で行われます。当研究室では、生物学的評価(土壌微生物群衆解析)に焦点をおき、GC/MS を用いた評価法に関する研究を行っています。

- 3) 有機廃棄物質の微生物による有効利用に取り組んでいます。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

LC/MS(Waters)	蛍光光度計(日立)
GC/MS(Agilent)	微生物培養関連設備等
PCR(Bio-Lad)	
UV/Vis(日本分光)	

研究タイトル：

データに重点を置いた安全衛生教育

氏名： 廣部 まどか / HIROBE Madoka E-mail: m-hirobe@fukui-nct.ac.jp

職名： 技術職員

学位：

所属学会・協会： 応用生態工学会

キーワード： 里地里山, 生物調査, 保全活動, WBGT

技術相談

提供可能技術：

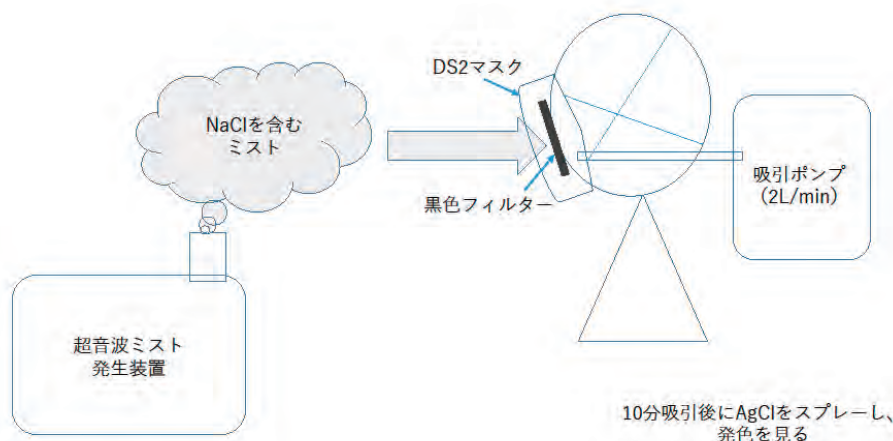
- ・
- ・
- ・



研究内容：

高等専門学校においても産業界と同様な物質(薬品や製品)を取り扱う、これらは教育を行わなければ重大な事故や健康障害をもたらす。また作業においても金属アーク溶接等、作業中に発生する溶接ヒュームを吸い込むと、その中に含まれるマンガンによる神経障害やじん肺、肺がん等の健康障害を引き起こすおそれがある。これらの物質や作業に対して十分な安全衛生教育が必要である。学生においては、同じ実験・実習はほとんど繰り返さず卒業まで非定常作業の連続である。教職員についても、研究や技術開発においては、非定常と言える。このような状況の中で少しでもしばらくだけの作業に対して効果的な安全衛生教育の方法や内容について検討を重ねている。

現在は、令和3年4月1日から施行・適用されることとなった金属アーク溶接に関する労働安全衛生法、特定化学物質障害予防規則等の改正に対応し、防じんマスクを題材に、理解が十分でなければ行動できない学生に対して、統計や科学的根拠に基づき Know-why(なぜこの手順なのか)、Know-what(どんな状態になるのか)を理解させる教育内容と理解度向上のための装置開発を研究課題としている。



研究タイトル：

【平行複式無機化を行う微生物群の固体単体への固定化】

氏名： 舟洞 久人／FUNABORA Hisato E-mail: funabora@fukui-nct.ac.jp

職名： 技術職員 学位：

所属学会・協会：

キーワード： 生物工学, バイオフィルム, バイオセンサー

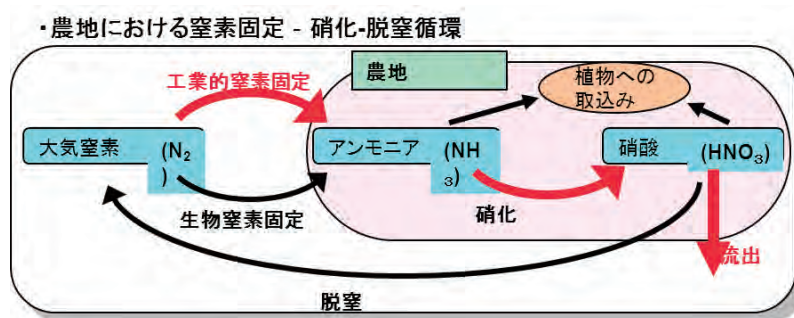
技術相談
提供可能技術：
・理科への興味喚起を促す公開講座
・HPLCやDNAシーケンシング, ボルタメトリー等の化学的分析手法
・
・



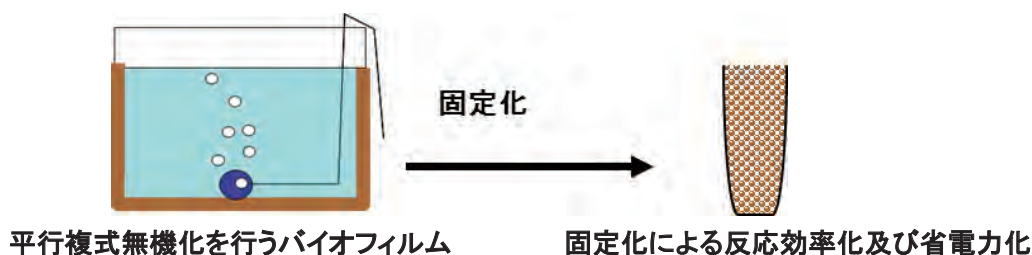
研究内容：

【平行複式無機化を行う微生物群の固体単体への固定化】

- 目的 : 恒常的な電力を用いる操作を用いることなく, 有機物から無機肥料成分である硝酸態窒素を効率よく生成する方法の提供
- 社会的意義: 有機質資源の再資源化の大規模化に伴う電力コストの削減
窒素固定-脱窒循環の適正化による環境負荷の低減



・多孔質担体への微生物固定による無機肥料製造速度向上



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

凍結乾燥機

遠心分離機

研究タイトル：

微生物を用いた有価物生産



氏名：松野敏英／MATSUNO Toshihide E-mail: matsuno@fukui-nct.ac.jp

職名：准教授 学位：博士（農学）

所属学会・協会：日本生物工学会，日本農芸化学会

キーワード：微生物，物質生産，生物機能

技術相談

提供可能技術：

- ・微生物に関わる産官学共同研究や連携事業
- ・微生物に関わる公開講座・出前授業

研究内容：

【土壌微生物叢の解析】

土壌環境微生物の解析を行う。土壌から微生物由来の DNA を抽出し，土壌微生物叢について解析する。また，土壌微生物叢の経時変化についても解析する。たとえば，農地（水田，畑）や汚染土壌に存在する微生物叢を解析することができる。

【微生物を用いた物質生産】

大腸菌や酵母を宿主として有用物質を生産する。大腸菌や酵母に最適な遺伝子を導入することで、目的の有用物質を生産することができる。

エネルギー部門

研究タイトル：

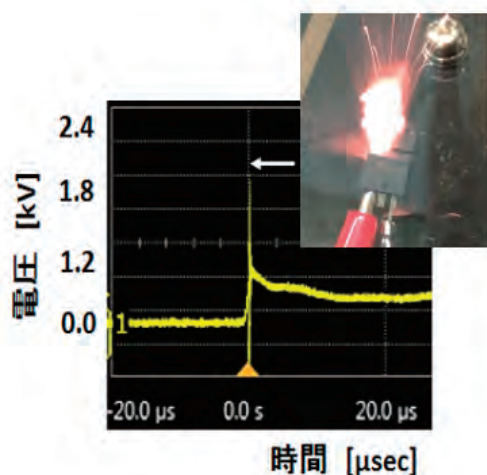
パワーデバイスに関する研究・電子管の歴史に関する研究

氏名：	秋山肇／AKIYAMA Hajime	E-mail：	akiyama@fukui-nct.ac.jp
職名：	教授	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	米国電気電子学会(IEEE)，電気学会，応用物理学会，産業技術史学会		
キーワード：	パワーエレクトロニクス，テラヘルツ分光技術，加速器応用，博物館学		
技術相談 提供可能技術：	・高電圧サージ試験器を用いたデバイス・機器の耐久性試験 ・ ・		



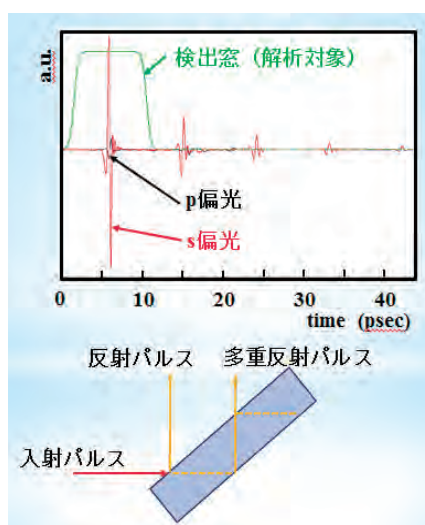
研究内容：

次世代パワーデバイスの材料物性、プロセス技術、デバイス動作解析及び動作限界に関する研究に取り組んでいます。



上図：炭化ケイ素・ショットキーバリアダイオード(SiC-SBD)への高電圧サージ印加による電圧波形と破壊現象の観察例

高エネルギービーム、テラヘルツ波(THz 波)等を用いた各種半導体・セラミック材料の物性解析に取り組んでいます。



上図：ZnO 基板に照射した THz 波の反射パルス波形観察例

絶縁、整流、高電圧大電流通電を支えてきた電気技術の変遷に関する歴史の調査・研究に取り組んでいます。



上図：鹿児島大学博物館所蔵に係る直流電源内蔵の水銀整流器に関する履歴調査から

研究タイトル：

核融合理論物理学および計算物理学

氏名： 高久有一／TAKAKU Yuuichi E-mail: takaku@fukui-nct.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士(理学)

所属学会・協会： 日本物理学会, プラズマ核融合学会, 情報処理学会

キーワード： 核融合, プラズマ閉じ込め配位, 物理シミュレーション

技術相談

提供可能技術：

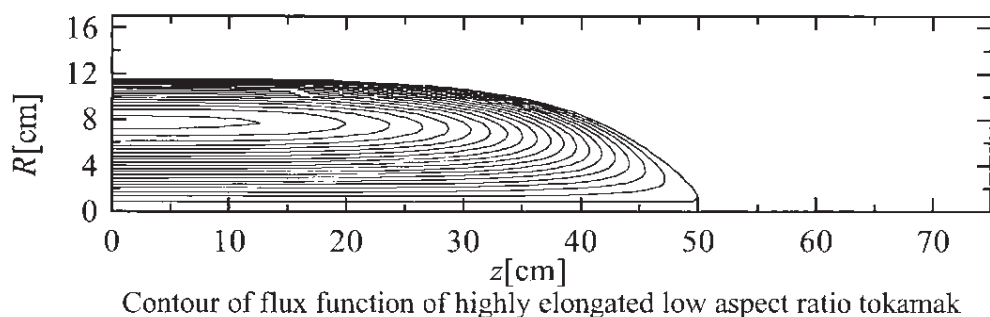
- ・人力飛行機、模型飛行機関連の公開講座、講演、指導など
- ・並列計算機を用いたプラズマの磁場閉じ込めに関する研究
- ・ワンチップマイコンを用いた核種制御に関する研究



研究内容：

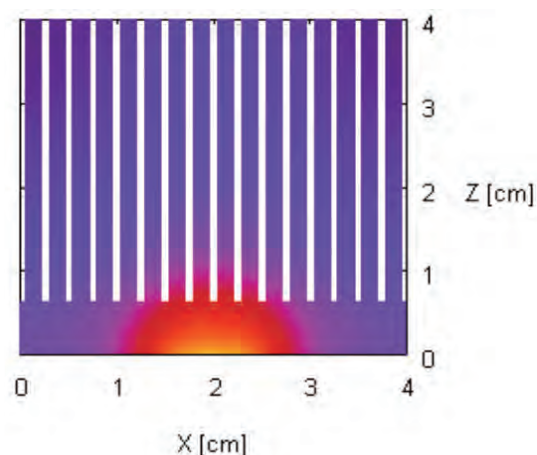
【プラズマの地場閉じ込めに関する理論的研究】

反転磁場配位の数値平衡解



【計算物理学】

計算機シミュレーションにより求めたヒートシンク内の温度分布



研究タイトル：

自然対流の解析

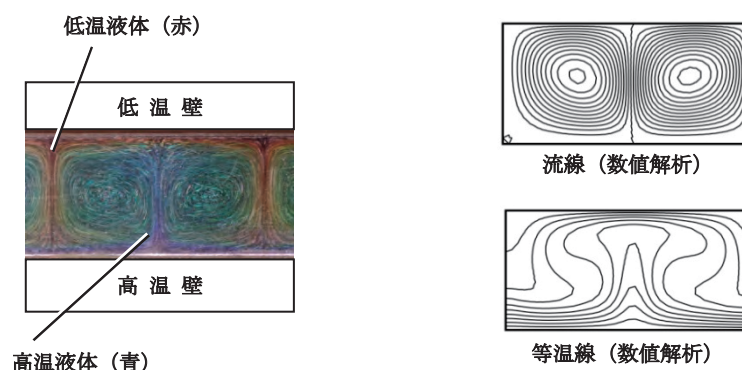
氏名：	芳賀 正和 / HAGA Masakazu	E-mail：	hmtl@fukui-nct.ac.jp
職名：	教授	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	日本機械学会, 日本伝熱学会, 日本流体力学会		
キーワード：	熱・物質移動, 熱と流れの数値解析, 熱と流れの可視化実験		
技術相談 提供可能技術：	・流体内の対流の挙動や温度分布・物質の濃度分布などの評価 ・感温液晶によるシリコンオイル内の流れと温度分布の可視化実験 ・分子動力学シミュレーションによる熱流体系の分子挙動の解析		



研究内容：

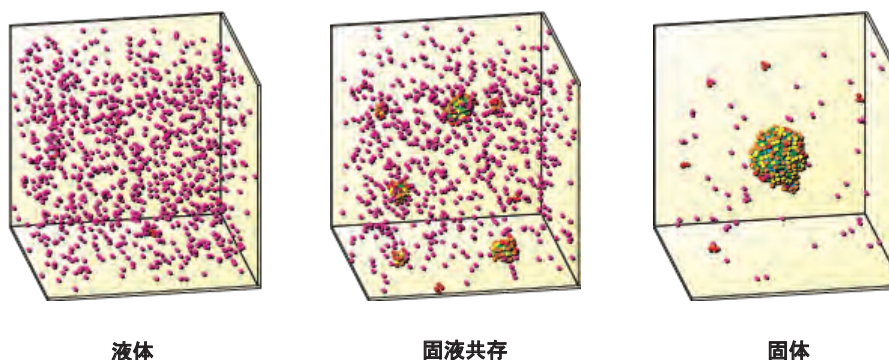
<自然対流の解析>

液体内の温度差により発生する自然対流によって、熱・物質移動が促進されます。このときの液体内の様子を、可視化実験と数値シミュレーションによって解析し、熱伝達の促進や、流れと温度分布の制御に関する研究を行っています。また、液体内に溶解している物質の濃度分布の解析も行っています。



<分子シミュレーション>

温度と物質の状態の関係について、分子動力学法による数値シミュレーションを行うことによって解析しています。例えば、融液の結晶化や液体の蒸発などの相変化について、分子の挙動を観察する微視的解析を行っています。



研究タイトル：

粘弾性流体の流れの数値シミュレーション手法とモデル化

氏名： 藤田克志／FUJITA Katsushi E-mail: fujita@fukui-nct.ac.jp

職名： 教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 日本機械学会, 日本流体力学会, 日本工学教育協会

キーワード： 再生可能エネルギー, 小水力, 粘弾性流体, CFD, 流れの可視化

技術相談

提供可能技術：

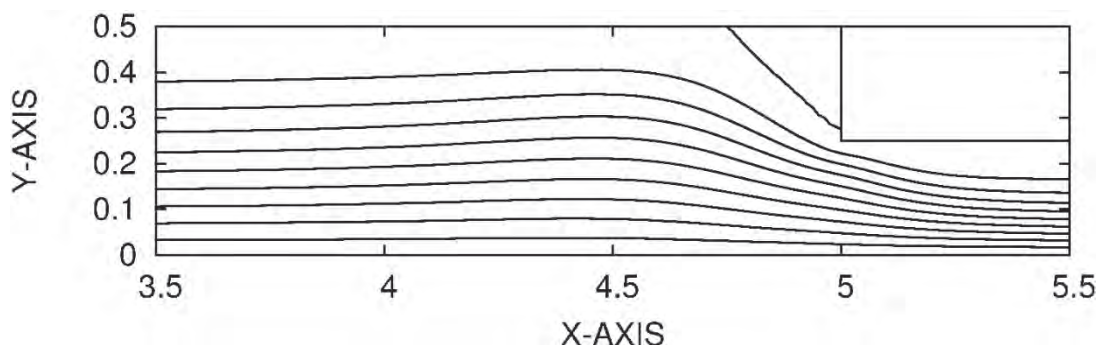
- ・流れの数値計算手法に関すること
- ・流れの可視化に関すること
- ・粘弾性流体に関すること



研究内容： 粘弾性流体の急縮小部を通る流れの数値計算

高分子粘液・融液, 血液などに代表される粘性と弾性の性質を兼ね備えた粘弾性流体の流れは様々な特異流れが発生する。特異流れの発生メカニズムの解明のために数値シミュレーション手法の開発と粘弾性流体のモデル化を行う。

特異流れのひとつとして, 急縮小流れで発生する Divergence Flow がある。この流れはプラスチックの射出成型などで実際に観察することができる。図は, Divergence Flow を数値シミュレートした結果である。



研究タイトル：

化合物半導体薄膜を用いた次世代太陽電池の開発

氏名： 山本幸男／YAMAMOTO Yukio E-mail: yukio@fukui.kosen-ac.jp

職名： 教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 応用物理学会

キーワード： 半導体, 薄膜, 太陽電池

技術相談

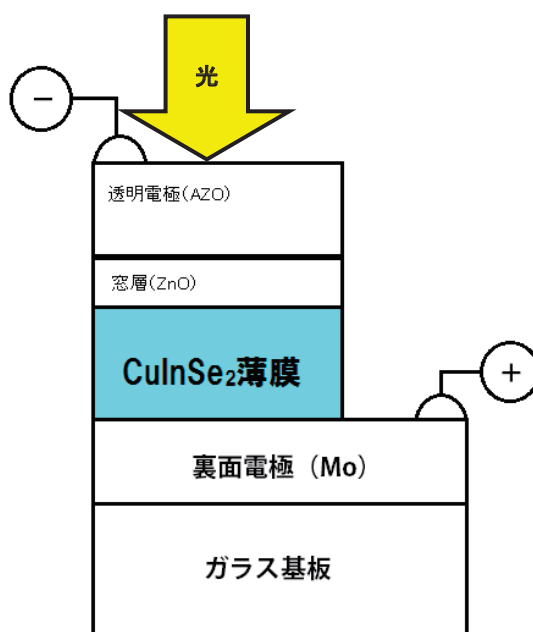
提供可能技術：

- ・薄膜サンプルの作製および結晶構造解析、X線光電子分光分析など
- ・研究現場におけるIT導入
- ・



研究内容：

- CuInSe₂ や CuGaTe₂ など多元系化合物半導体薄膜をベースとした次世代太陽電池の実現を目指して研究しています。このタイプの太陽電池は比較的高効率で放射線にも強いことから宇宙用の太陽電池としても期待されているのです。
- このタイプの化合物半導体は組成を制御することでそのエネルギーギャップを変化させることが可能であり、太陽電池だけではなく、光センサーなど各種光電変換デバイスへの応用展開が期待されています。



次世代薄膜太陽電池の構造

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

真空蒸着装置 ULVAC VPC-060

高周波スパッタ装置 ANELVA L-250S-FH

X線光分光分析装置(ESCA) JEOL JPS9010XPS

安全・防災部門

研究タイトル:

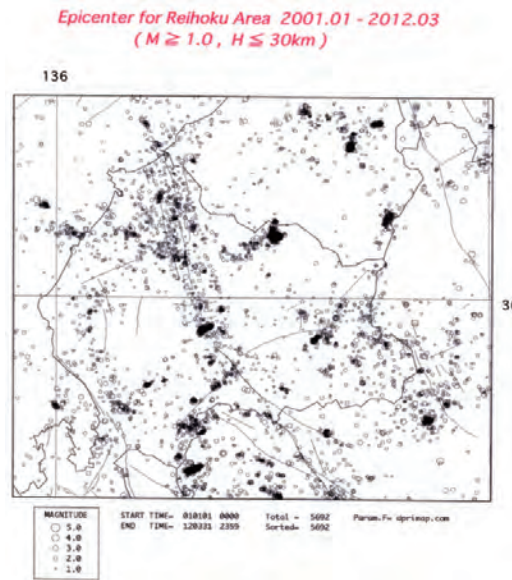
地震活動と活断層



氏名:	岡本拓夫 / OKAMOTO Takuo	E-mail:	okamoto@fukui-nct.ac.jp
職名:	嘱託教授	学位:	博士(工学)
所属学会・協会:	日本地震学会, 福井地震防災研究会, 福井県防災士会理事(防災士)		
キーワード:	福井県及び周辺の地震活動, 地震に関連する諸現象, 強震動, 防災教育		
技術相談 提供可能技術:	・地震観測 ・ ・		

研究内容:

【福井県及び周辺の地震活動解析】 (京都大学との共同)



【地震発生に伴う諸現象の解析】 西山観測点(水質、地震) 福井平野地震観測網(藤高 SSH)

【SSH 関連, 防災教育】 藤島高校 SSH 武生高校 SSH 福井県実践的安全教育 学校防災アドバイザー

研究タイトル：

液状化による家屋の傾斜被害に関する研究

氏名： 芹川 由布子 / SERIKAWA Yuko E-mail: serikawa@fukui-nct.ac.jp

職名： 助教 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 土木学会, 日本自然災害学会, 地域安全学会,
International Consortium on Geo-disaster Reduction

キーワード： 地震, 液状化, 家屋被害, 健康障害, 地域防災, ライフライン

技術相談
提供可能技術：
・防災土育成講座
・地域防災に関する講演
・防災教室



研究内容：

【地震による液状化現象と対策工法】

液状化発生地域での現地調査や、液状化による被害を軽減するための対策工法に関する研究を行っています。図1に示す模型振動実験では、住宅模型の周りに丸太を打設することで、液状化による地盤の沈下や住宅の傾斜が軽減されました。

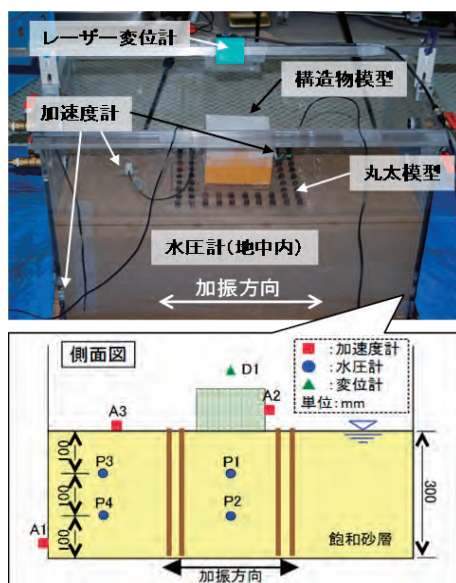


図1 対策工法の実験概要

【地域防災力向上に関する調査】

地盤の液状化により家屋が大きく傾斜した場合(写真1), 住人に健康障害が生じ, 住み続けることができなくなります。

今後起こりうる様々な災害から人々の暮らしを守るための社会基盤づくりを, 福井県を対象として行います。地域防災力の向上を目的とし, 現地調査・アンケート調査・避難シミュレーション等を地域住民のみなさんの意見を取り入れながら進めていきます。



写真1 傾斜した家屋(液状化)

研究タイトル：

河川の土砂堆積や海岸の汀線変化など，流れや波の解析

氏名： 田安正茂／TAYASU Masashige E-mail： tayasu@fukui-nct.ac.jp

職名： 教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 土木学会，日本流体力学会，応用生態工学会

キーワード： 氾濫解析，河道内土砂堆積，漂砂，海岸地形変化

技術相談

提供可能技術：

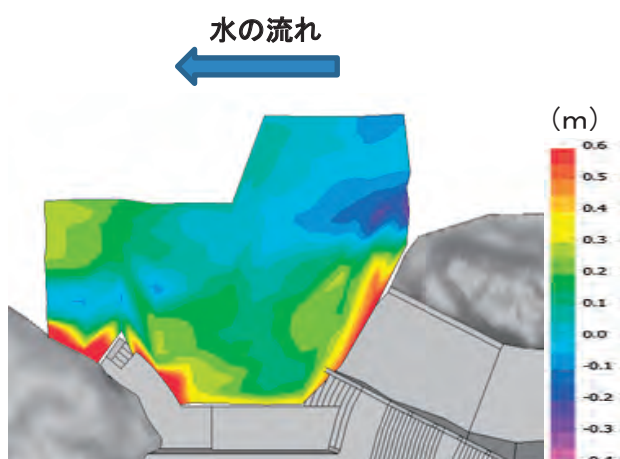
- ・河道内や水路内の流れに関する技術について
- ・海岸の砂浜や構造物に関する技術について



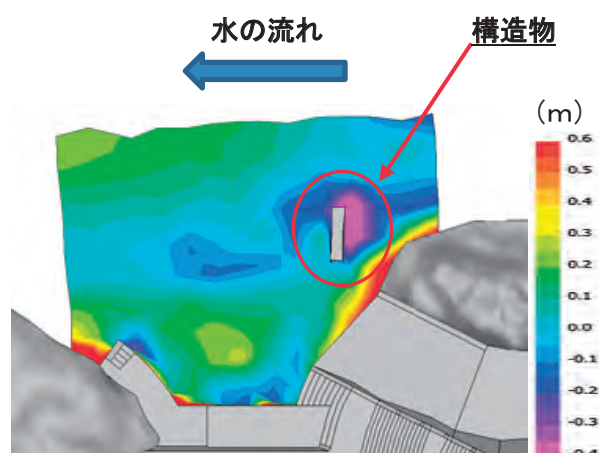
研究内容：

- 水面利用施設に堆積する土砂を抑制する構造物を検討し，その効果を検証する。

高水敷を凹状に設置された水面利用施設内に土砂が堆積する。そこで，構造物を設置し，流れを施設内に引き込んで，土砂の体積を抑制する。



構造物設置前の河床地形



構造物設置後の河床地形

- 砂浜の汀線変化や河口位置の変化について，計測したデータから砂移動のメカニズムを把握する。

航空写真で比較すると



2009年～2011年に週1回の現地計測を実施した。3年間のデータを基に検討中。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

水理実験装置 開水路 (D0.6m,H0.4m,L9.0m) 最大流量 2.4m ³ /min	断面2次元造波水路 (D0.6m,H0.8m,L24.0m) 最大波高 20cm
水理実験装置 管水路 (φ80,φ50,L4.0m) 最大流量 2.4m ³ /min	

研究タイトル：

防災教育・避難行動支援・災害リスク評価

氏名：辻子裕二／TSUJIKO Yuji E-mail：harima@fukui.kosen-ac.jp

職名：教授 学位：博士(工学)

所属学会・協会：土木学会，地盤工学会，日本写真測量学会，日本リモートセンシング学会，日本自然災害学会，環境情報科学センター，日本雪工学会，日本防災士会，福井県防災士会

キーワード：防災・減災，リスク評価，避難行動

技術相談
提供可能技術：
・防災教育(防災啓発)
・避難行動支援(都市防災，地域防災)
・災害リスク評価(土砂災害，雪害)



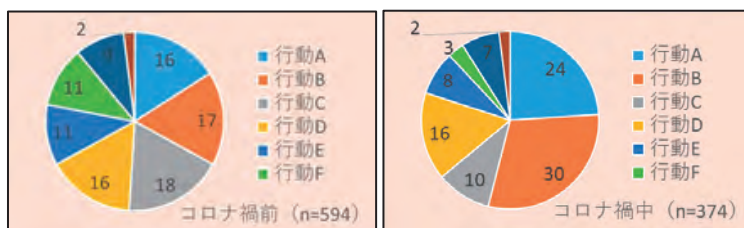
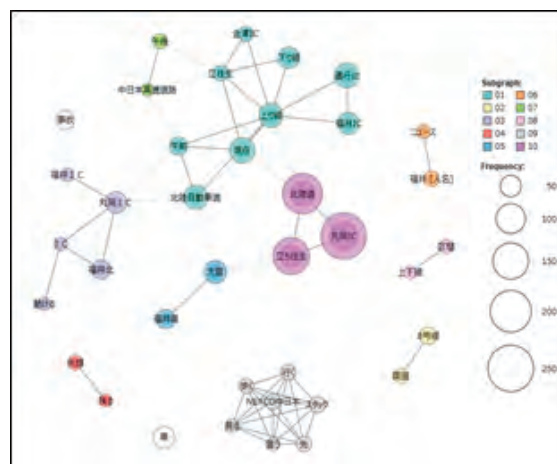
研究内容：

(1) 防災教育(防災啓発)

- ・防災リーダー養成講座の実施
- ・学校防災教育の実施
- ・防災ツール(防災ゲーム)の開発
- ・防災マップづくりの普及啓発
- ・地域防災計画/地区防災計画づくり支援

(2) 避難行動支援(都市防災，地域防災)

- ・AIによる避難行動支援(コロナ禍の影響分析/行動分析)
- ・災害回避行動支援(回避トリガーの抽出)
- ・テキストマイニングによるツイート分析
- ・携帯電話の位置情報を用いた人流分析(避難行動分析)
- ・防災 GND 設備の有効利用



(3) 災害リスク評価(土砂災害，雪害)

- ・土砂災害解析
- ・GISを用いた原子力災害時の最適避難ルートの検討
- ・熱画像カメラ(パッシブリモートセンシング)を用いた地盤の締固め度評価
- ・SAR データを用いた大雪時の車両滞留解析

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

一軸圧縮試験機(マルイ MIS-226)	熱画像カメラ(チノー CPA-T640)
圧密試験機(マルイ MIS-232)	プラントキャンピアナライザ(LAI-2000)
CBR 試験機(マルイ MIS-226)	
高速冷却遠心機(日立 CR20GII)	

研究タイトル：

宇宙・空・地上からの視点で農業・防災に貢献する技術

氏名：	辻野和彦／TSUJINO Kazuhiko	E-mail：	tsujino@fukui-nct.ac.jp
職名：	教授	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	土木学会, 日本自然災害学会, 日本写真測量学会, 地理情報システム学会, 地盤工学会, 環境情報科学センター, 日本防災士会		
キーワード：	リモートセンシング, 地理情報システム, 土砂災害(斜面崩壊・土石流), UAV(無人航空機)		
技術相談 提供可能技術：	・衛星リモートセンシングの画像処理 ・UAVを用いた空撮／空撮画像を用いた3Dモデル等の生成 ・コンクリート構造物の調査・点検		



研究内容：

福井県は、全国にさきがけて自治体主導で県民衛星「すいせん」を打ち上げました。人工衛星を用いると広域を一括して観測することができ、環境や災害を監視することができます。辻野研究室では、衛星リモートセンシングデータや UAV(ドローン)を用いて、環境や災害を観測する技術について研究しています。

図1は、福井県民衛星が観測した鯖江市内の農地を観測した画像であり、正規化植生指標(NDVI)を用いることで、植生の活性度を把握することができます。追肥のタイミングを把握し、収穫量の増加に寄与するデータを取得したいと考えています。近年、スマート農業に取り組む営農集団が増えてきましたが、農耕連携の一環として、辻野研究室も福井県の農業に貢献することを目標として掲げています。

図2は、2021年5月に発生した福井市蔵作町における大規模な地滑り性崩壊について、UAVによる空撮画像から生成した、3Dモデル、つなぎ合わせた正射投影(オルソモザイク)画像、崩壊の中心における断面図(プロファイル)です。UAVを用いることで、危険な場所でも崩壊の形状を捉えることができます。近年、豪雨による土砂災害が増加しています。崩壊箇所の地形・地質・植生の状態を分析し、GISを用いて広域での危険箇所の絞り込みを行う研究につなげています。

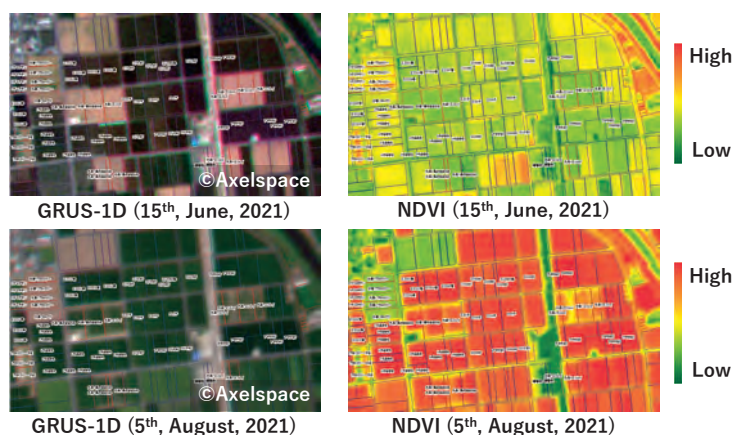


図1 福井県民衛星「すいせん」が観測した鯖江市の農地
(トゥルーカラー画像, NDVI の比較)

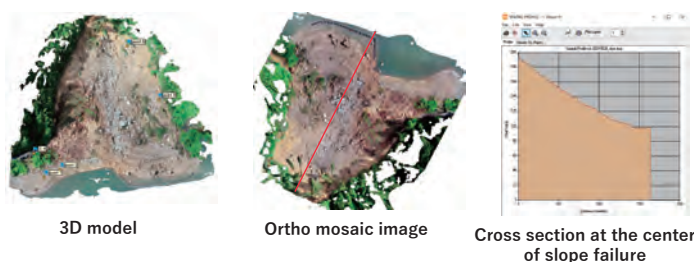


図2 2021年5月に福井市蔵作町で発生した地滑り性崩壊
(空撮画像から生成した3Dモデル, オルソモザイク画像と
崩壊中心におけるプロファイル)

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
UAV(ドローン)	DJI 社製 Phantom 4 Professional
UAV(ドローン)	DJI 社製 Phantom 3 Professional
UAV(ドローン)	DJI 社製 Mavic 2 Professional
鉄筋探査機	GSSI 社製ストラクチャスキャン(SIR-EZ-LT)
熱画像カメラ	FLIR 社製 E6390

研究タイトル:

戦国時代の洪水対策都市の解明

氏名: 野々村善民／NONOMURA Yoshitami E-mail: nonomura@fukui-nct.ac.jp

職名: 教授 学位: 博士(工学)

所属学会・協会: 日本建築学会

キーワード: 風環境, 新エネルギー, 都市洪水

技術相談
提供可能技術: 流体数値シミュレーション (iRIC, STREAM)



研究内容:

戦国大名朝倉氏の城下町一乗谷は山に囲まれ、水害が生じやすい福井市の一乗谷川沿いの谷間にある。一乗谷は谷間の城下町であるため、水害に見舞われやすく、近年でも平成 16 年の福井豪雨で大きな被害を受けている。過去の水害の状況を知る手がかりとして、一連の遺跡調査の中で、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館(以下、資料館)は 2019 年に戦国時代の一乗谷川(以下、旧一乗谷川)の河川断面を示す遺構を発見した。

資料館が保有する遺跡調査資料から、旧一乗谷川における外水氾濫は 1573 年の朝倉氏滅亡直後に 1 度あったことがわかった。これを裏付ける資料として、旧一乗谷川の河川断面の主要寸法が明らかになった。これまでの遺跡調査資料のみでは、旧一乗谷川で生じた氾濫時の降水量などの気象条件は不明であった。

そこで、本研究は旧一乗谷川流域の 3D 地形モデル、2 種類の河川氾濫シミュレーションと現在の気象データを用いて、1573 年の朝倉氏滅亡直後に発生した氾濫時の 1 時間降水量を予測し、その再現期間を算出することを目的とする。

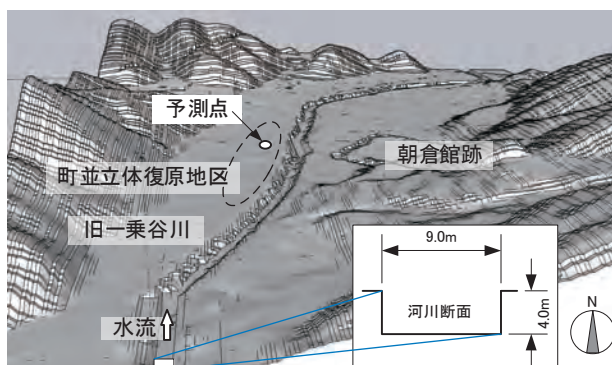


図1 一乗谷川流域(3D モデル)

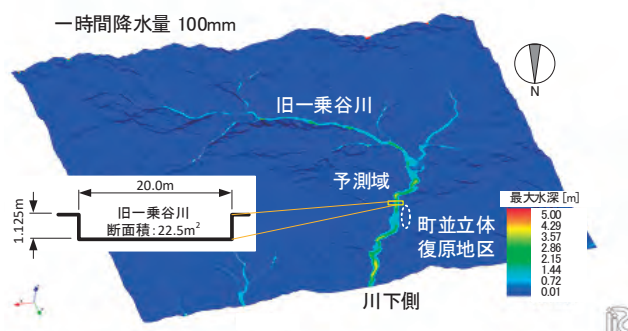


図2 一乗谷川の最大水深分布

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	
流体数値シミュレーション	

研究タイトル：

シェル・空間構造の性状分析に関する研究

氏名：樋口直也／HIGUCHI Naoya E-mail: higuchi@fukui-nct.ac.jp

職名：准教授 学位：博士(工学)

所属学会・協会：日本建築学会, 土木学会, 日本建築構造技術者協会

キーワード：アーチ, シェル・空間構造, 座屈, 有限要素法解析

技術相談

提供可能技術：

- ・構造物の数値解析
- ・パラメトリック解析による構造物の最適形状の探索
- ・



研究内容：

工場や体育館、ドームなどの大規模建築物の屋根に用いられるアーチやラチスシェルなどに対して構造解析を行い、得られた結果を分析しています。

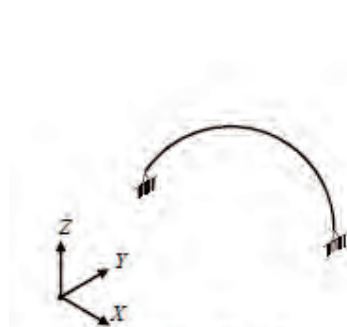


図1 アーチ

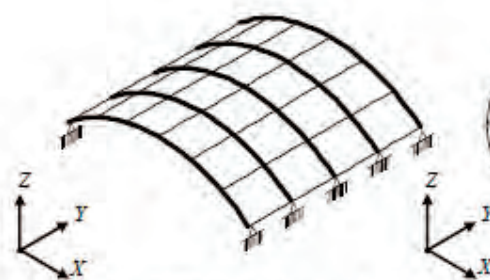


図2 円筒ラチスシェル

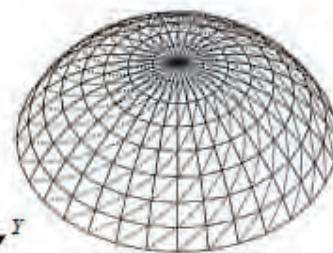


図3 ラチスドーム

研究タイトル：

コンクリート構造物の長寿命化に関する研究

氏名： 菱輪 圭祐 / MINOWA Keisuke E-mail: minowa@fukui-nct.ac.jp

職名： 助教 学位： 修士(工学)

所属学会・協会： 土木学会, 日本コンクリート工学会

キーワード： コンクリート, 材料物性, 複合構造, メンテナンス

技術相談
提供可能技術：
・コンクリート構造物の長寿命化に関する検討
・社会基盤メンテナンスに関する人材育成
・小中学生を対象とした公開講座および出前授業(力学・コンクリート材料)



研究内容：

【コンクリートの乾燥収縮】

コンクリートは、コンクリート中の水分が大気に逸散することで体積が変化する乾燥収縮現象によって、ひび割れが発生することがあります。収縮量の程度は、コンクリートの品質や暴露される環境など様々な因子によって異なります。予期せぬひび割れを防ぐことで、構造物を長く、安心して利用してもらえるようにするための研究に取り組んでいます。

【コンクリートのひび割れ】

コンクリートにひび割れが生じる原因は、荷重による曲げひび割れ、初期材齢時の温度ひびわれ、乾燥収縮によるもの、ASR などの化学反応によるものなど多岐にわたります。ひび割れが発生するとコンクリートの物質透過抵抗性が低くなることで内部鉄筋の腐食進行が早まり、耐久性が低下するなどの問題が生じます。コンクリート構造物の安全性を保つため、ひび割れの発生原因とその対策方法について研究しています。



コンクリートの屋外暴露実験



ASR による膨張ひび割れ

研究タイトル：

複合現実空間(MR)を活用した住民参加型計画支援システムの開発

氏名：	大和 裕也／ YAMATO Yuya	E-mail：	yamato@fukui-nct.ac.jp
職名：	講師	学位：	博士(工学)

所属学会・協会： 日本建築学会、日本都市計画学会

キーワード： MR(Mixed Reality)、まちづくり、防災教育

技術相談
提供可能技術：

- ・仮想空間でしか行うことのできない実験や体験型の訓練
- ・市町村や住民と連携した防災教育、住民参加
- ・各種委員(市町村都市計画審議会など)



研究内容：

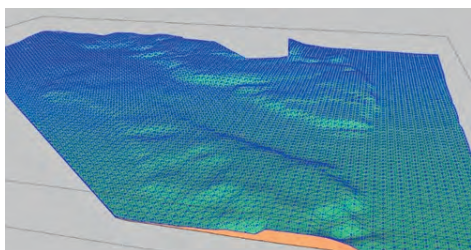
【MRを用いた住民参加型計画支援システムの開発】

MRを用いた住民参加型の計画支援システムの有効性を明らかにするため、街並みを3Dモデルで作成し、住民と自治体で協議を行い、計画支援システムの効果を検証しています。下図は、ホロレンズというMRで表現する機械でみた仮想上のまちなみです。



【複合現実空間を用いた津波防災訓練】

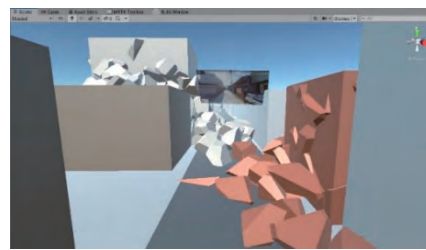
防災訓練を行う際に、複合現実空間を用いることで状況に応じたシチュエーションによる防災訓練が可能であるため、住民に飽きが生じにくいこと、普段体験できないようなことが体験でき、地域住民の防災意識の向上につながる研究を行っています。



地形データの抽出



津波シミュレーション



建築物倒壊シミュレーション

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

MR デバイス HoloLens2(マイクロソフト社)

研究タイトル：

地震被害の予測と対策に関する技術開発

氏名：	吉田雅穂／YOSHIDA Masaho	E-mail：	masaho@fukui-nct.ac.jp
職名：	教授	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	土木学会，地盤工学会，日本建築学会，日本自然災害学会，日本地震工学会，日本工学教育協会，国際地盤災害軽減機構，関西ライフライン研究会，福井県木材利用研究会，福井地域地盤防災研究所		
キーワード：	地震，防災，減災，木材，文化財建造物，ライフライン		
技術相談 提供可能技術：	・液状化の予測と対策 ・構造物や工業製品の振動特性 ・地域の地震防災計画		



研究内容：

【木材を用いた地盤補強技術】

土木分野における木材の需要拡大のため，丸太を地盤に打設して地盤補強する技術を開発し，住宅の液状化対策や盛土の軟弱地盤対策に利用しています。右図は福井県小浜市で行った現場施工実験の様子です。



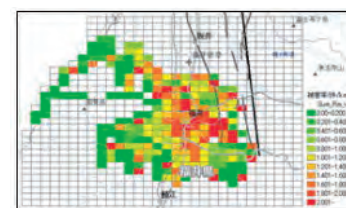
【文化財建造物の防災対策】

文化財建造物を自然災害から守り後世に継承することは大変重要です。そこで，城郭石垣や伝統的木造建築物の災害リスクを調査し，防災対策を提案しています。右図は石垣模型を用いた振動台実験の様子です。



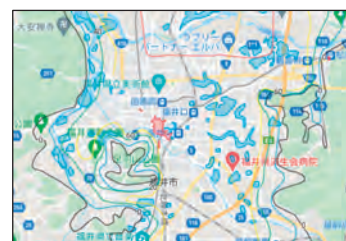
【ライフラインの地震防災】

上水道施設の地震被害による断水は人々の生活や消火活動に大きな影響を与えます。そこで，GISを用いて管路の被害予測を行い，振動台実験で被害軽減技術を開発しています。右図は福井地震を想定した場合の福井市の上水道配水管の被害推定結果です。



【ウェブ版地震防災支援システム】

1948 年福井地震等の災害資料をデジタルアーカイブ化してインターネット上で公開し，地震防災の啓発や教育に活用しています。右図は福井地震における家屋倒壊率と液状化の分布を Google Maps で表示したものです。



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
水平 2 軸地震波振動台(㈱サンエス, SPT2D-20K-85L-80T)	
携帯用振動計(㈱東京測振, SPC-52 / VSE-15D-6)	
地震工学教育用実験装置(手回し携帯振動台など)	

情報・通信部門

研究タイトル:

HDL によるシステム設計

氏名: 青山義弘 / AOYAMA Yoshihiro E-mail: yfa@fukui.kosen-ac.jp

職名: 教授 学位: 博士(工学)

所属学会・協会: 情報処理学会

キーワード: 組み込みシステム, FPGA 開発, HDL 設計

技術相談
提供可能技術:

- ・
- ・
- ・



研究内容:

HDL(Hardware Description Language)は論理回路やシステムの振る舞いを記述するための言語です。C や Java 言語がプログラムの振る舞いを記述するのと同じような感覚で設計出来ます。LSI に含まれる回路の規模が膨大になった現在, 回路図でデジタル回路を設計するのではとても間に合わないので, HDL で設計し, コンピュータに自動設計をさせて合理化しています。

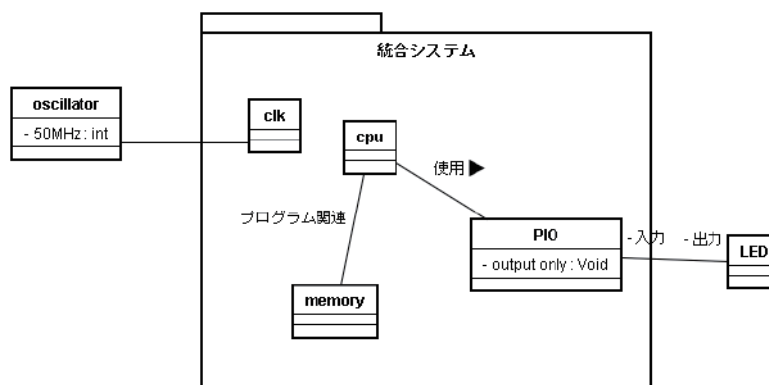
adder.v

```
/* 加算演算子による4ビット加算回路 */
module adder( a, b, q );
input  [3:0]  a, b;
output [3:0]  q;

    assign q = a + b;

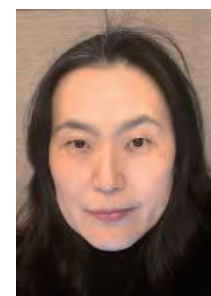
endmodule
```

組み込みシステム(Embedded system) とは, 特定の機能を実現するために家電製品や機械等に組み込まれるコンピュータシステムのことです。身の回りの家電品を含め様々なシステムにマイコンや LSI が搭載され動作しています。FPGA(Field-programmable gate array)とは, この LSI を工場に発注することなく自前で構成できる IC で, CPU や周辺回路を含んだ独自のマイコンも作ることができます。



研究タイトル:

個人の認知特性に応じた支援技術の開発研究



氏名:	小越咲子 / OGOSHI Sakiko	E-mail:	ogoshi@fukui.kosen-ac.jp
職名:	准教授	学位:	博士(工学)

所属学会・協会: 電子情報通信学会, IEEE, ACM, 日本設備管理学会

キーワード: 福祉工学, 個別教育支援, アシスティブテクノロジー, ICT, BMI (Brain Machine Interface)

技術相談
提供可能技術:

- ・個人の認知特性に応じた支援技術
- ・福祉工学
- ・個人の認知特性に応じた教育支援技術とその評価

研究内容:

・認知科学の観点から人を支援するシステムの研究開発を行っています。

生体情報(脳波、筋電等)、行動情報(ライフログ:GPS 情報や画像情報等から得られた行動情報)、学習情報(ソーシャルスキルトレーニング等を含む広義の学習)の3つの観点から個人特性の把握を行います。

これら情報から人の個人特性、好み、生活パターン等の情報を分析、抽出し、それぞれの目的に合った支援システムの開発を行います。

研究テーマ

①個人特性に応じた教育支援システムの開発 https://www.soumu.go.jp/main_content/000654735.pdf

発達障害者の個人特性に応じた支援システムについて、現在実証実験を

福井教職員組合、福井大学、株式会社日立ソリューションズ東日本と行っています。

https://www.hitachi-solutions-east.co.jp/newsrelease/2021/ict_1116/index.html

②人を支援するサポートシステムの開発

IoTを用いた支援機器の開発を行い、生体、行動、学習の3点から評価を行っています。例えばコミュニケーションを行いながら人を支援するシステムや、学習システム、音楽やアロマ、ハーブティー・薬茶等でリラックスする支援機器の開発、触覚や視覚等の感覚刺激を用いて学ぶ教材の研究開発、睡眠支援システムの開発研究等を行っています。

③植物の栽培環境、画像を用いた品質評価研究等

越前和紙で用いるトロロアオイ等の生薬植物の栽培に関する研究を行っています。

重慶市中薬研究院との共同研究で生薬の品質評価の研究を行っています。

研究タイトル：

各種遮蔽物内における電磁波の伝送特性の解明

氏名： 川上由紀／KAWAKAMI Yuki E-mail: kawakami@fukui-nct.ac.jp

職名： 講師 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 電子情報通信学会、IEEE

キーワード： アンテナ, メタマテリアル, RFID, テラヘルツ分光

技術相談
提供可能技術：

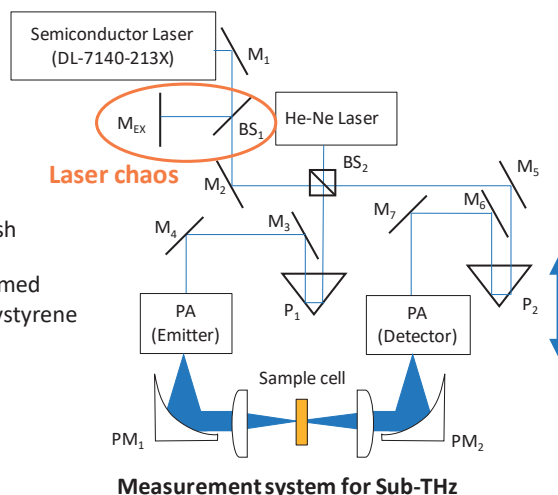
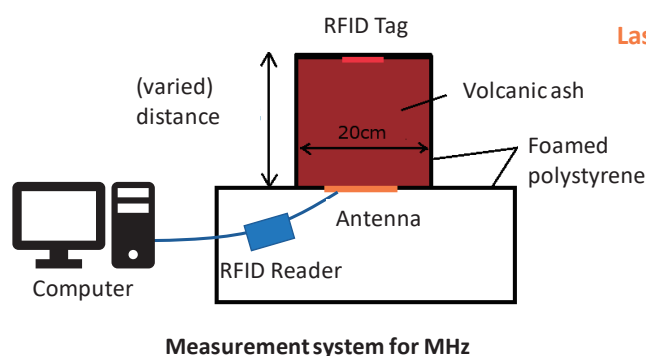


研究内容：

【次世代 RFID 探索システムの実現を目指した MHz 帯から THz 帯における電磁波の伝送特性の解明】

雪崩・土砂崩れ・噴火など自然災害の多いわが国において、災害救助の迅速化は喫緊の課題である。登山者などに RFID タグを身につけてもらうことで、災害時に雪・土砂・火山灰中を探索する方法が考えられるが、各遮蔽物による伝送特性の変化は未解明である。本研究では雪・土砂・火山灰等の各遮蔽物内における電磁波の伝送特性を MHz 帯から THz 帯まで広く調べ明確にすることで、通信に使う最適波長を明らかにすることを目的としている。MHz 帯では市販の RFID モジュールを、Sub-THz 帯ではレーザーカオスをを用いたテラヘルツ分光システムを使用している。

M: Mirror, M_{EX}: External Mirror, PM: Parabolic mirror
BS: Beam Splitter, P: Prism, PA: Photoconductive antenna



研究タイトル:

高性能 GPU を用いた機械学習に関する研究

氏名: 小松貴大 / KOMATSU Takahiro E-mail: komatsu@fukui-nct.ac.jp
職名: 准教授 学位: 博士(工学)

所属学会・協会: 日本神経科学学会, 日本神経回路学会

キーワード: 機械学習, 骨格認識, 自動作曲, 知覚・認知, 視覚運動, 運動学習

技術相談

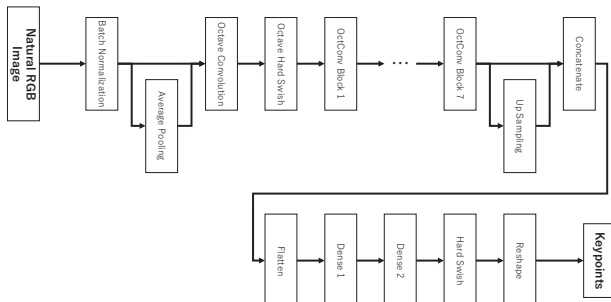
提供可能技術:

・機械学習を用いた予測システムや判断システム

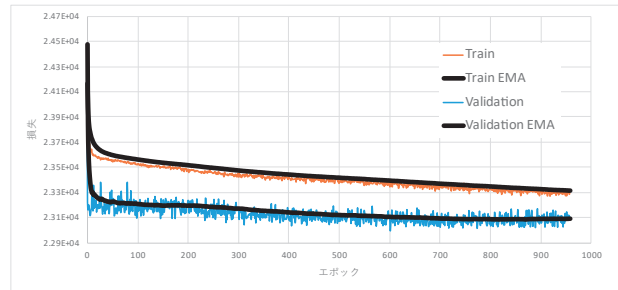


研究内容:

機械学習を用いた骨格認識モデルを構築し、画像から頭部や各関節位置を推定する。

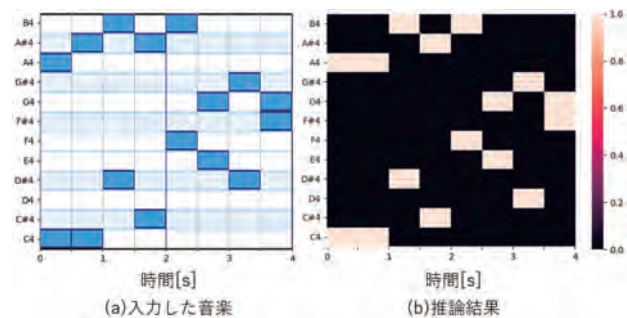
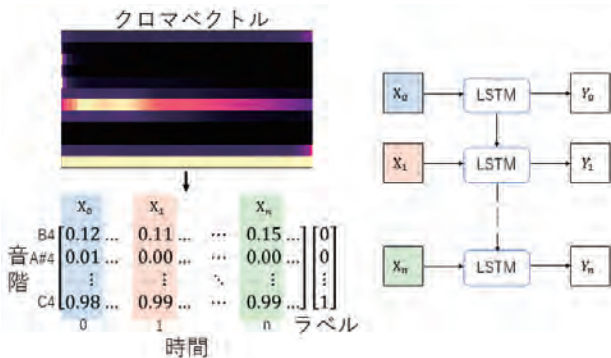


OctConv を利用したモデルのアーキテクチャ



データ損失の変化

機械学習を用いた音声解析モデルを構築し、音楽から自動採譜するシステムを開発。



(a)入力した音楽

(b)推論結果

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

DeepLearning BOX/Alpha (ジーデップ・アドバンス)

唾液アミラーゼモニター(ニプロ)

Beambox Pro(マイクロボード・テクノロジー)

研究タイトル：

丹南地域緊急連絡システム

氏名： 斉藤徹／SAITO Touru E-mail： tsaitoh@fukui-nct.ac.jp

職名： 教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 電子情報通信学会, 情報処理学会

キーワード： インターネット, 緊急連絡システム

技術相談

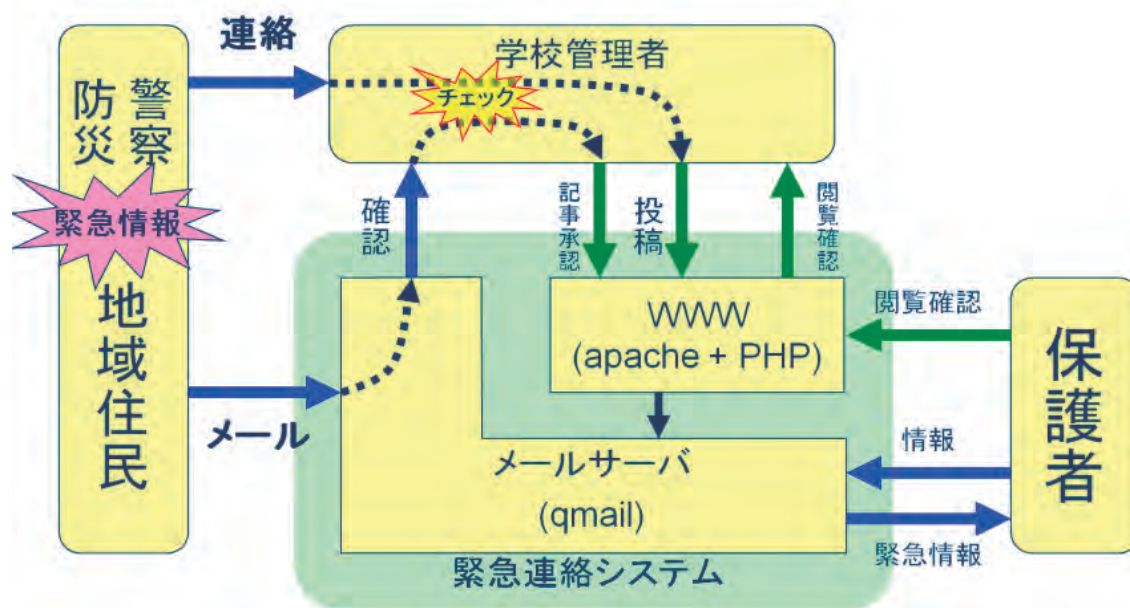
提供可能技術：

・
・
・



研究内容：

- 地域の安全情報発信を目的とした緊急連絡システムを丹南地域の学校対象に無償でサービスを提供しています。
現在、越前市の全小中学校および鯖江市の半数の小中学校で、不審者などの情報を保護者に発信するために利用されています。
- これらのシステムは災害発生時の緊急連絡にも応用されています。



研究タイトル：

分子動力学法による生体高分子の機能解析

氏名： 佐々和洋 / SASA Kazuhiro

E-mail: sasa@fukui-nct.ac.jp

職名： 准教授

学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 日本化学会, 日本コンピュータ化学会

キーワード： 分子シミュレーション

技術相談

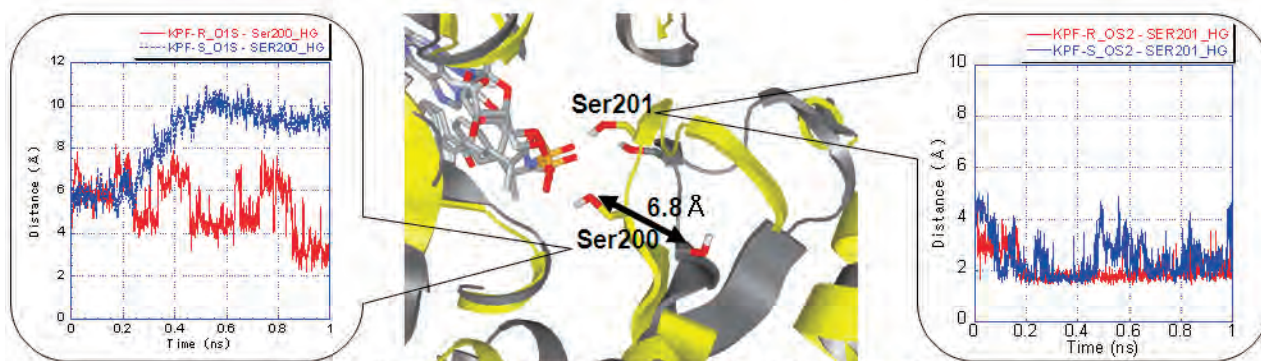
提供可能技術：

・
・
・



研究内容：

- タンパク質や核酸など生体高分子の構造を、分子シミュレーションにより再現し解析することを目指している。
- 酵素基質複合体やそれらの活性中心の予測や挙動を解析することにより、より高活性な酵素の開発などに利用可能である。



基質の光学異性による酵素の構造変化 黄色:R体 灰色:S体

⇒ 活性への寄与が大きいと思われるアミノ酸の選出

研究タイトル：

プログラム言語による演習と利用事例

氏名： 清水 幹郎／SHIMIZU Mikio E-mail： mshimizu@fukui-nct.ac.jp

職名： 技術専門職員 学位： 学士(工学)

所属学会・協会： 応用物理学会教育分科会, 日本工学教育協会

キーワード： アルゴリズム理論, プログラミング言語, 情報理論

技術相談

提供可能技術：

- ・教育研究支援センター「小学生夏休み親子科学教室」
- ・電子情報工学科「スマートフォンの Web ゲームアプリを作ろう！」
- ・



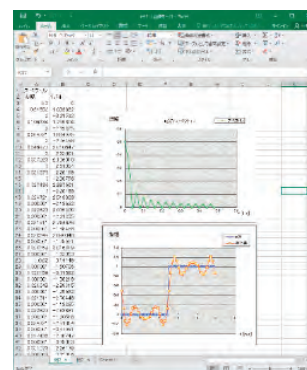
研究内容：

【プログラム言語による演習と利用事例】

プログラム言語授業支援

低学年：プログラム言語学習の授業・演習支援

高学年：プログラムで行うコンピュータを使用した数値計算演習・学生実験支援



電子情報工学科 1 学年の授業支援として担当した専門基礎演習「マイコンでプログラミング」について、第 66 回 (平成 30 年度) 応用物理学会春季学術講演会にて発表。

「マイコンを使用した低学年学生の情報基礎総合演習」

使用環境の確認, 周辺機器の接続, プログラム演習, 信号制御回路の拡張の各演習と学生の自己スキル評価



コンピュータを利用した考古学資料解析の支援(～ 平成 19 年)

資料の画像認識, データ集約のシステム化に関する共同研究

研究タイトル：

マルチカメラによる午睡チェックロガー開発

氏名： 内藤 岳史／NAITOU Takefumi E-mail: naitou@fukui-nct.ac.jp

職名： 技術専門職員 学位： 学士(工学)

所属学会・協会：

キーワード： 保育業務 ICT, IoT, センサーネットワーク, 業務効率化, RPA, 情報セキュリティ

技術相談

提供可能技術：

- ・通信規格として LoRa を用いる IoT システムの構築
- ・ICT を用いた業務効率化に関する内容
 - －システムの構築
 - －RPA による業務自動化
- ・情報処理安全確保支援士として、情報セキュリティ全般に関する内容



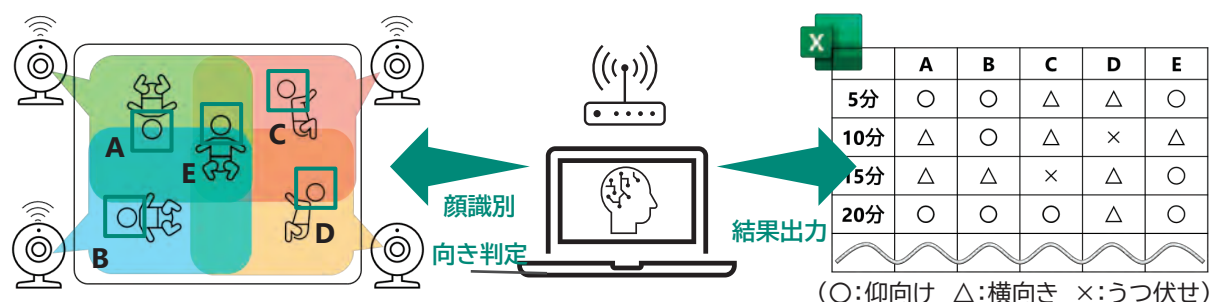
研究内容：

【地域保育園を ICT でサポート】

ICT により地域保育園の業務負担を軽減するシステムの研究を行っています。

マルチカメラによる午睡チェックロガー

- 市販のウェブカメラ等を使用し、複数カメラの画像を統合
- 機械学習にて園児の顔を識別、顔向きを検出
- 検出結果をファイル出力



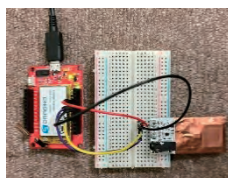
音声識別による行動判別

- 機械学習にて音声データを識別することで、行動記録(ライフログ)を取得する

【センサーネットワーク】

省電力長距離無線通信(LPWA)の一種である, LoRa を通信手段として使用する IoT システムの構築に関する研究を行っています。

(例)環境放射線の測定データ可視化



研究タイトル：

WBGT(熱中症指数)の自動計測および可視化

氏名：	中村 孝史 / NAKAMURA Takafumi	E-mail：	nakamura@fukui-nct.ac.jp
職名：	技術職員	学位：	学士(工学)

所属学会・協会： 日本工学教育協会

キーワード： 自動化・安全衛生

技術相談
提供可能技術： 専門分野を活かした公開講座や出前授業の支援を行っております。活動の一部は教育研究支援センターホームページ(<http://www.tsc.fukui-nct.ac.jp/>)でも公開しております。



研究内容：

全衛生環境を構築することを目的としたグループの活動として、マイコンとセンサから各種温度を自動計測し、サーバに情報を送信する測定器の製作を行っています。主に送られた情報を基にグラフ等を表示するホームページの構築やプログラムの作成を担当しています(図1)。またそれらの情報をより分かりやすく伝えるための可視化(見える化)も試みています(図2)。

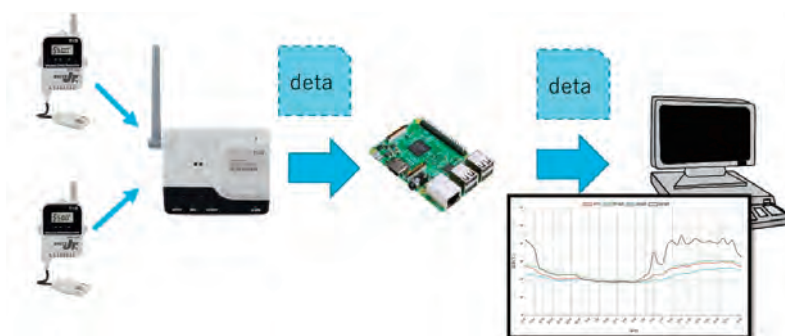


図1 マイコン等を用いたデータ計測

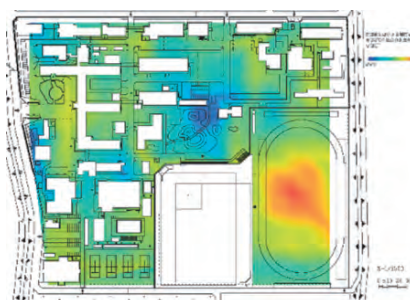


図2 温度情報の可視化

研究タイトル：

ネットワークソフトウェア関係技術開発

氏名：波多浩昭／HATA Hiroaki

E-mail：hata@fukui-nct.ac.jp

職名：教授

学位：博士(工学)

所属学会・協会：電子情報通信学会, IEEE

キーワード：インターネット, 企業ネットワーク, 仮想ネットワーク

技術相談

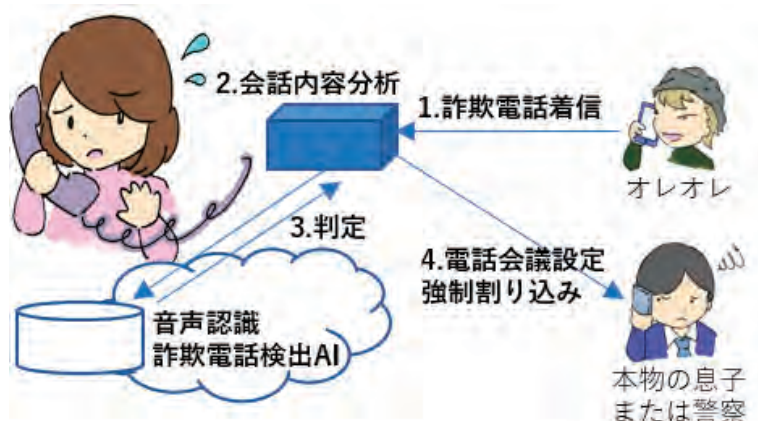
提供可能技術：

- ・ネットワーク仮想化 仮想マシン
- ・仮想マシン(kvm)
- ・コンテナ(docker)



研究内容：

事例1 振り込め詐欺電話撃退技術の開発



振り込め詐欺などの電話を使った詐欺通話を音声認識と詐欺通話判定を行う AI を使って検出し、被害を防止する。電話機では会話内容をデジタル化してインターネットを介した音声認識機能を使ってリアルタイムでテキスト化し、さらに詐欺電話である可能性を、人工知能を用いて判定する。詐欺電話の可能性が高ければ(回線を切断するだけでは発信者側に詐欺電話と判断したことが伝わらないため)事前に登録されている親族もしくは捜査機関に発信して電話会議を開設して第三者を割り込ませる。技術的には既存電話回線, スマートフォンなどのソフトフォンなどに応用可能である。また電話機に実装することで、通信の秘密の保護義務に抵触しない。

事例2

アプリケーションサーバのマイクロサービス化に伴う、コンテナ間のネットワーク性能測定技術。コンテナや仮想マシンの VLAN 接続, 実ネットワーク接続, 内部仮想ネットワーク接続など多様な構成ごとの性能比較技術。

研究タイトル：

中赤外光検出器の為のアンテナに関する研究



氏名：	堀川隼世／HORIKAWA Junsei	E-mail：	okubo@fukui-nct.ac.jp
職名：	講師	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	応用物理学会, 日本物理学会		

キーワード： アンテナ, 中赤外光検出器, シミュレーション

技術相談

提供可能技術：

- ・
- ・
- ・

研究内容：

・遠赤外～中赤外光検出器の高感度・高速化を目指し、アンテナを用いた検出器の研究を行ってきました。

現在、遠赤外～中赤外(MIR)領域は、環境計測、分光による血糖値の測定、電波望遠鏡等への利用が期待されています。しかし、これらの領域は、光源・検出器共に技術が十分に確立されておらず、未開拓周波数と呼ばれています。そこで現在、MIR 領域に於いては、アンテナを利用した MIR 検出器の研究が行われています。但し、従来の MIR アンテナ研究では、アンテナインピーダンスの評価方法が確立されていませんでした。そこで、中赤外光を受信可能なアンテナのインピーダンス評価方法についての研究を行っています。また、中赤外光検出器の性能向上を目指し、アンテナを用いた光検出器の検討も行っています。

研究タイトル：

多様相理論/マルチエージェント・システムの 論理的形式化

氏名：	丸山晃生／MARUYAMA Akio	E-mail：	maruyama@fukui-nct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(情報科学)
所属学会・協会：	日本ソフトウェア科学会, 日本数学会, 電子情報通信学会		

キーワード：記号論理, エージェント, 画像認識

技術相談

提供可能技術：

- ・画像情報処理技術を用いたインタフェース開発
- ・越前市産業活性化プラン有識者会議委員
- ・



研究内容：

【多重様相論理】

定理自動証明器の実装

日常的な論理思考を形式化した様相論理に対する定理自動証明プログラムを実装しています(下図)。特に認識論理と時間論理を融合した多重様相論理を研究対象としています。定理の真偽を自動判断することを利用して、プログラム検証分野への応用も試みています。

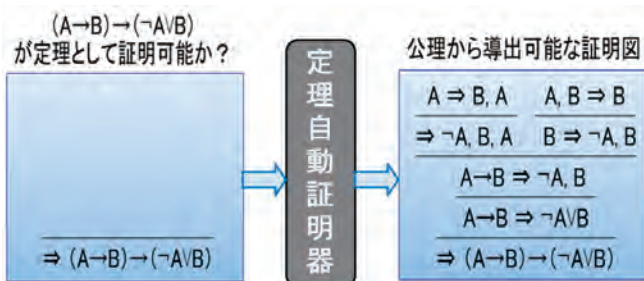


図1 定理自動証明器

【画像処理】

パターン認識・最適解探索

画像処理と最適解探索を用いて、画像上の特定物体(顔, 手指, 文字など)を検出しています。また, パターン認識により, 検出物体の分類にも取り組んでいます(下図)。さらに, 動画画像処理により, 動作認識を用いたインタフェース開発も試みています。



図2 画像処理を用いた文字認識

素材・加工部門

研究タイトル：

電子白杖の製作・人工筋肉の特性向上



氏名： 荒川正和 / ARAKAWA Masakazu E-mail: arakawa@fukui-nct.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 電子情報通信学会

キーワード： トンネル現象, 音情報処理, 新規アクチュエータ, 工学教育

技術相談

提供可能技術：

- ・
- ・
- ・

研究内容：

【物理シミュレーション, 科学・工学教育】

- ・ 数値計算による物理現象の解明
トンネル現象, 量子効果
- ・ 理工系分野の啓蒙用教材開発(電気電子分野)
主に小, 中学生向け

【センサ応用】

- ・ 視覚障がい者の生活支援装置の試作
障害物検知による歩行補助用装置
- ・ 陸上競技用簡易計測装置の試作
部活動における練習効率向上のための装置

【新規アクチュエータ】

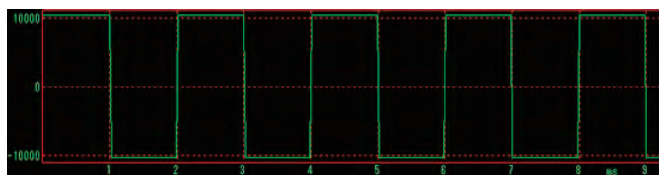
- ・ 人工筋肉の試作



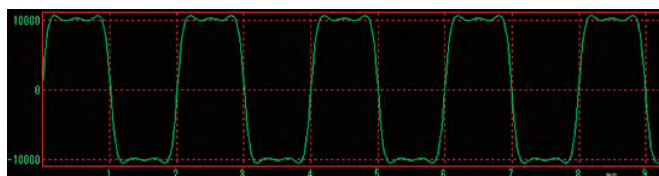
試作した人工筋肉

【音情報処理】

- ・ 音の周波数特性解析と特徴パラメータ抽出
楽器音, 音高の自動判定
- ・ 日本語母音の自動生成
音声データベースに依らない自動生成方法の提案
- ・ シンセサイザの試作
口笛・リコーダー用シンセサイザ



フィルタ処理すると↓



音声波形処理の例

研究タイトル：

超微細組織材料の摩耗特性



氏名： 加藤寛敬／KATO Hirotaka E-mail： hkato@fukui-nct.ac.jp

職名： 教授 学位： Ph.D.

所属学会・協会： 日本トライボロジー学会, 日本金属学会

キーワード： 摩耗, 微細組織材料, 電子顕微鏡

技術相談

提供可能技術：

・摩擦摩耗特性評価

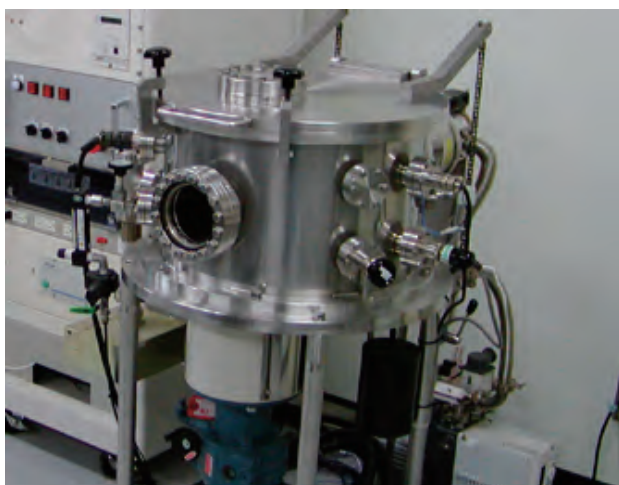
・

・

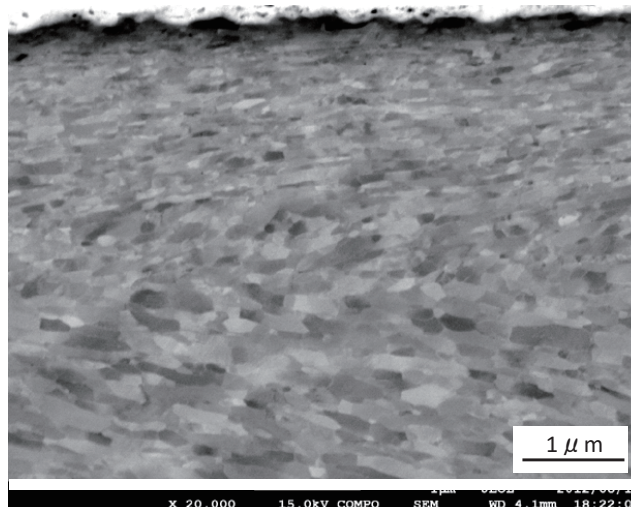
研究内容：

摩擦摩耗低減は環境問題における最重要課題である。摩擦摩耗低減を最終目標として、トライボロジー(摩擦学)とメタラジー(金属学)を融合した最先端の新しい研究に取り組んでいる。特に、摩擦摩耗の影響を受けた材料表面は、組織が微細化・ナノ結晶化していると考えられ、耐摩耗性にも優れていると期待される。

超強加工などにより作成した超微細組織材料は、合金元素に頼らずに高強度を示すという新しい発想に基づいた画期的材料であるために、環境資源・エネルギー問題の観点から次世代の構造材料候補として近年注目を集めている。この微細組織材料の摩擦摩耗特性を評価している。



雰囲気制御摩擦摩耗試験機



摩擦表層の SEM による反射電子像

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
雰囲気制御摩擦摩耗試験機(真産業)	
デジタルマイクロスコープ(オリンパス)	

研究タイトル：

ナイロン製人工筋肉に関する研究

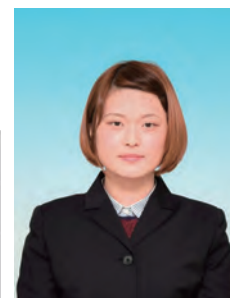
氏名：久保 杏奈／KUBO Anna E-mail：kubo@fukui-nct.ac.jp

職名：技術職員 学位：学士(工学)

所属学会・協会：日本人間工学会, 日本工学教育協会

キーワード：ナイロン人工筋肉, アクチュエータ, 炭素繊維

技術相談
提供可能技術：
・教育研究支援センター公開講座「ロボットを動かすプログラミング体験」
・電気電子工学科公開講座・出前授業「電気の力でパンを創ろう」「手作りスピーカー」



研究内容：

【ナイロン製人工筋肉について】

ナイロン人工筋肉は、釣り糸や縫い糸に使用するナイロン糸を捻ってコイル状に形成したものである。本来ナイロンは、加熱すると収縮する性質があり、コイル状に形成することで全体の収縮率をより大きくすることができる。そのため、図1のように釣り糸や縫い糸として使用されるナイロン糸をコイル状にし、荷重によって伸長した状態のものに熱を加えると、元の長さまで収縮する。加熱による収縮動作と放熱による伸長動作を繰り返し行うことで、人工筋肉としての動作を再現している。

ナイロン製人工筋肉の加熱には、炭素繊維を通電させた際に起こる発熱現象を利用している。また、ナイロン製人工筋肉の実用化に向けて、Arduino を用いて伸縮動作の回数を調査する簡易的な装置を製作し、作製したサンプルの耐久性試験を行っている。ナイロン糸の直径の違いによって伸縮回数が異なることが明らかとなったが、伸縮回数をより実用的なものにしていくことが今後の課題となっている。



図1 自作したナイロン製人工筋肉

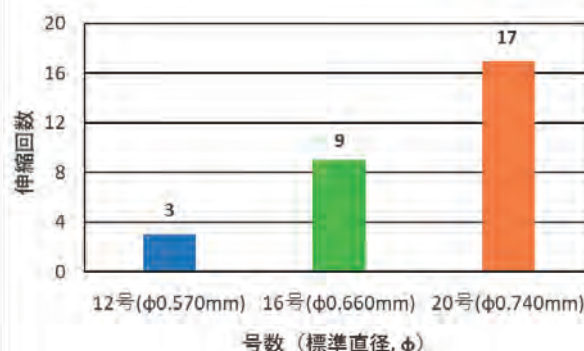


図2 ナイロン糸の直径の違いにおける伸縮回数の違い

研究タイトル：

金属ナノ粒子の太陽電池応用

氏名： 西城理志／SAIJO Satoshi E-mail: satsaijo@fukui-nct.ac.jp

職名： 助教 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 応用物理学会、日本シミュレーション&ゲーミング学会

キーワード： 太陽電池、ナノ粒子

技術相談
提供可能技術：
・ 金属ナノ粒子作製
・ 太陽電池作製(基礎技術)
・

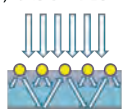


研究内容：

【金属ナノ粒子の太陽電池応用】

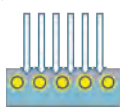
金属ナノ粒子の光吸収効果を利用することで、太陽電池の効率向上を目指している。

(a) 表面に配置*



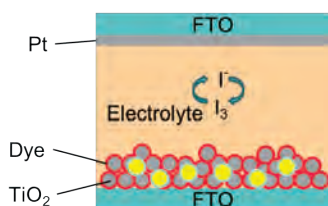
◆ 光散乱
⇒ ナノ構造による光散乱で、
光路長が伸び吸光度向上

(b) 内部に配置*

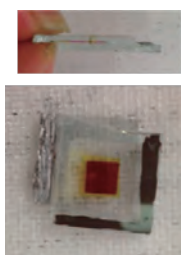


◆ プラズモン吸収
⇒ キャリア発生源近傍で、
増強電場を利用したキャリア
励起の促進

効率向上のメカニズム



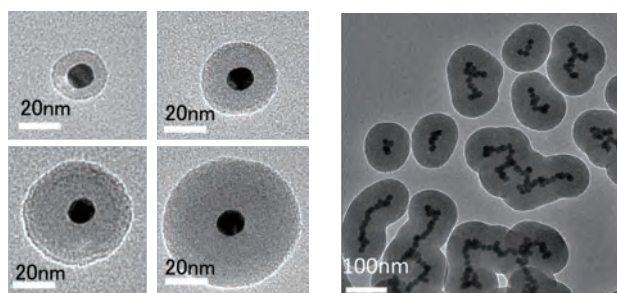
色素増感太陽電池の構造



色素増感太陽電池の外観

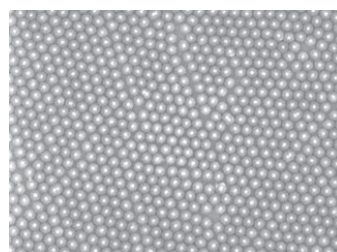
【金属ナノ粒子】

デバイス応用を目指し、下図のような種々の金属ナノ粒子の作製を行っている。

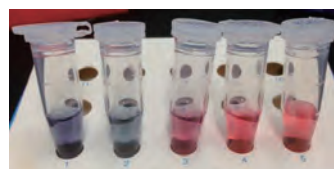


SiO₂ 被膜金ナノ粒子

チェーン状の金ナノ粒子



基板上に配置した
金ナノ粒子の SEM 像



金ナノ粒子溶液

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

マルチチャンネル分光器(大塚電子)

遠心分離機

ソーラーシミュレータ

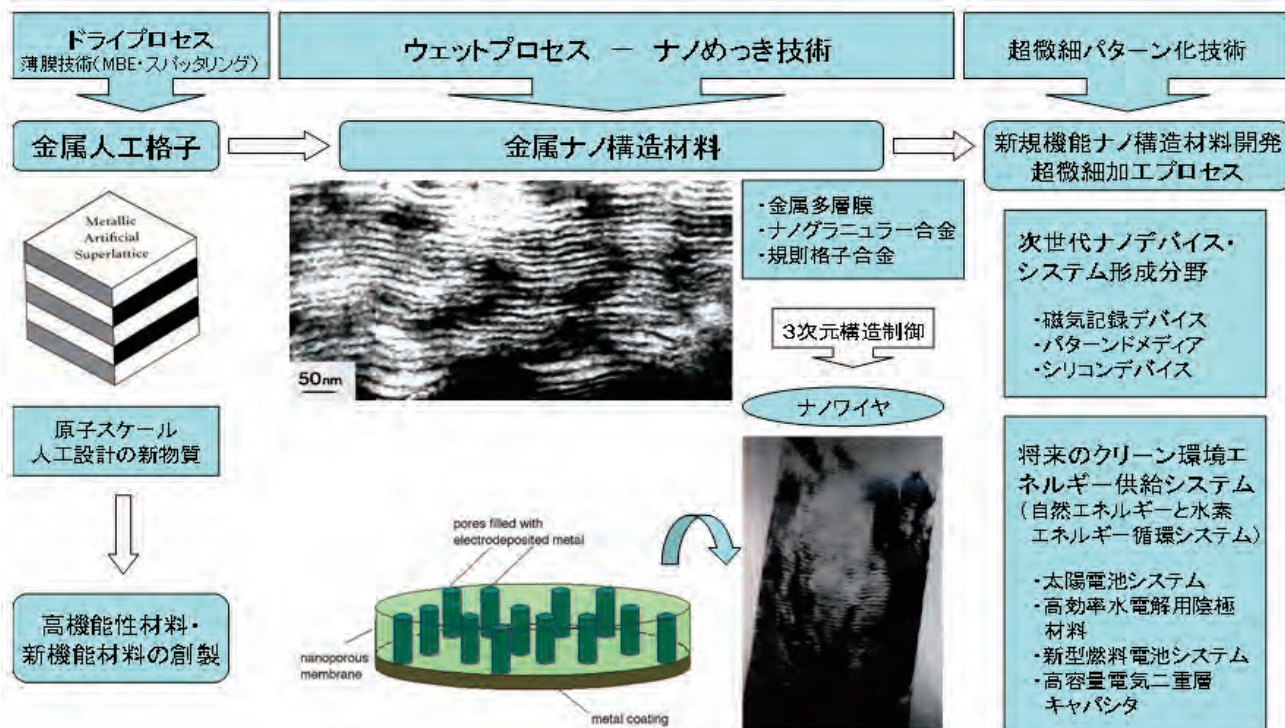
研究タイトル：

ウェットプロセスによるナノ構造材料の創製と機能

氏名：	常光幸美／JYOKO Yukimi	E-mail：	jyoko@fukui-nct.ac.jp
職名：	教授	学位：	工学博士
所属学会・協会：	The Electrochemical Society Active Member, (公社)日本金属学会, (公社)電気化学会, (一社)表面技術協会		
キーワード：	ウェットプロセス, 電気化学プロセス		
技術相談 提供可能技術：	・めっき技術 ・めっき微細配線形成プロセスのキャラクタリゼーション		



研究内容：



研究タイトル:

機能性セラミックス材料の合成と応用

氏名: 高橋 奨 / TAKAHASHI Susumu E-mail: takahashi@fukui-nct.ac.jp
職名: 助教 学位: 博士(工学)

所属学会・協会: 日本セラミックス協会

キーワード: 結晶構造・組成制御, 誘電体材料、燃料電池、機能性セラミックス材料

技術相談

提供可能技術:

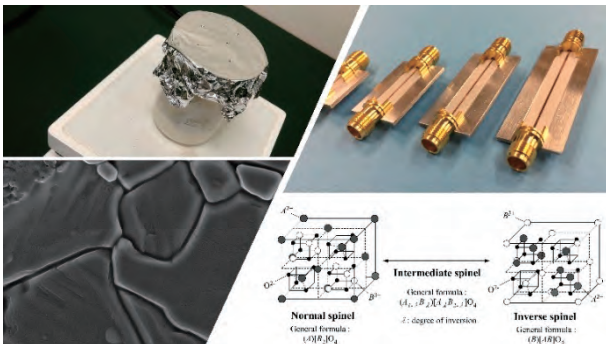
- ・ミリ波帯への活用に向けた無機有機複合誘電体材料の開発。
- ・固体酸化物形燃料電池および電解質材料の開発
- ・セラミックス材料評価: 電気伝導率, 熱伝導率, 表面観察, 組成分析, X線回折
- ・セラミックス粉体合成: 異方性粒子, 高結晶性粒子, 中空粒子



研究内容:

【高周波誘電体材料の開発研究】

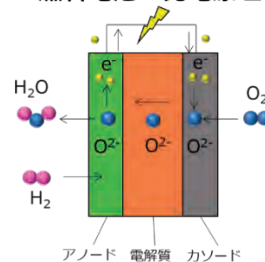
誘電体材料は通信機器における基板材料として利用されています。近年の高速・大容量通信の加速に伴い、誘電体材料も低誘電率・低誘電損失を有する特性が求められてきています。我々の研究室では、セラミックスの結晶構造を設計・制御することで、誘電特性、電気特性などセラミックス物性の最適化、新規セラミックスの材料開発を行っています。また、それらの物性と結晶構造との相関性について研究を行っています。また、高周波誘電体では、無機材料(セラミックス)と有機材料(ポリマー)との複合基板材料も近年注目されており、セラミックス粉体の合成も行っています。特に、形態や結晶性を制御したセラミックス粒子を合成することで、ミリ波帯領域で利用可能な誘電・熱的特性を兼ね備えた新規高周波用複合誘電体材料の開発も行っています。



【固体酸化物形燃料電池の研究】

燃料電池は、水の電気分解の原理を利用し、水素と酸素を化学反応させることで、水と電気(エネルギー)を生成する装置です。CO₂などの有害な排出物が無く、環境に優しいエネルギーであり、水素のもつエネルギーの83%を理論的に電気エネルギーに変換できるといった高い発電効率でもあります。本研究室では、低温(100~200℃)での作動が可能な固体酸化物形燃料電池の開発に向けて、新たな電解質材料の創成・開発に取り組んでいます。特にプロトン伝導性をもつ電解質材料の合成・探索に向けて、セラミックスの材料設計や結晶構造解析を行うことで、燃料電池特性とセラミックスの結晶構造との相関性について研究を行っています。

燃料電池の発電原理



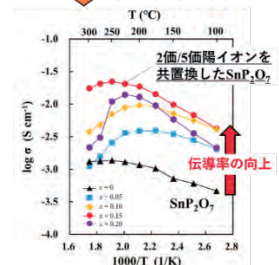
< 特長 >

- ・高効率エネルギー
- ・クリーンエネルギー
- ・燃料の多様性

燃料電池セルの作成



伝導率評価



提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

電気炉・KBF848N2(光洋サーモシステム、最高温度:1100℃)
スピナー・MS-B100(ミカサ)
ボールミル粉砕機・AV-1(アサヒ理化製作所)
真空加熱プレス機・IMC-148C(井元製作所、最高加熱温度:300℃)

研究タイトル：

近接気化型 CVD 法による薄膜の合成 / 構造規制材料の合成

氏名： 西野純一／NISHINO Junichi E-mail: nishino@fukui-nct.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 日本セラミックス協会, 電気化学会, 表面技術協会

キーワード： 薄膜, 化学気相析出(CVD)法, ナノ材料, 構造規制

技術相談

提供可能技術：

- ・
- ・
- ・



研究内容：

近接気化型 CVD 法による薄膜の合成

キャリアーガスを用いない近接気化型化学気相析出(CVD)法の研究をしています。下図にビス 2,4-ペンタンジオナト亜鉛を原料としてこの合成法により Si 単結晶基板上に 150℃の低温で合成した酸化亜鉛膜を図 1 に示します。

構造規制材料の合成

構造を規制したナノ銀の合成をしています。条件を選ぶことによって高校の化学の教科書に載っている dendrite (樹枝) 状の銀樹でない銀が合成できます。図 2 にアクリル基板上に合成したひも状の銀, 図 3 にアクリル基板上に合成した部分的に配列した銀ロッドをそれぞれ示します。

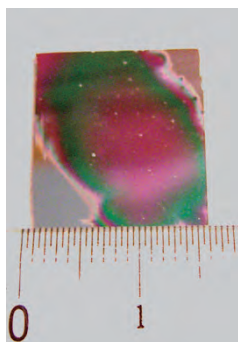


図 1 基板温度 150℃で合成した ZnO 膜

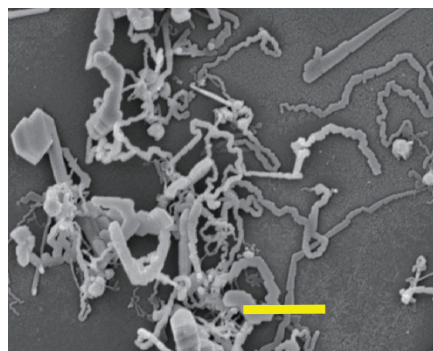


図 2 ひも状の銀

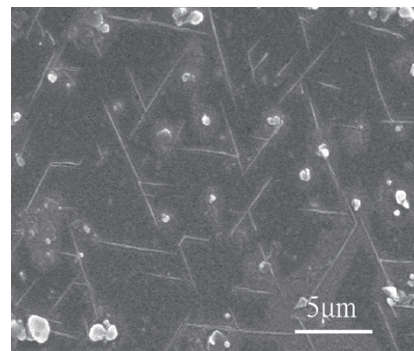


図 3 部分的に配列した銀ロッド

研究タイトル:

ガラス材料の作製・評価・測定

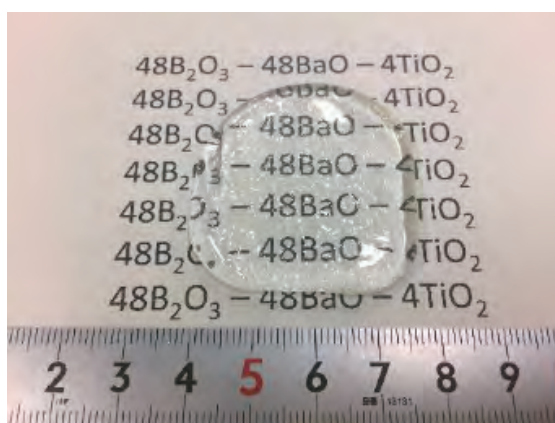
氏名:	長谷川 智晴／ HASEGAWA Tomoharu	E-mail:	hasegawa@fukui-nct.ac.jp
職名:	准教授	学位:	博士(理学)
所属学会・協会:	Optical Society of America, 日本物理学会, 応用物理学会		
キーワード:	ガラス・セラミックス・光吸収・屈折率・光ファイバー		
技術相談 提供可能技術:	・分光測定 ・XRD 測定 ・熱処理、切断、加工などの後工程		



研究内容:

多成分系ガラス材料の組成設計から物性測定まで一貫して幅広く行っています。ガラスは成分の調整で、様々な物性をコントロールすることができます。また、ガラスは板、球、ファイバーなど様々な形状に加工できることから、幅広い分野で応用されています。ガラスを熱処理すると、微小な結晶が数多く生成したセラミックスになります。成長した結晶の性質を上手に用いると、ガラスの物性を飛躍的に向上させることも可能になります。

私の研究では、ガラス中にどのように結晶が成長するかを詳細に調べ、その過程で物性値がどのように変化するかを観察しています。具体的には、ホウ酸塩系ガラスの結晶化過程で、誘電率がどのように変化するかを調べています。そのほかに、可視域での光学特性の変化も調査しています。光の波長より十分小さい結晶を数多く生成することができれば、「安価で作りやすい」「高屈折率・高誘電率」のガラスが実現できるものと期待しています。(図は、当研究室で作製した融液状態のガラスとガラス試料の写真。)



提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	
ガラス溶解用電気炉	
熱処理用小型電気炉	
誘電分散測定用 LCR メーター	
ガラス研磨機	
紫外～近赤外分光光度計	

研究タイトル：

加工と安全



氏名： 藤田 祐介／FUJITA Yusuke E-mail: yusuke_f@fukui-nct.ac.jp

職名： 技術専門職員

学位：

所属学会・協会： 日本機械学会

キーワード： 機械加工, 機械設計, 安全

技術相談
提供可能技術：

・親子を対象とした公開講座や出前授業などに参画し、簡単な実験やおもちゃ作りを通して参加者の科学への興味関心を育む活動を行っています。
・WGBT の測定機器の製作

研究内容：

【機械加工における安全】

職業訓練指導員(機械系)の免許を保有し、また、民間企業の加工現場での経験を活かし、工作機械を使用した加工をより良く学生に伝える研究を重点的に行っています。その中には、加工の様子を直接見ることができない状況における観察装置の開発や、観察手法の検討なども含まれています。

●日頃の活動内容

ものづくりを行う際に起こりうる事故を調査し、それらの原因及び対策をまとめ、安全にものづくりを行う環境作りを考案しています。それらを元に機械加工について素人である学生に対し、工作機械を扱う際の危険なポイントを、実例を取り上げて指導しています。



研究タイトル：

ジスルフィド結合の性質を利用した接着・吸着材料

氏名： 古谷 昌大／FURUTANI Masahiro E-mail: furutani@fukui-nct.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 高分子学会，日本化学会，日本接着学会，材料技術研究協会，アメリカ化学会，化学工学会

キーワード： ジスルフィド結合，接着，吸着，UV硬化，解体性，再接着性，重金属，タンパク質

技術相談
提供可能技術：
・ジスルフィド結合の化学的性質を用いた材料に関するご相談や技術提供
・光接着やUV硬化に関するご相談や技術提供
・その他有機材料，有機高分子材料全般に関するご相談



研究内容：

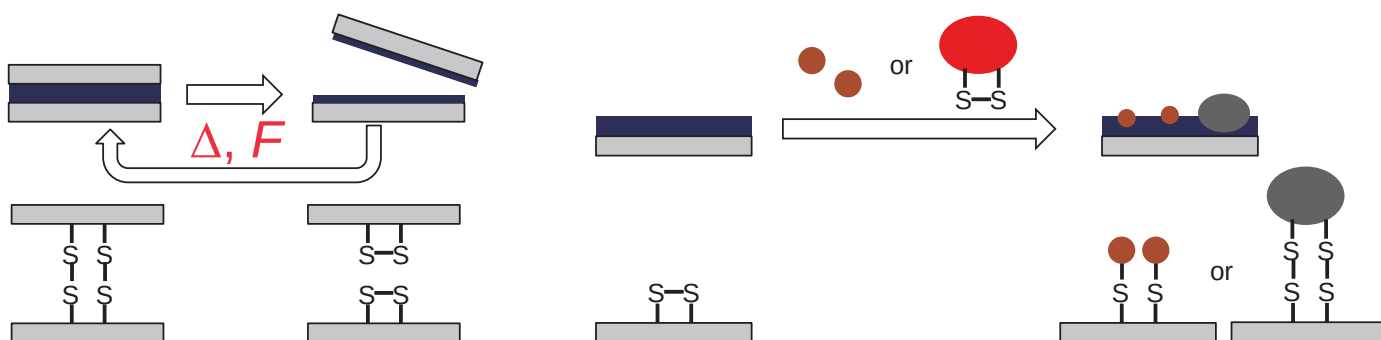
【加温と微小応力で解体する接着材料】

従来の接着剤で一度接着させたものを解体することは困難であり，再使用(リユース)や再利用(リサイクル)の妨げになっています。そこで我々は，ジスルフィド(SS)結合どうしの交換反応に着目し，これを組み込むことで解体性を付与した新規接着材料を提案しています(下図左)。室温下で使用しているときは，SS結合は共有結合として接着層の強度を高く維持します。一方，使用後100℃程度で加熱したときは，SS結合どうしの交換反応が活発になり，わずかな応力印加で接着層が解体します。さらに，接着対象の表面に残った接着層は，再び100℃程度で加熱すれば再接着に使用可能となります。

SS結合の性質を利用した解体性接着材料の例は他にも見られますが，①短時間・非加熱・局所的な接着が可能な光(UV)接着であること，②被着体(接着対象の基材)のみならず接着剤のリユースも目指していることの2点が，我々の接着材料の独自性として挙げられます。

【重金属イオン・ウィルス用吸着材料】

水中や空気中の汚染物質を確実に除去する技術は，人々の健康な生活や持続可能社会の実現に欠かせません。我々は，硫黄(S)原子と重金属イオンの強い相互作用に着目し，SS結合を組み込んだ上記のUV硬化材料を重金属イオン吸着材としても評価しています(下図右)。また，多くの場合タンパク質はSS結合を含んでおり，これらとSS結合を含むUV硬化材料の間で交換反応が起こることで，ウィルスを含むタンパク質が吸着・変性すると考えています。



研究室ホームページ：<http://www.ce.fukui-nct.ac.jp/staff/furutani/>

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
卓上引張り試験機(株式会社エー・アンド・デイ社製，MCT-2150)	鉛筆ひっかけ硬度試験器(株式会社佐藤商事社製，MJ-PHT)
UV光源(Aanalytik Jena GmbH社製，3UVTM-36UVLamp)	紫外可視分光光度計(UV-Vis，Agilent Technologies社製，Cary60)
光量計(ウシオ電機株式会社製，UIT-250/UV-D-C365 および UV-D-C254)	ゲル浸透クロマトグラフ(GPC，日本ウォーターズ株式会社製，Breeze QS System，キャリア溶媒：DMF with LiBr (10 mM))
アプリケーション(テスター産業株式会社製，SA-201)	接触角計(株式会社エキシマ社製，SIImage Entry 6)

研究タイトル：

ガラスの失透と塩害劣化抑制の研究



氏名：	堀井 直宏／HORII Naohiro	E-mail：	naop@fukui.kosen-ac.jp
職名：	技術専門員	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	応用物理学会, 日本セラミックス協会, 応用物理教育分科会		
キーワード：	シリカガラス, 石英, 失透, 結晶化, ガラス, 失透抑制		
技術相談 提供可能技術：	・汚染によるガラスの劣化機構についての技術相談 ・サンプルの表面観察や表面分析等による技術的問題の特定		

研究内容：

【ガラスの失透(結晶化)メカニズムと塩害劣化抑制の研究】

ガラスと不純物の接触, 特にアルカリ金属などを含んだ塩との接触によって, 温度上昇時に失透というガラスの劣化現象が発生します。これは, ガラス内に結晶核が生成し, 非晶質のガラスが結晶に変化することによって生じる現象です。結晶化による失透は, 純粋な SiO_2 のみで出来たシリカガラス(石英ガラス)の場合は, 1200°C 以上の高温で生じますが, 不純物が存在することによって, 量にも左右されますが, 発生温度は 500°C 以上低下します。

窓ガラスなどの素材には, ガラスの加工性を上げるために Na や Ca が含まれており, 既に不純物が含まれた状態であるため, 容易に結晶化による失透が起こります。陶芸における釉薬や粘土にもガラスが含まれるものが多く, 焼成の段階で失透に起因した割れ等が生じる場合があります。

ガラスの中でも, シリカガラス(石英ガラス)は, 極めて高純度の SiO_2 によって形成されるガラス材料です。シリカガラスは, 電気絶縁性, 耐薬品性, 耐熱性, 優れた光透過性等, 産業用材料の優等生として広い応用範囲を持っています。しかし, 不純物が存在する環境では, 失透によるガラスの性能の劣化が発生し, 結果的に製品寿命を左右する問題となります。

筆者らは, シリカガラスと塩(NaCl)が不純物として接触した場合に生じる, 塩害によるガラスの失透劣化メカニズムについて研究を行っています。

結晶化の前段階では, 室温付近の温度においてもガラス表面が Na イオンや表面の OH 基と反応することによって, 部分的にガラス中の Si-O の網目ネットワークが切れた状態が発生します。ガラス成分が含まれるコンクリートや耐熱材などの塩による経年劣化も, ガラスと不純物の接触点での反応を起点として生じていると考えられます。

ガラスと反応させる不純物の種類や水蒸気等の影響を明らかにすることにより, ガラスおよびガラス成分を含む材料の塩害劣化の抑制についての研究も行っています。失透抑制技術として, シリカガラスに塩素などのハロゲン添加を行うことで, 失透の内部への進行を抑制できることを見出しています。

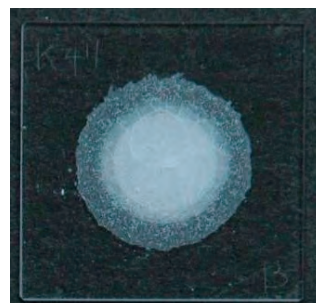


図 1 NaCl によって同心円状に失透したシリカガラスの表面

ガラス成分に起因する劣化についての相談だけでなく, 走査型電子顕微鏡(SEM), エネルギー分散型 X 線分光分析(EDS), X 線回折装置(XRD), 自記分光光度計などを用いた素材の表面観察や結晶相分析および元素分析や分光透過率測定によるサンプル評価などの対応が可能です。

提供可能な設備・ 機器：

名称・型番(メーカー)

走査型電子顕微鏡(SEM)	
エネルギー分散型 X 線分光分析(EDS)	
自記分光光度計 UV-3600 Plus	
X 線回折装置(XRD) RIGAKU Ultima IV	

研究タイトル：

外部配位サイトを有するフタロシアニンの合成と機能制御

氏名： 松井栄樹／MATSUI Eiki

E-mail： eiki@fukui-nct.ac.jp

職名： 教授

学位： 博士(薬学)

所属学会・協会： 日本化学会, 日本薬学会, 高分子学会

キーワード： 機能性色素, 天然高分子材料, 金属錯体, 生体分子, 有機合成・同定

技術相談

提供可能技術：

- ・レンズの UV, IR, FL, CD 等を用いた光学特性評価
- ・天然資源材料の有効活用, 溶解, 樹脂化, 及び質量分析
- ・各種有機化合物の合成, 構造決定, 及び色素分子の特性, 機能性評価

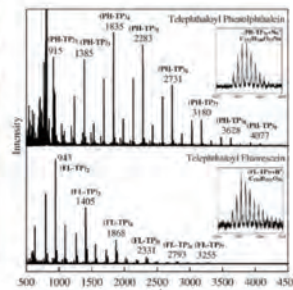
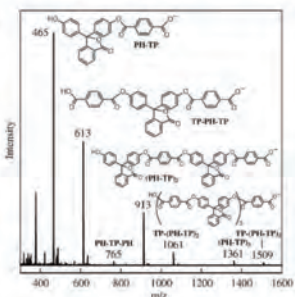
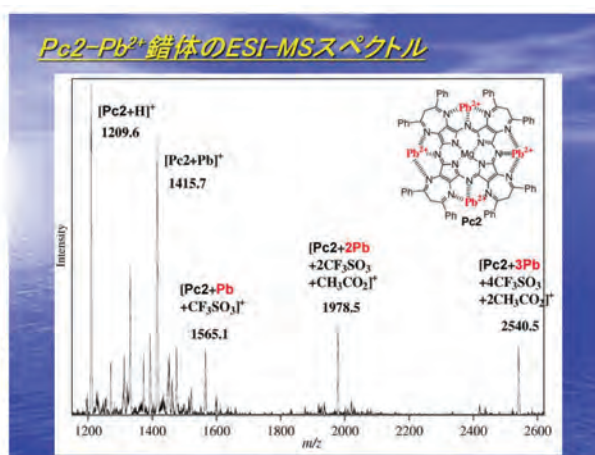
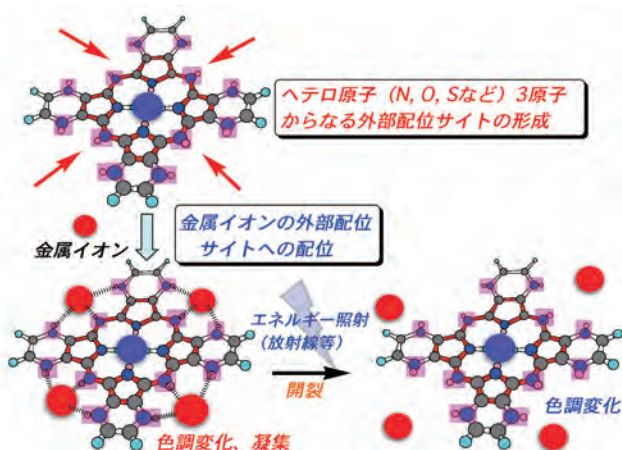


研究内容：

【外部配位サイトを有するフタロシアニンの合成と機能制御】

フタロシアニンの基本骨格は、ポルフィリン環のメソ位が窒素で置換され、ピロール環の外側にベンゼン環が融合した構造を有している。通常、フタロシアニンは中心にのみ金属配位能を持つが、我々はフタロシアニンの外部にヘテロ環とメソ位の3か所に窒素原子から成る外部配位サイトを導入し、外部配位サイトへの金属配位と配位に伴う機能発現について研究を行っている。

<http://www.ce.fukui-nct.ac.jp/staff/eiki/company.html>



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

超伝導核磁気共鳴装置 (400MHz NMR) Bruker AVANCEIII

紫外可視吸収スペクトル装置 (UV) Hitachi U-0080D

顕微赤外吸収スペクトル装置 (IR) Perkin Elmer Spotlight200

円偏光二色性スペクトル装置 (CD) Jasco J-500A

大気圧イオン化質量分析装置 (ESI, APCL, APPI) Sciex API2000

蛍光スペクトル装置 (FL) Hitachi F-4500

レーザー脱離イオン化質量分析 (MALDI) Bruker MicroflexLRF

レーザーラマン測定装置 B&WTEK BTC112E 532 nm, 660 nm

ガスクロマトグラフ質量分析装置 (GC-MS) Shimadzu QP5000

液体窒素製造装置 Iwatani NL-50

研究タイトル：

電子結晶を用いた微小機械振動子素子の研究



氏名： 松浦徹／MATSUURA Toru E-mail: t-matsuura@fukui-nct.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 日本物理学会, 応用物理学会

キーワード： 電気輸送計測, MEMS/NEMS, 低温実験, 超伝導・密度波

技術相談
提供可能技術：
・電子素子の温度特性測定・評価
・
・

研究内容：

これまで、“電荷密度波(CDW)”状態をしめす TaS₃, NbS₃ などを用いて微小な電気-機械振動素子(MEMS または NEMS と呼ばれる)の研究を行ってきました。

CDW は、異方的な電気伝導体特有のフェルミ面の不安定性(パイエルス不安定性)に起因して、電子密度とフォノンがフェルミ波数の2倍の波数で周波数0の疎密波を作る巨視的量子状態です。CDW状態では、電子密度が超格子構造を組んだ電子結晶を作ります。電子結晶は、通常の固体結晶と同じく弾性や剛性が生じるため、電子物性と機械特性の間に強い相互作用を持っていると期待されます。

相互作用がより強い物質系を見つかることができれば、MEMS/NEMS を単純にかつ小型化・集積化でき、量子力学・熱力学などの基礎物理の実験や、生体・医療への応用が考えられます。これまでに、図に示すような CDW ナノ振動子を作成し、電子物性-機械特性間の相互作用の測定を行っています。

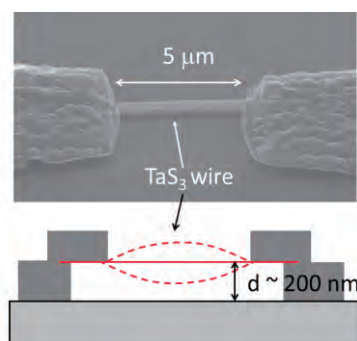


図. 作成した両端支持梁型 CDW ナノ共振子の走査電子顕微鏡像と模式図

研究タイトル：

塑性加工製品の高付加価値化

氏名： 村中貴幸／MURANAKA Takayuki E-mail: muranaka@fukui-nct.ac.jp

職名： 教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 日本機械学会, 日本塑性加工学会

キーワード： 板成形, 焼付き, チタン

技術相談

提供可能技術：

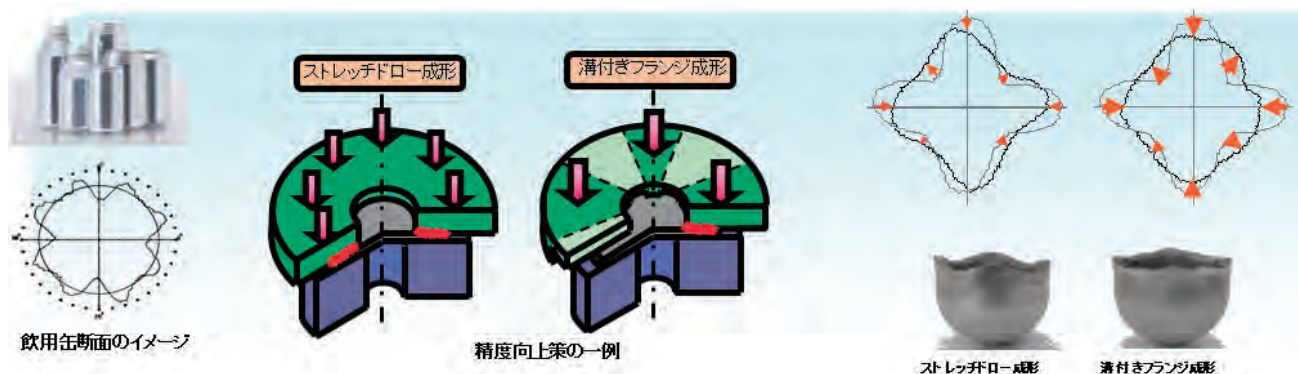
- ・チタン製眼鏡枠のプレス成型法の開発
- ・均一肉厚容器の成型法開発
- ・先端マテリアル創成・加工技術研究会メンバー
- ・中小企業産業大学校「機械工学の基礎」講師



研究内容：

● 容器製品の精度向上策の開発

密閉性, 耐圧性の向上を目指したより真円に近い容器の成形
⇒金型の精度に依存しない変形時の材料流動を活用



● Ti 成形の焼付き防止策の開発

工業用チタンの画期的プレス成型技術
⇒酸化皮膜を用いない新しい焼付き防止策の開発

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

500kN 油圧式万能試験機

精密万能試験機

研究タイトル：

機械工作実習における機械加工

氏名： 山田 健太郎 / YAMADA Kentaro E-mail: k-yamada@fukui-nct.ac.jp

職名： 技術専門職員

学位：

所属学会・協会： 日本機械学会，溶接学会，日本溶接協会

キーワード： 機械設計，機械加工

技術相談

提供可能技術：

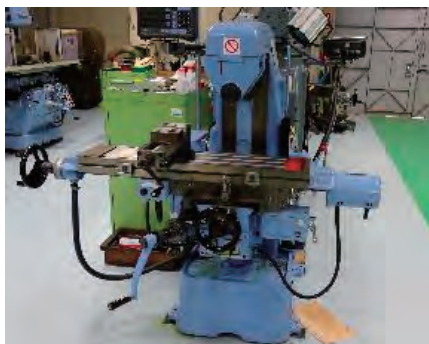
・
・
・



研究内容：

初めて機械を使用する学生が多いため，初心者に分かりやすく機械操作の説明や機械の構造などを説明しています。世の中には NC 機械のように自動で加工する機械も多くありますが，やはり機械を手動で操作してみて，実際に「もの」を加工する感触を体験したり感じたりすることは，非常に大事だと思います。このような体験が多くできるような実習方法を模索，検討しています。

また，より直感的に分かりやすくするため，視覚に訴えるように写真，図などを多く利用した資料等を作成しています。初心者でも理解できるように，工作機械の構造や操作方法などの資料を工作機械メーカーの取扱説明書などを参考にして作成しています。



研究タイトル：

セルロースについて



氏名： 山本裕之/YAMAMOTO Hiroyuki E-mail: hiruyoki@fukui-nct.ac.jp

職名： 嘱託教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： セルロース学会、繊維学会

キーワード： セルロース、紙、構造、ナノファイバー

技術相談

提供可能技術：

- ・
- ・
- ・

研究内容：

セルロース繊維は市販されている高性能繊維であるケブラーやベクトラン繊維と同じように極めて高い弾性率と強度を有しており、複合材料の繊維や環境調和型材料として十分期待できる素材である。しかし、セルロースはその分子鎖の凝集性が極めて強く、特殊な溶媒、あるいは特殊な条件下でしか溶解しないことや、水を吸収しやすい分子特性を持つため、応用範囲が制限されてきた。この問題を解決する一つ的手段として、セルロースのナノファイバー化がある。そこで、安価で実用的なセルロース材料であるパルプ、綿などを、効率的にナノファイバー化する技術を確立し、このセルロースナノファイバーを用い、バイオマス由来の高機能性複合材料(グリーンコップोजット)や、疎水性セルロースフィルムなどを開発することが研究テーマである。

研究タイトル:

環境に優しい医薬品等の材料開発



氏名: 山脇 夢彦 / YAMAWAKI Mugen E-mail: yamawaki@fukui-nct.ac.jp

職名: 助教 学位: 博士(工学)

所属学会・協会: 日本化学会、有機合成化学協会、光化学協会

キーワード: 反応有機化学, 有機合成化学, 有機光化学, ファインケミカル

技術相談
提供可能技術:

- ・有機化合物の合成
- ・光反応(有機光触媒を利用した)
- ・医薬品合成に関すること

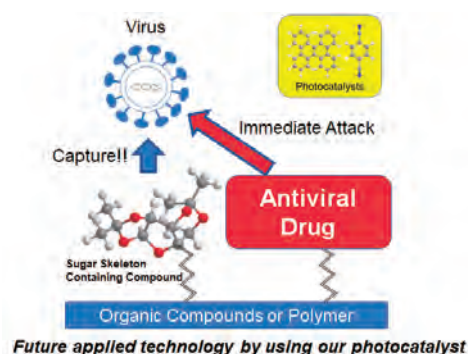
研究内容:

【二分子型可視光有機光触媒を利用した環境に優しい有機合成の開発】

近年の有機合成反応は環境問題への関心からクリーンな手法での反応が世界中で求められています。我々の研究室では現在 7 名の研究員(学生)が環境問題を解決できる新たな有機合成反応の開発を熱心に取り組んでいます。研究内容の柱として、以下のことを実施しています。

- ・二分子型有機光触媒による環境に優しい有機反応開発
- ・二分子型有機光触媒による環境に優しいポリマー(プラスチック)合成開発
- ・光反応によるフッ素化反応
- ・核酸分子のための光脱保護可能な保護基の開発

将来的な応用研究としては、高効率なウイルス材料の創成を目標としています(下図)。



また、前職では医薬品の合成開発職として勤務しており、GMP 関連のノウハウを有しております。光反応を用いたクリーンな有機合成を実製造へ応用する取り組みは世界でも例が少ないため、希望しております。

研究室 web サイト: <http://www.ce.fukui-nct.ac.jp/staff/yamawaki/>

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	
NMR (400 MHz)	
LED-UV ライト (波長: 405 nm, 365 nm)	
IR	
UV-vis	
FL	

計測・制御部門

研究タイトル:

測定と評価

氏名: 青木宏樹 / AOKI Hiroki

E-mail: aoki@fukui-nct.ac.jp

職名: 准教授

学位: 博士(学術)

所属学会・協会:

日本体育学会, 日本体力医学会, 日本教育医学会, 日本教科教育学会

キーワード:

体力測定, 子ども, 運動遊び

技術相談

提供可能技術:

・
・



研究内容:

- ・敏捷性, 平衡性を評価する新規テストの開発
- ・幼児期, 児童期及び青年期の体力(敏捷性やパワー)に関する研究
- ・野球選手のパフォーマンスに関する研究
- ・小学校の体育授業に関する研究
- ・中学生や高校生の体育授業に関する研究

研究タイトル：

NC 旋盤の熱変形補正システムの開発

氏名：伊勢 大成／ISE Taisei

E-mail：t-ise@fukui-nct.ac.jp

職名：講師

学位：博士(工学)

所属学会・協会：日本機械学会, 品質工学会, 北陸品質工学研究会

キーワード：インテリジェントタイヤ, パラメータ設計, 機能性評価

技術相談

提供可能技術：

- ・品質工学を活用した効率的な実験計画の立案および統計的処理による結果分析
- ・品質工学に関する技術相談, 生産工程の分析・改善

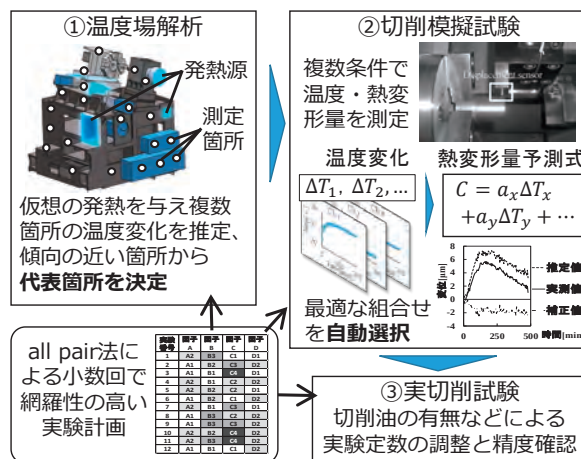


研究内容：

【NC 旋盤の熱変形補正システムの開発】

工作機械の熱変形対策のため, 少数箇所の温度測定値から熱変形を予測し, 熱変形誤差を補正する方法について研究しています。

様々な条件に対応可能な熱変形補正システムを, 経験によらず, 低コストで迅速に構築可能とするために, 熱変形解析, 実験計画を利用した少数回の試験によって熱変形予測式を導出する手法の開発を目指しています。



【自律移動ロボットの品質工学による評価】

ロボット掃除機に代表される自律移動ロボットが普及しつつありますが, その性能について定量的な指標がなく, 購入時に適切に比較・判断ができません。また, 人がいない状態で想定外の動作をして事故につながる危険もあります。

本テーマでは, 品質工学を活用し, 実際の使用条件を実験条件に取り入れた機能性評価を行い, 自律移動ロボットのロバスト性を定量化するための評価方法を検討します。



研究タイトル：

繊維機械における加工メカニズムに関する研究

氏名： 金田直人 / KANEDA Naoto E-mail: kaneda@fukui-nct.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 日本機械学会, 日本繊維機械学会

キーワード： 機構設計, 繊維機械, 画像処理, シーケンス制御

技術相談
提供可能技術：

- ・ 仮撚加工系の加工メカニズムに関する研究 ～実験・シミュレーション～
- ・ フィラメント系のモデリング ～シミュレーション～
- ・ シーケンス制御を用いた生産技術の改善 ～実験～



研究内容：

社会的
ニーズ

- 多種多様な用途に応じた加工系が必要
 - 高品質の糸が大量に生産できる仮撚加工機の開発
- 国内繊維機械メーカーと密に連絡を取り合い事前調査が容易な環境を構築済み

目的

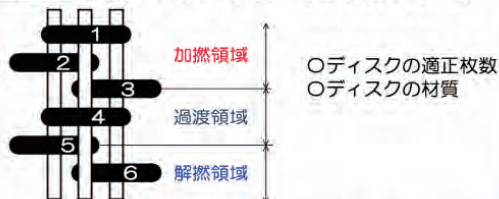
- 仮撚加工法のメカニズムの解明
- 多品種・高品質・大量生産に対応した高速生産が可能な加工機の開発

実態調査

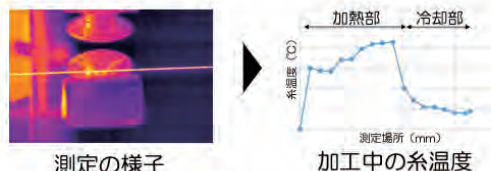
改善提案

- 仮撚加工機における加工中の糸を観察（延伸・加熱・加撚・冷却・施撚・解撚）

撚形態 見かけ糸太さ・撚角度で評価



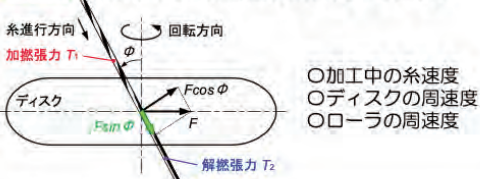
糸温度 加熱・冷却の影響を確認する



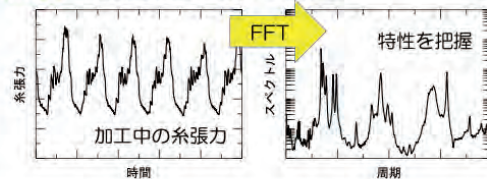
分析

評価

糸速度 各部の相対速度を把握する



振動 糸張力から評価する



情報発信

- 業界関係者への周知
日本繊維機械学会 等の学術講演会および学術論文を通じて発信
- 世間一般への周知
福井高専 HP (<https://www.fukui-nct.ac.jp>) で発信

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

万能試験機・AGS-50NX (島津製作所)	熱画像カメラ・CPA-T540S (チノー)
高速度カメラ・FASTCAM Mini UX50 (フォトロン)	FFT アナライザ・DT9837B (Data Translation)
ハイスピードマイクロスコープ・VW-9000 (キーエンス)	PLC・NJ301-1100 (オムロン), KV-8000 (キーエンス)
レーザ変位センサ・IX-360 (キーエンス)	画像センサ・FH-1050-10 (オムロン)
張力計・ETPX-500 (SCHMIDT)	メモリハイコーダ・MR8880 (日置電機)

研究タイトル：

水田用小型ロボットの研究開発

氏名： 亀山 建太郎 / KAMEYAMA
Kentaro

E-mail: k_kame@fukui-nct.ac.jp

職名： 教授

学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 計測自動制御学会，機械学会，農業食料工学会ほか

キーワード： 制御，モデリング，システム同定，信号処理，移動ロボット，農工連携

技術相談

提供可能技術：

- ・機械システムの計測・制御(モデル化，状態推定，制御，信号処理など)
- ・小型ロボットの研究開発



研究内容：

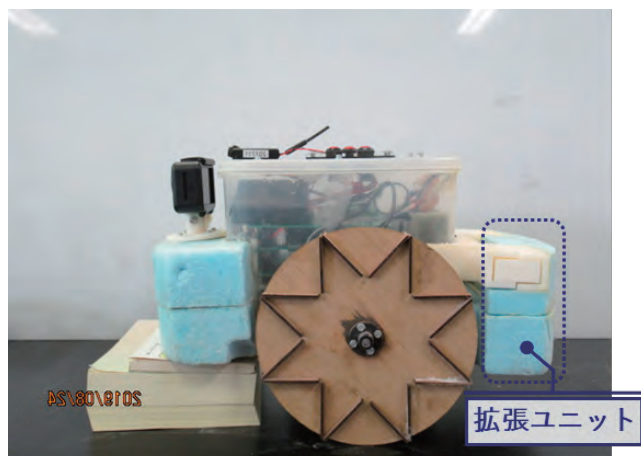
本テーマでは，水田での利用を主眼に置いた小型ロボットを題材として，フィールドロボットの研究開発を行っています。

研究の目的は，走行が困難なフィールドにおいて，自律／半自律走行をサポートするハードウェア・ソフトウェア，および，基礎技術を開発することです。

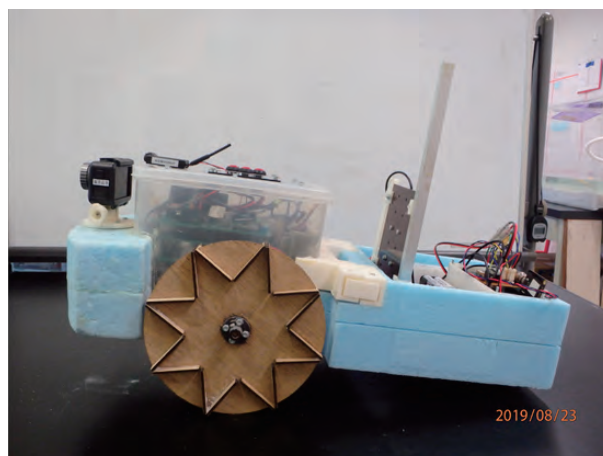
ハードウェアとしては，水田圃場内のような軟弱地盤において，座礁せず安定走行が可能な走行体の開発を行っています。

ソフトウェアとしては，信号検出・状態推定理論(カルマンフィルタなど)に基づく障害物への衝突検出・回避方法などのサポートアルゴリズムの開発を行っています。

また，農業におけるロボット・センサなどの利用にも関心を持っており，農業用小型ロボットの応用例についても研究を行っています。具体的には，本ロボットによるチェーン除草や，拡張ユニットによる多目的化，施肥量最適化のための環境計測(pH, EC)などについて試行しています。



ベースロボット



計測機能を搭載した例

研究タイトル：

暗黙知の習得に重点をおいた機械工作実習

氏名： 北川 浩和／KITADAWA Hirokazu E-mail: kitagawa@fukui.kosen-ac.jp

職名： 技術長 学位：

所属学会・協会：

キーワード： 機械加工, 汎用工作機械, エンジン分解組立て, 電子工事, 電気工作, 組込み型マイコン

技術相談

提供可能技術：

・機械実習工場に設置されている汎用, NC旋盤, 工作機械を利用した各種機械加工, 実験装置製作。
・実用電子回路設計, プリント基板製作, 電子工作から軽微な弱電工事までの実用作業。



研究内容：

【機械加工, 実技指導】

機械実習初心者にも安全で分かりやすい, 座学やテキストでは学習できない経験的知識(暗黙知)の習得に重点を置いた実技指導を行っている。

同時に機械切削加工での各種測定工具等の実用使用法, 取扱法の指導を行っている。

また, 各種工作機械を利用し実験装置, 実習補助具等の製作も行っている。

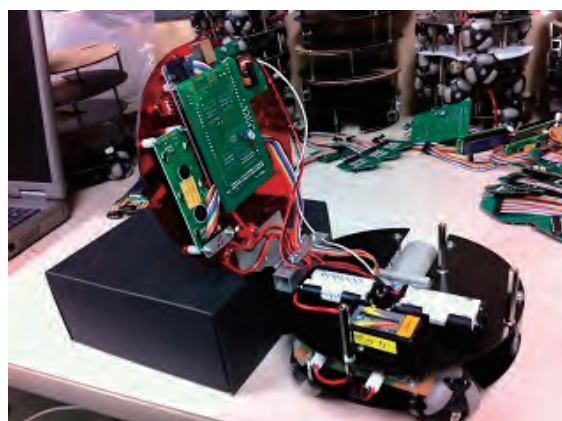
【弱電工事, 知能機械, ロボット】

機械を動かすための電気複合技術。組込み型マイコン, プログラミングを含む電子工作から, 軽微な低圧電気工事までの機械電気制御の技術指導を行っている。

プログラム学習用ロボットの開発では, 部品加工, 電子回路設計, プリント基板設計, 組み立てまで電気, 機械総合的な製作を行う。

【エコラン技術指導】

各種エコラン競技車両の設計・製作、研究支援依頼製作等を行っている。



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
旋盤	フライス盤
ボール盤	シャーリング
コンターマシン	バイス
コンプレッサー	直流電源装置
オシロスコープ他 電気測定機器	

研究タイトル:

光ファイバを応用した等方的3次元特性をもつ変位計に関する研究

氏名: 北野 公崇 / KITANO Kimitaka E-mail: kitano@fukui-nct.ac.jp
職名: 技術職員 学位: 修士(工学)

所属学会・協会: 精密工学会

キーワード: 光ファイバ変位計, 3次元特性, 等方性

技術相談

提供可能技術:

- ・光ファイバ変位計の高感度化・設計・試作
- ・各測定対象形状に対する光ファイバ変位計の特性シミュレーション
- ・三次元座標測定機用タッチプローブの寸法測定誤差低減方法の提案



研究内容:

【光ファイバを応用した等方的3次元特性をもつ変位計】

光ファイバ変位計3組を応用し、球に対する XYZ 方向(3次元)感度が等方的な変位センサを開発します。現在、幾何光学に基づくシミュレーションにより、光学変位センサの特性を研究しています(図1)。高感度かつ等方的3次元特性をもつ光学変位センサの実現により、方向依存の測定誤差をナノメートルオーダーまで小さくできる可能性があります。応用例として、三次元座標測定機のタッチプローブの研究を行ってきました(図2)。

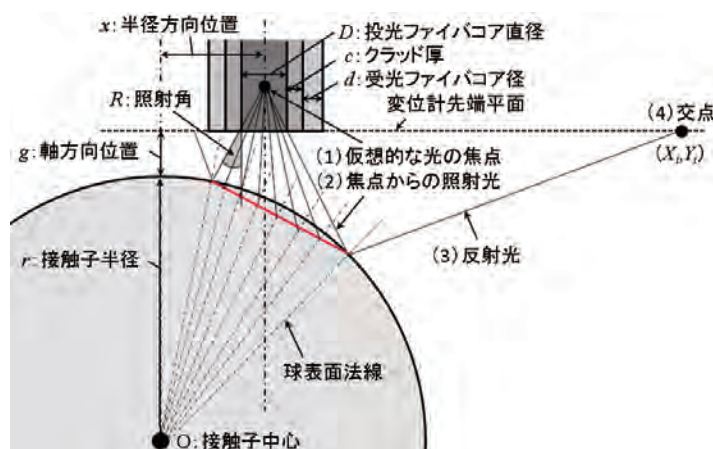


図1. 反射光線の幾何光学的な導出

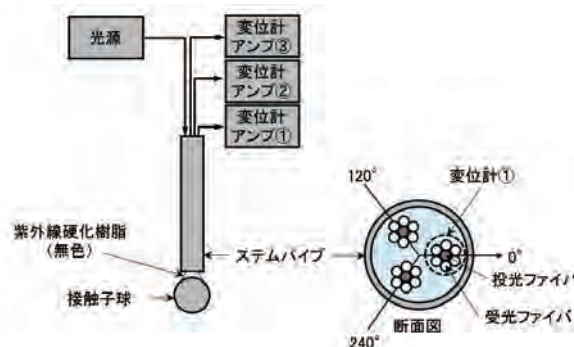


図2. 3D タッチプローブ(応用例)

研究タイトル：

ディジタル予見スライディングモード制御系構成法

氏名： 佐藤匡／SATO Tadashi E-mail: tsato@fukui-nct.ac.jp

職名： 教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： システム制御情報学会, 信号処理学会, 日本工学教育協会

キーワード： 予見制御, スライディングモード制御, 入力制限問題

技術相談

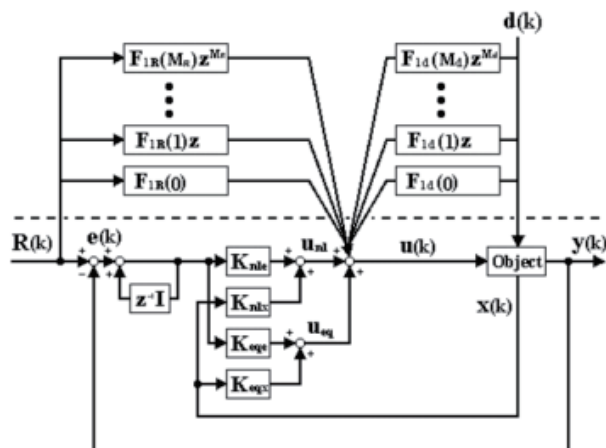
提供可能技術：

- ・予見制御系の設計法
- ・倒立2輪車制御
- ・倒立振子制御



研究内容：

- 目標値の未来情報を利用しシステムの応答改善を図る予見制御と、外乱やパラメータ変動に強い可変構造制御の一種であるスライディングモード制御の特徴を併せ持つ制御系構成法。全系を一括で設計する手法と、基本となる系に補償器を付加する手法がある。(下図)



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
倒立 2 輪車・e-nuvo WHEEL (ZMP INC.)	

研究タイトル：

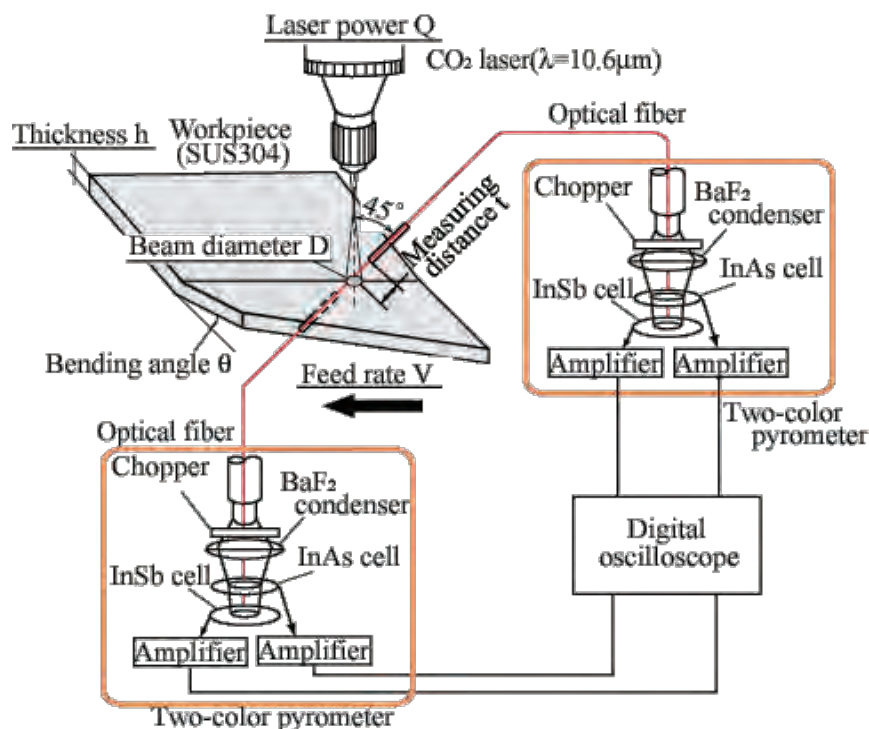
切削及びレーザ加工の加工温度モニタリング

氏名：	千徳英介／SENTOKU Eisuke	E-mail：	sentoku@fukui-nct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	精密工学会, 砥粒加工学会, レーザ加工学会, トライボロジー学会		
キーワード：	温度計測, 切削抵抗, 工具摩耗, レーザフォーミング		
技術相談 提供可能技術：	・切削加工、レーザ加工の高度化や課題解決に関する技術相談、共同研究を行います ・ ・		



研究内容：

- 目的：熱電対などでは難しい切削やレーザの加工点の温度を高応答、高精度に測定する。
- 特徴：加工点から放出される赤外線を検出し、温度に変換するため非接触で温度場を乱さずに温度測定が可能である。
- 成果例：レーザによる塑性加工法であるレーザフォーミング加工に適用し、左図のような温度モニタリングシステムを構築して、変形メカニズムの解明と加工量の制御パラメータとしての加工温度の可能性を示した。
- 社会との関わり：加工温度の観点から加工プロセスを検証し、加工技術や工具の開発に貢献する。



研究タイトル：

各種センサを用いた計測

氏名： 西 仁司 / NISHI Hitoshi E-mail: nishi@fukui-nct.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 電子情報通信学会, レーザー学会, 工学教育協会

キーワード： 信号解析, 画像解析, ものづくり

技術相談

提供可能技術：

- ・画像処理
- ・深度カメラ, LiDAR
- ・組み込みシステム

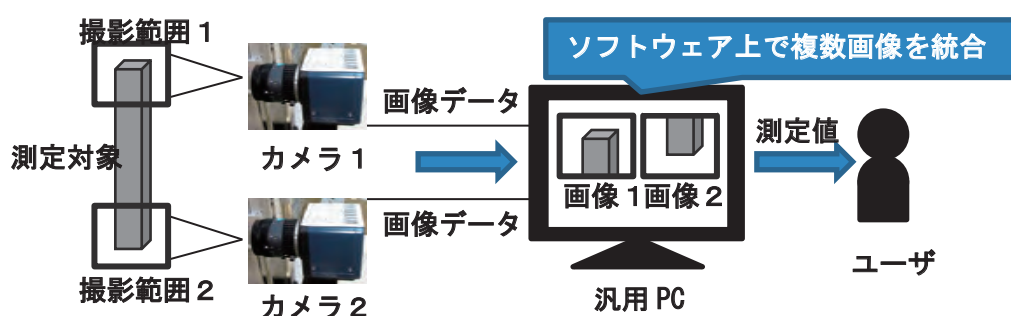


研究内容：

- 自動車の自動運転などに不可欠な周辺環境測定には、カメラ、距離センサなどを適切に配置し、それらを統合する必要がある。
- 物体計測やロボットの自己位置同定技術に向け、様々なセンサを用いた手法を検討

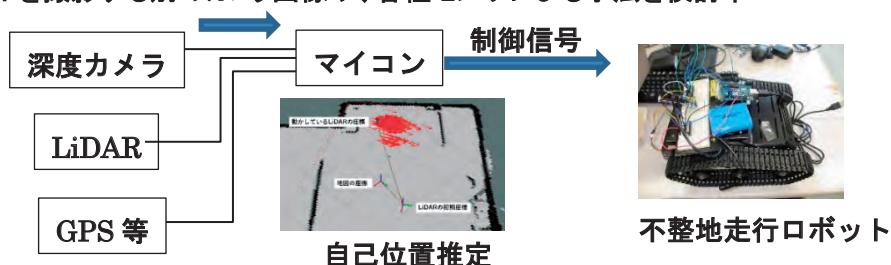
I. 複数のカメラ画像を用いた物体寸法計測手法の研究

- 求められる測定精度と測定対象の大きさ、カメラの設置位置によって、複数のカメラ画像を統合する必要がある
- カメラ、レンズの設定と、設置方法、それらのデータの統合するアルゴリズムを検討中



II. 不整地でのロボット自己位置同定手法の研究

- 不整地走行の場合、振動が大きく、カメラ画像では自己位置同定が困難
- ロボットを撮影する別のカメラ画像や、各種センサによる手法を検討中



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

深度カメラ(Intel RealSense Depth Camera D415)

LiDAR(RPLIDAR A2M8)

研究タイトル：

複合現実(MR)を用いた教材開発

氏名： 林田 剛一／HAYASHIDA Koichi E-mail: hayashida@fukui-nct.ac.jp

職名： 技術職員

学位：

所属学会・協会： 日本機械学会，日本繊維機械学会

キーワード： 複合現実，機械設計，仮撚加工，シーケンス制御，空圧機器

技術相談

提供可能技術：

- ・シーケンス(PLC)制御を用いた簡易的な装置製作
- ・複合現実の基礎
- ・流体計測(熱線)
- ・科学・工学の面白さを伝える出前授業等



研究内容：

複合現実(Mixed Reality)を用いた教材の開発を行っています。例えば，工作機械の扱いに関して複合現実空間内のホログラム等を用いて学べるようになれば，①工作機械の設置コストが不要，②オンデマンド形式の教材にすることで時間的制約が無くなる，③怪我の心配がない，等の利点があります。機械を専攻する学生には学習補助のツールとして，機械系以外の学生には基礎を学べる教材として実装することを目指に取り組んでいます。



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
Hololens2(株Microsoft)	

研究タイトル：

AI 技術をビジネスに活用する研究

氏名： 村田知也／MURATA Tomonari E-mail： murata@fukui-nct.ac.jp

職名： 講師 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 情報処理学会, ロボット学会, 教育システム情報学会

キーワード： AI, ディープラーニング, プログラミング, 教材開発, ゲーム

技術相談
提供可能技術：
・AI 活用
・プログラミング教育
・ゲーム開発

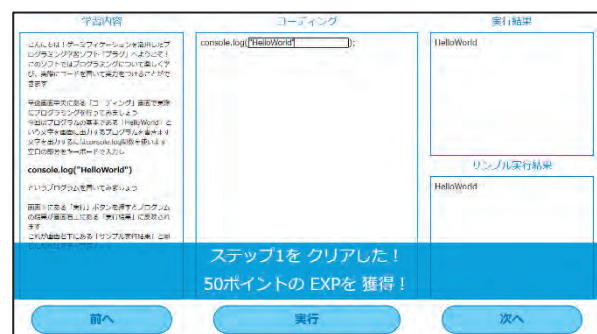


研究内容：

- AI 技術であるディープラーニングを使って、打音検査をサポートするシステムを開発している。打音検査とは構造物をハンマーで叩くこと(打音)で、異常があるかどうかを検査することである。構造物が老朽化しているかどうかを調べるためにトンネルや橋など、さまざまなところで打音検査が行われている。ただ、熟練の点検員による判断が必須であったり、既存のシステムは大掛かりで高額であったりするため、誰もが簡単に打音検査ができるシステムを開発が必要であり、現在、それを開発している。また、それをビジネスにつなげ学生とともに起業し、システムの運用を進めている。
- プログラミングが小中学校で必修科目となり、情報教育の導入が低年齢から進められることとなった。さらには高校では情報といった科目ができ、大学入学共通テストに導入されることとなった。本研究室ではそれらに応じた教材の研究開発を行なっている。また、プログラミング中級者(高専生 3 年以上)が興味を持って継続的にプログラミング学習ができるように、ゲーム開発を応用した教材作りを行なっている。さらに会社を起業したとしてソフトウェア開発のシミュレーション演習を通じて、ソフトウェア工学を学習する実践をしている。



無響室で打音録音の様子



ゲーミフィケーションの活用した
プログラミング教育アプリ

- 他に、AI 技術の応用として、自転車用のスマートドライブレコーダーを開発中である。自動車や歩行者をディープラーニングの技術を使って検出したり、スピード抑制機能を搭載したり、開発を進めている。

研究タイトル：

放射線計測に関する研究

氏名： 米田知晃／YONEDA Tomoaki E-mail: yoneda@fukui-nct.ac.jp

職名： 教授 学位： 博士(理学)

所属学会・協会： 応用物理学会, 米国物理学会, 日本工学教育協会

キーワード： イオンビーム, 放射線, センサ, 回路設計

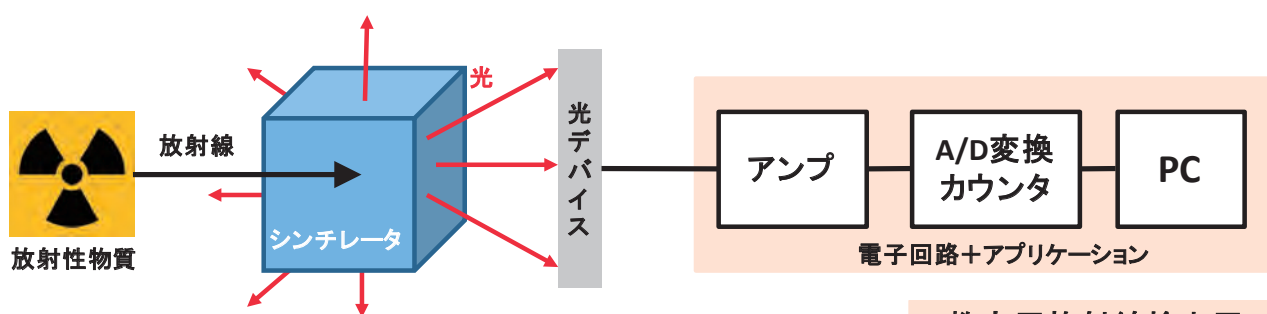
技術相談

提供可能技術：

- ・放射線計測
- ・イオンビームと固体の相互作用
- ・マイコンを用いたセンサ計測



研究内容：



シンチレータの研究

- ・一軸加圧形成とマイクロ波焼結によるセラミックシンチレータの研究
- ・蛍光材料に関する研究

光デバイス材料の研究

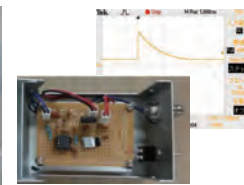
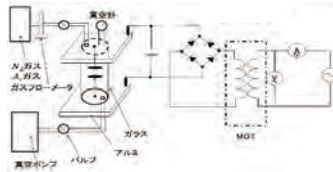
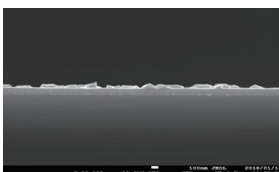
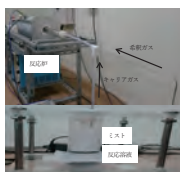
- ・ミストCVD法による酸化ガリウム薄膜成長(深紫外センサ)
- ・Si基板上的鉄シリサイド薄膜成長

教育用放射線検出用電子回路に関する研究

- ・GM管を用いた簡単な放射線検出回路
- ・PINフォトダイオードを用いた放射線検出回路
- ・波形整形回路とカウンタ回路
- ・CsI(Tl)シンチレータとMPPCを用いた放射線検出回路
- ・PHA(Pulse Height Analysis)回路

実験装置の自作(卒業研究)

- ・家庭用電子レンジを利用したマイクロ波加熱装置
- ・ミストCVD装置
- ・DCスパッタ蒸着装置



高専や大学での工学教育に活用することができる放射線検出器および検出器からの出力信号を検知するための電子回路に関する研究を行っています。放射線検出器には、放射線が照射されると発光するシンチレータや光検出デバイスなどがあり、計測するために様々な回路やマイコンなどを用いる必要があります。高専でのものづくり教育を推進するために、実験装置の試作から評価まで自ら手を動かしながら研究を進めています。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

ゲルマニウム半導体検出器	SEIKO EG&G, MOBIUS-B GEM40 MCA-7a
NaI(Tl)シンチレーションスペクトロメータ	FUI Japan, 3 インチ NaI(Tl) プローブ PRO-3001 MCA-13001
レーザー加工機	トロテック, Speedy 100 (60W CO2+30W Fiber)
基板加工機	ミッツ, Auto Lab W

Advanced Research Center for Regional Cooperation of
NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY (KOSEN), FUKUI COLLEGE

独立行政法人国立高等専門学校機構
福井工業高等専門学校 地域連携テクノセンター
〒916-8507 福井県鯖江市下司町
TEL (0778) 62-1881 (総務・地域連携係)
FAX (0778) 62-2597
E-mail soumu@fukui-nct.ac.jp